

令和4年度
久留米市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
報告書
(分析編)

令和5年3月

久留米市

目 次

第1章 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査票項目.....	1
3 調査の性格.....	1
4 回答者の属性.....	2
5 日常生活圏域について.....	3
6 主な指標の算出方法.....	4
7 調査結果の表示方法.....	5
第2章 調査結果の概要.....	6
1 家族構成・生活状況.....	6
2 生活機能評価及び日常生活自立度.....	18
3 社会参加.....	45
4 その他.....	65

第1章 調査の概要

1 調査の目的

令和6年度から令和8年度までを実施期間とする「久留米市第9期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」策定の基礎資料とすることを目的として、国から示された介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の質問項目をもとに、高齢者の生活実態や社会参加の状況等を把握するために実施しました。

2 調査票項目

(1) 国が示している項目

○介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の質問項目

(2) 市が追加している項目

○利用している情報端末・行政からのお知らせ等の入手についての質問項目

○コロナ禍の生活についての質問項目

○地域包括支援センターについての質問項目

○セーフコミュニティの取り組みについての質問項目(転倒予防、入浴時の注意、高齢者虐待防止、防災)

3 調査の性格

(1) 調査地域 久留米市全域

(2) 調査対象及び回答状況

65歳以上の5,000人を抽出(令和4年11月1日時点)

調査対象		対象者数 (人)	有効回収数 (件)	回収率
一般高齢者	久留米市の介護保険第1号被保険者で、市内在住の方。ただし、要介護(要支援)認定者を除く。	3,500	2,215	63.3%
要支援認定者	要支援と認定され、在宅で生活している市内在住の方。ただし、要介護認知症対応型共同生活介護等の介護専用の居住系サービス利用者を除く。	1,500	864	57.6%
合計		5,000	3,407	68.1%

※有効回収数の合計には、認定状況不明の328件が含まれるため、一般高齢者と要支援認定者の合計(3,079件)とは一致しません。

(3) 調査方法 郵送による配布・回収

(4) 調査期間 令和4年12月12日(月)～令和4年12月27日(火)

4 回答者の属性

(1) 性別・年齢

		全 体	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	無回答
全 体		3,407 100.0%	537 15.8%	740 21.7%	630 18.5%	642 18.8%	526 15.4%	254 7.5%	78 2.3%
性 別	男性	1,222 100.0%	260 21.3%	332 27.2%	230 18.8%	199 16.3%	146 11.9%	53 4.3%	2 0.2%
	女性	2,047 100.0%	274 13.4%	396 19.3%	392 19.1%	426 20.8%	364 17.8%	190 9.3%	5 0.2%
	無回答	138 100.0%	3 2.2%	12 8.7%	8 5.8%	17 12.3%	16 11.6%	11 8.0%	71 51.4%

※上段：人数（人）、下段：構成比

(2) 認定状況

		全 体	要支援1	要支援2	介護認定は 受けていない	無回答
全 体		3,407 100.0%	482 14.1%	382 11.2%	2,215 65.0%	328 9.6%
性 別	男性	1,222 100.0%	107 8.8%	93 7.6%	927 75.9%	95 7.8%
	女性	2,047 100.0%	369 18.0%	274 13.4%	1,259 61.5%	145 7.1%
	無回答	138 100.0%	6 4.3%	15 10.9%	29 21.0%	88 63.8%

※上段：人数（人）、下段：構成比

(3) 居住地

		全体	日常生活圏域											無回 答
			A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	
全 体		3,407 100.0%	296 8.7%	366 10.7%	303 8.9%	277 8.1%	211 6.2%	318 9.3%	354 10.4%	242 7.1%	354 10.4%	333 9.8%	259 7.6%	94 2.8%
性 別	男性	1,222 100.0%	111 9.1%	141 11.5%	103 8.4%	100 8.2%	74 6.1%	123 10.1%	128 10.5%	84 6.9%	129 10.6%	122 10.0%	98 8.0%	9 0.7%
	女性	2,047 100.0%	181 8.8%	215 10.5%	193 9.4%	175 8.5%	131 6.4%	188 9.2%	218 10.6%	150 7.3%	219 10.7%	205 10.0%	154 7.5%	18 0.9%
	無回答	138 100.0%	4 2.9%	10 7.2%	7 5.1%	2 1.4%	6 4.3%	7 5.1%	8 5.8%	8 5.8%	6 4.3%	6 4.3%	7 5.1%	67 48.6%

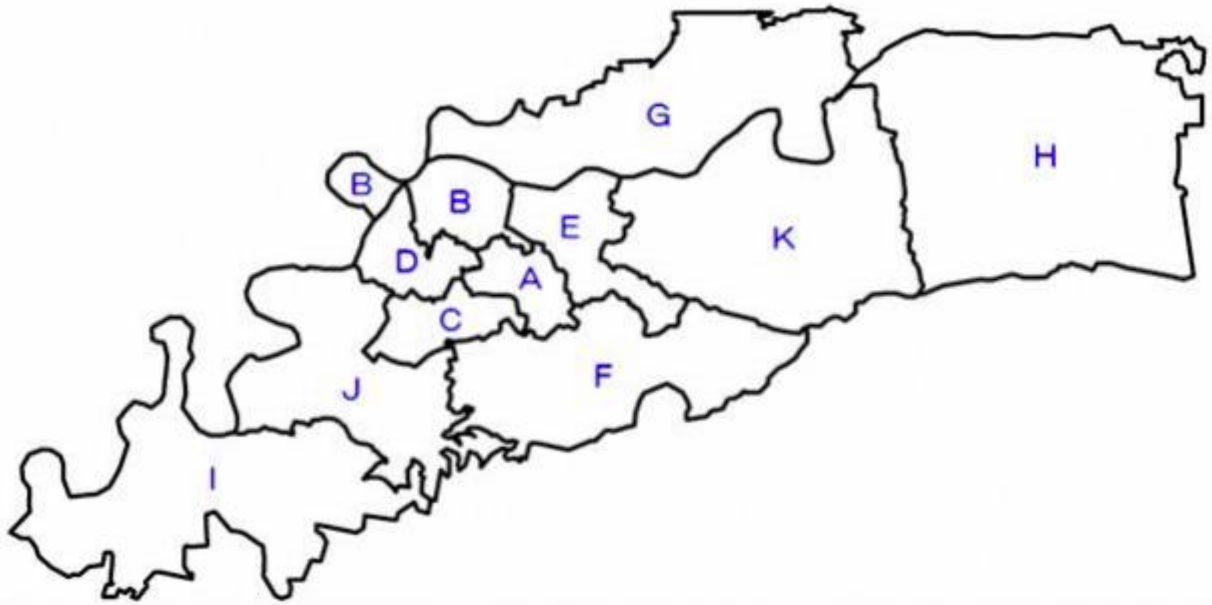
※回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

※上段：人数（人）、下段：構成比

5 日常生活圏域について

高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けることができるよう、地域に密着した施策を実施するため、地域の地理的条件・態様や人口、高齢者数等を考慮して小学校区を組み合わせ、市内11の「日常生活圏域」を設定しています。

最も高齢化率が高いのは、H圏域（33.87%）で、次いでK圏域（31.81%）、I圏域（31.15%）の順となっています。



圏域	小学校区								高齢化率
A	西国分	東国分							24.75%
B	荘島	日吉	篠山	南薫	長門石				24.49%
C	南	津福							26.40%
D	京町	鳥飼	金丸						25.32%
E	御井	合川							23.22%
F	上津	高良内	青峰						29.62%
G	小森野	宮ノ陣	北野	弓削	大城	金島			29.05%
H	船越	水分	柴刈	川会	竹野	水縄	田主丸		33.87%
I	城島	下田	青木	江上	浮島	犬塚	三瀨	西牟田	31.15%
J	荒木	安武	大善寺						29.88%
K	山川	山本	草野	善導寺	大橋				31.81%

※令和4年11月1日時点

6 主な指標の算出方法

本報告書では、将来のいずれかの時に要介護状態になる可能性を高める日常生活の状況を把握し、地域の抱える課題を特定することを目的に、次の3つの指標を用いて集計・分析を行いました。その指標の算出方法は次の通りです。

※本報告書では、「リスク」とは現在もしくは将来のいずれかの時に、ある状態になる可能性のことをさします。

(1) 生活機能評価に関する指標の算出方法

①運動器 以下の設問、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器の機能低下者と判定

設問	該当する選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
15分位続けて歩いていますか。	3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

②閉じこもり 以下の設問に該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定

設問	該当する選択肢
週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週一回

③転倒 以下の設問に該当する人を転倒のリスク該当者と判定

設問	該当する選択肢
過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

④栄養 以下の設問、2項目のすべてに該当する人を低栄養のリスク該当者と判定

設問	該当する選択肢
身長・体重をご記入ください。	BMI 18.5 未満
6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい

⑤口腔 以下の設問、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔機能の低下者と判定

設問	該当する選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
口の渇きが気になりますか。	1. はい

⑥認知 以下の設問、3項目のうち1項目以上に該当する人を認知機能の低下者と判定

設問	該当する選択肢
物忘れが多いと感じますか。	1. はい
自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。	2. いいえ
今日が何月何日かわからない時がありますか。	1. はい

⑦うつ 以下の設問、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつリスク該当者と判定

設問	該当する選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

(2) 日常生活動作指標の算出方法

①手段的日常生活動作 (IADL) 以下の5つの設問について、1つでも「できない」と回答した方を低下者と判定

設問	該当する選択肢
バスや電車を使って1人で外出していますか。	3. できない
自分で食品・日用品の買物をしていますか。	3. できない
自分で食事の用意をしていますか。	3. できない
自分で請求書の支払いをしていますか。	3. できない
自分で預貯金の出し入れをしていますか。	3. できない

②知的能動性 以下の4つの設問について、選択肢ごとに得点を設定し、その合計が4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」とし、3点以下を知的能動性の低下者と判定

設問	該当する選択肢
年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。	1. はい：1点
新聞を読んでいますか。	1. はい：1点
本や雑誌を読んでいますか。	1. はい：1点
健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい：1点

(3) 社会的役割に関する指標の算出方法

①社会的役割 以下の4つの設問について、選択肢ごとに得点を設定し、その合計が4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」とし、3点以下を社会的役割の低下者と判定

設問	該当する選択肢
友人の家を訪ねていますか。	1. はい：1点
家族や友人の相談にのっていますか。	1. はい：1点
病人を見舞うことができますか。	1. はい：1点
若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい：1点

7 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計(全体)の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

第2章 調査結果の概要

1 家族構成・生活状況

(1) 家族構成の状況

家族構成は、全体では、「1人暮らし」が32.3%、「夫婦のみの世帯」は28.1%、「息子・娘との2世帯」が17.7%となっています。

一般高齢者では、「1人暮らし」の割合が28.5%と最も高く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が26.2%、「息子・娘との2世帯」が18.0%となっています。

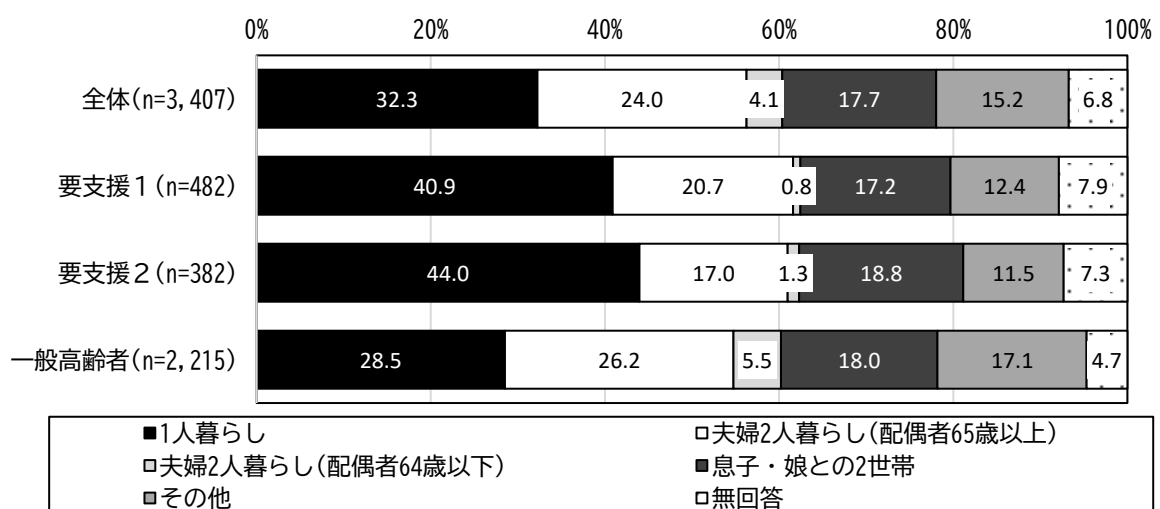
要支援1では、「1人暮らし」が40.9%と最も高く、次いで、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が20.7%、「息子・娘との2世帯」が17.2%となっています。

要支援2では、「1人暮らし」の割合が44.0%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が18.8%となっており、特に、「1人暮らし」の割合が一般高齢者(28.5%)や要支援1(40.9%)に比べ高くなっています。

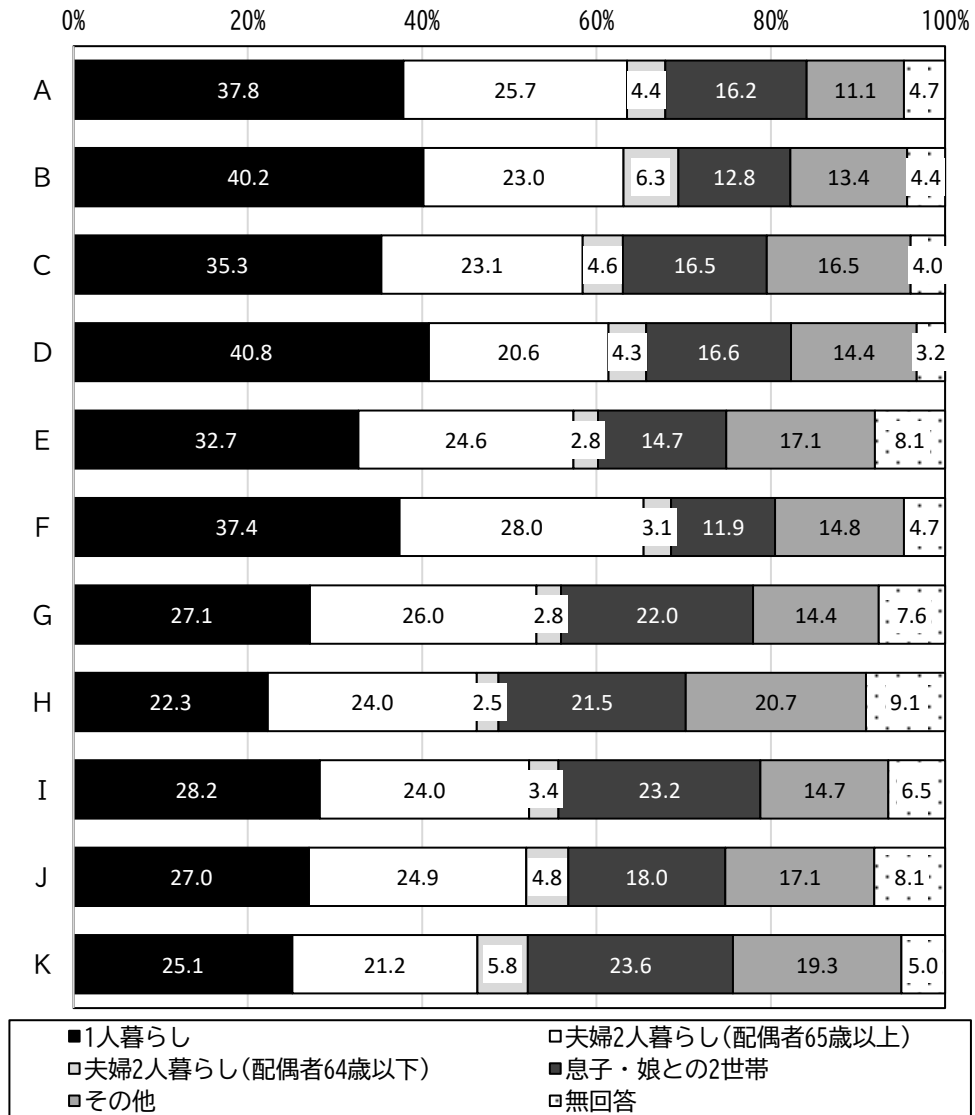
<前回調査結果との比較>

サンプル対象の偏りも考えられますが、前回調査結果との比較では、全体で今回「夫婦2人暮らし」の世帯の割合が38.5%→28.1%と減少し、「1人暮らし」の世帯の割合が22.0%→32.3%に増加しています。

【世帯の状況】



【世帯の状況（日常生活圏域別）】（全体 n=3,407）



(2) 介護・介助の状況

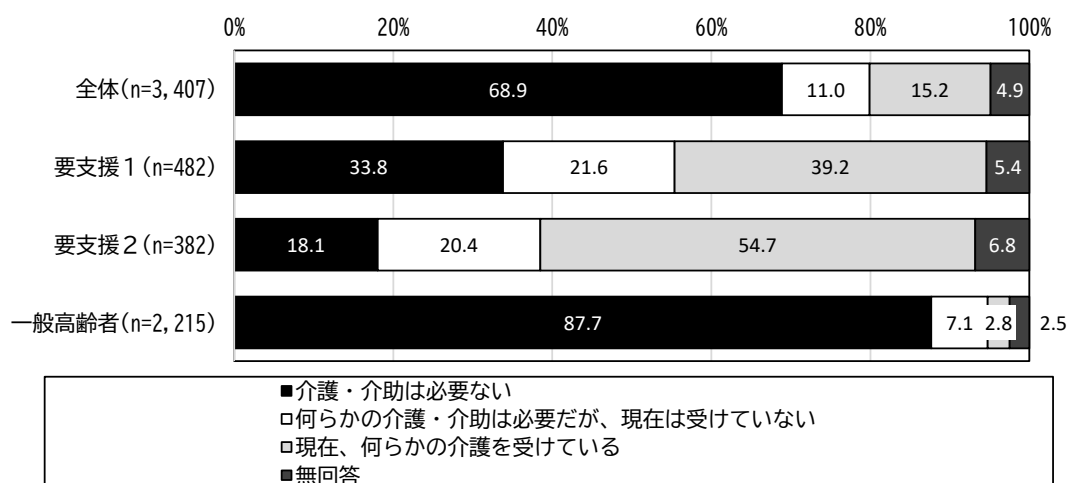
普段の生活で介護・介助が必要か尋ねたところ、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の割合が、要支援1で21.6%、要支援2で20.4%となっています。

性・年代別で見ると、男女ともに加齢とともに介護・介助が必要となる割合が高くなっています。

<前回調査結果との比較>

前回調査結果との比較では、大きな差はみられませんでした。

【介護・介助の状況】

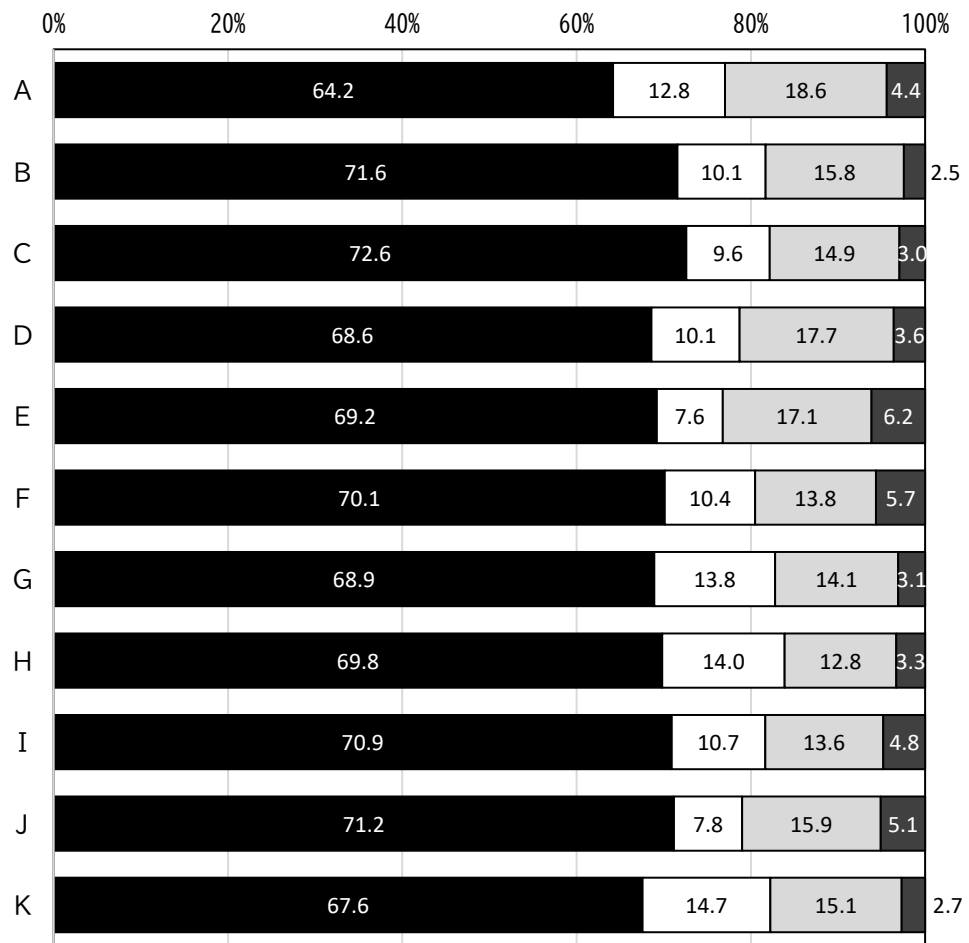


【介護・介助の状況 (性・年代別)】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている	無回答
全体	3,407	68.9	11.0	15.2	4.9
【男性 計】	1,222	76.1	9.7	11.0	3.2
65～69歳	260	92.3	1.5	3.5	2.7
70～74歳	332	85.5	6.0	5.1	3.3
75～79歳	230	80.0	7.8	10.0	2.2
80～84歳	199	67.8	13.6	14.1	4.5
85～89歳	146	42.5	26.7	26.7	4.1
90歳以上	53	43.4	20.8	34.0	1.9
【女性 計】	2,047	66.5	11.5	17.8	4.2
65～69歳	274	89.4	3.3	5.5	1.8
70～74歳	396	88.1	4.0	6.3	1.5
75～79歳	392	72.7	8.9	14.3	4.1
80～84歳	426	58.2	17.1	19.7	4.9
85～89歳	364	45.1	17.9	31.0	6.0
90歳以上	190	36.8	19.5	36.8	6.8

【介護・介助の状況（日常生活圏域別）】（全体 n=3,407）



- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている
- 無回答

(3) 介護・介助が必要になった主な原因

全体では「骨折・転倒」の割合が最も高く(23.8%)、次いで「高齢による衰弱」(22.9%)、「その他」(18.1%)となっています。

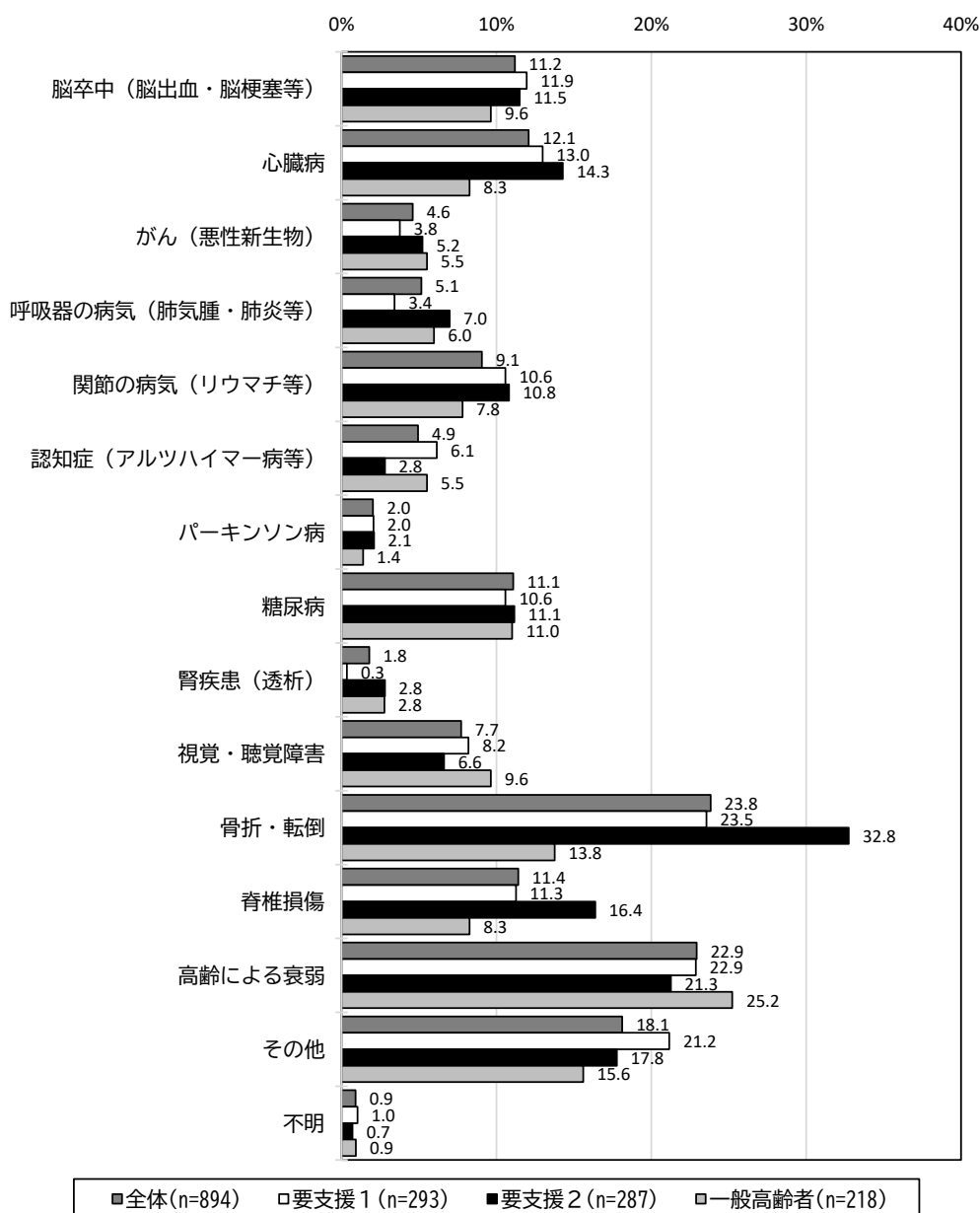
一般高齢者では「高齢による衰弱」が高くなっています。要支援1では、「骨折・転倒」の割合が23.5%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」が22.9%となっています。要支援2では、「骨折・転倒」の割合が32.8%と最も高く、次いで「高齢による衰弱」が21.3%、「その他」が17.8%となっています。

男性は女性に比べ、「脳卒中」(18.6%)、「心臓病」(15.8%)、「糖尿病」(14.6%)等の割合が高く、女性は男性に比べ、「骨折・転倒」(29.0%)、「脊椎損傷」(11.3%)「関節の病気」(10.5%)などの割合が高くなっています。

<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、特に大きな差はみられませんでした。全体で「認知症(アルツハイマー病等)」(3.3%→4.9%)「骨折・転倒」(23.0%→23.8%)「脊椎損傷」(9.5%→11.4%)「高齢による衰弱」(21.1%→22.9%)「その他」(13.7%→18.1%)の項目で増加しています。

【介護・介助が必要になった原因】



【介護・介助が必要になった主な原因（性、年代別）】

単位：%

区分	有効回答数（件）	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	がん（悪性新生物）	呼吸器の病気（肺炎腫・肺炎等）	関節の病気（リウマチ等）	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患（透析）	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明
全体	894	11.2	12.1	4.6	5.1	9.1	4.9	2.0	11.1	1.8	7.7	23.8	11.4	22.9	18.1	0.9
【男性 計】	253	18.6	15.8	7.9	8.7	7.1	4.3	2.4	14.6	2.8	10.3	12.3	12.3	22.1	13.0	2.0
65～69歳	13	15.4	15.4	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	7.7	7.7	23.1	15.4
70～74歳	37	27.0	10.8	5.4	13.5	8.1	2.7	5.4	10.8	5.4	2.7	8.1	13.5	5.4	13.5	2.7
75～79歳	41	22.0	12.2	17.1	9.8	9.8	2.4	2.4	22.0	9.8	14.6	9.8	12.2	4.9	17.1	2.4
80～84歳	55	21.8	20.0	7.3	12.7	5.5	5.5	0.0	21.8	0.0	9.1	14.5	1.8	14.5	16.4	1.8
85～89歳	78	14.1	16.7	3.8	3.8	9.0	5.1	3.8	12.8	1.3	7.7	14.1	17.9	37.2	9.0	0.0
90歳以上	29	10.3	17.2	10.3	10.3	0.0	3.4	0.0	3.4	0.0	27.6	17.2	17.2	48.3	6.9	0.0
【女性 計】	600	8.5	10.0	3.3	3.5	10.5	5.3	1.8	9.7	1.3	6.5	29.0	11.3	23.7	20.5	0.5
65～69歳	24	0.0	8.3	4.2	4.2	8.3	0.0	16.7	25.0	4.2	0.0	12.5	0.0	4.2	50.0	4.2
70～74歳	41	12.2	9.8	2.4	2.4	17.1	7.3	0.0	12.2	2.4	4.9	29.3	14.6	4.9	34.1	4.9
75～79歳	91	14.3	3.3	3.3	1.1	9.9	4.4	2.2	13.2	1.1	4.4	34.1	9.9	6.6	18.7	0.0
80～84歳	157	10.2	5.7	5.1	5.1	14.6	6.4	0.6	8.9	1.9	5.7	27.4	13.4	19.1	23.6	0.0
85～89歳	178	6.2	16.3	1.1	4.5	10.7	5.1	2.2	6.7	1.1	7.9	28.7	12.9	29.8	17.4	0.0
90歳以上	107	5.6	12.1	4.7	1.9	2.8	5.6	0.0	7.5	0.0	9.3	30.8	8.4	46.7	11.2	0.0

【介護・介助が必要になった原因（日常生活圏域）】

単位：%

区分	有効回答数（件）	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	がん（悪性新生物）	呼吸器の病気（肺炎腫・肺炎等）	関節の病気（リウマチ等）	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患（透析）	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明
全体	894	11.2	12.1	4.6	5.1	9.1	4.9	2.0	11.1	1.8	7.7	23.8	11.4	22.9	18.1	0.9
A	93	14.0	14.0	6.5	2.2	6.5	7.5	2.2	9.7	1.1	5.4	18.3	9.7	21.5	24.7	1.1
B	95	14.7	11.6	2.1	3.2	7.4	3.2	1.1	12.6	1.1	7.4	26.3	11.6	16.8	22.1	0.0
C	74	12.2	8.1	5.4	6.8	12.2	4.1	0.0	17.6	0.0	2.7	18.9	5.4	16.2	31.1	1.4
D	77	7.8	6.5	7.8	5.2	13.0	2.6	5.2	7.8	1.3	7.8	14.3	9.1	19.5	27.3	0.0
E	52	13.5	17.3	5.8	9.6	9.6	1.9	0.0	11.5	1.9	9.6	19.2	13.5	23.1	13.5	3.8
F	77	11.7	5.2	2.6	3.9	15.6	5.2	0.0	13.0	2.6	10.4	31.2	19.5	27.3	11.7	1.3
G	99	10.1	9.1	5.1	9.1	9.1	3.0	6.1	12.1	2.0	8.1	31.3	13.1	27.3	10.1	0.0
H	65	10.8	15.4	7.7	4.6	12.3	9.2	1.5	10.8	6.2	9.2	24.6	9.2	21.5	6.2	0.0
I	86	11.6	15.1	1.2	1.2	10.5	4.7	2.3	5.8	1.2	9.3	24.4	12.8	20.9	19.8	1.2
J	79	10.1	12.7	3.8	5.1	3.8	0.0	1.3	8.9	1.3	7.6	30.4	11.4	26.6	10.1	2.5
K	77	9.1	22.1	5.2	7.8	2.6	0.0	0.0	11.7	1.3	9.1	22.1	11.7	29.9	20.8	0.0

(4) 主に誰からの介護を受けているか

主に誰からの介護を受けているかについては、要支援1では「娘」の割合が30.7%と最も高く、次いで「介護サービスのヘルパー」が28.0%、「配偶者(夫・妻)」が20.1%となっています。

要支援2では、「介護サービスのヘルパー」の割合が34.9%と最も高く、次いで「娘」が22.0%、「配偶者(夫・妻)」が16.3%となっています。

一般高齢者では、「娘」の割合が36.1%と最も高く、次いで「配偶者(夫・妻)」が26.2%となっています。

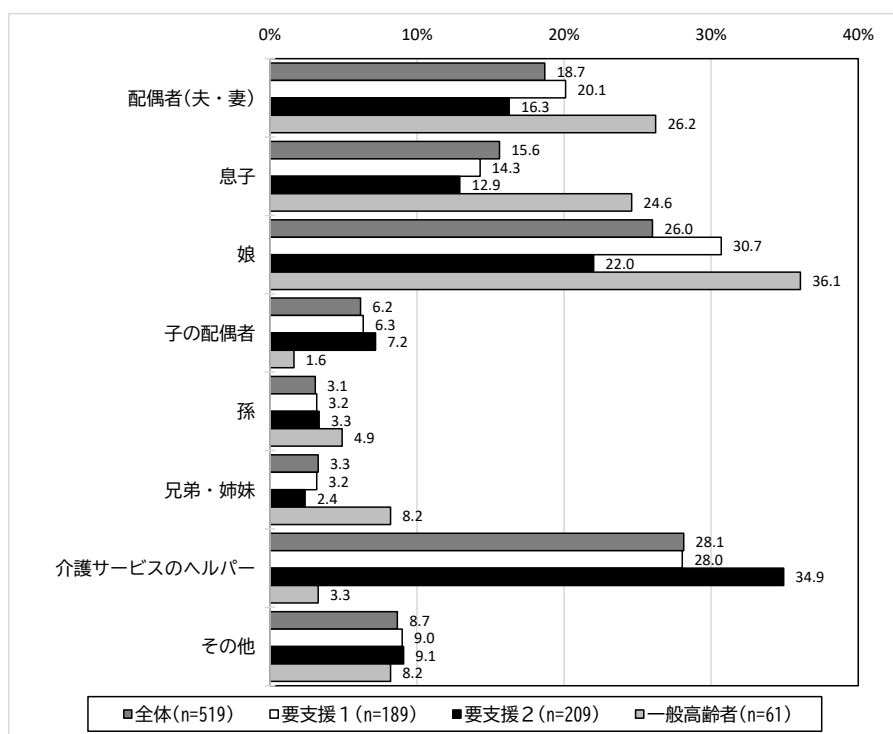
性別でみると、男性では「介護サービスのヘルパー」(28.4%)が最も高く、次に配偶者(24.6%)、女性では「娘」(29.1%)、次に「介護サービスのヘルパー」(27.2%)が高くなっています。

また、女性は男性に比べ配偶者(夫)の割合が低く、娘の割合が高くなっています。

<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、配偶者の割合が減少(19.4%→18.7%)し、それ以外の対象者、特に「息子」(10.3%→15.6%)・「娘」(16.8%→26.0%)、孫(0.5%→3.1%)の割合が高くなっています。

【主な介護者】



【主な介護者(性別)】

単位：%

区分	有効回答数	配偶者(夫・妻)	息子	娘	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	介護サービスのヘルパー	その他
全体	519	18.7	15.6	26.0	6.2	3.1	3.3	28.1	8.7
男性	134	24.6	14.2	18.7	6.0	0.7	3.7	28.4	9.0
女性	364	16.8	16.8	29.1	6.3	3.8	3.3	27.2	8.8
無回答	21	14.3	4.8	19.0	4.8	4.8	0.0	42.9	4.8

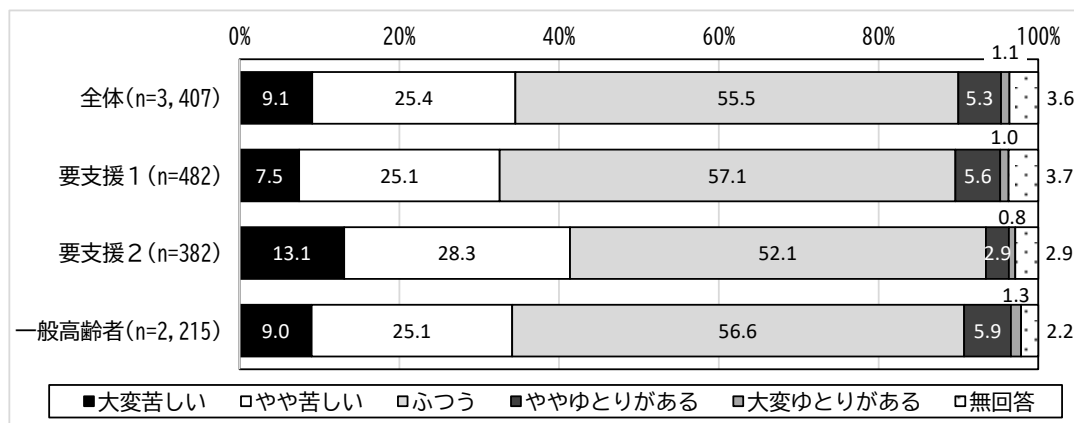
(5) 経済的な状況

現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかの問いについては、「ふつう」(55.5%)が一番多く、「やや苦しい」(25.4%)、「大変苦しい」(9.1%)となっております。

前回調査時との比較では「大変苦しい」(9.1%→9.1%)、「やや苦しい」(25.5%→25.4%)と大きな差はありませんでした。

経済的に「大変苦しい」と答えた方はそれ以外の方に比べ、主観的健康観について「あまりよくない」「よくない」の割合が高くなっています(5割弱)。幸福感については、幸せの割合が低く「ふつう」「不幸」と答えた方の割合が高くなっています。うつリスクに該当する方や、生きがいの有無について「思いつかない」と回答する方の割合が高くなっています。

【現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているか】



【現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか】（上段：構成比 下段：人数）

属性	区分	全体	大変 苦しい	やや 苦しい	ふつ う	やや ゆとり あるが	大変 ゆとり あるが	無 回 答
総数	-	100.0	9.1	25.4	55.5	5.3	1.1	3.6
		3,407	310	866	1,890	182	36	123
性別	男性	100.0	9.1	27.0	53.6	6.2	1.1	3.0
		1,222	111	330	655	76	13	37
	女性	100.0	9.0	24.7	57.9	5.0	1.1	2.3
		2,047	185	505	1,185	102	22	48
	無回答	100.0	10.1	22.5	36.2	2.9	0.7	27.5
		138	14	31	50	4	1	38
年齢	65～69歳	100.0	10.6	27.0	53.1	5.8	1.3	2.2
		537	57	145	285	31	7	12
	70～74歳	100.0	11.9	29.7	50.3	4.7	1.4	2.0
		740	88	220	372	35	10	15
	75～79歳	100.0	10.6	27.8	52.9	5.1	0.6	3.0
		630	67	175	333	32	4	19
	80～84歳	100.0	7.0	23.1	59.5	5.9	1.1	3.4
		642	45	148	382	38	7	22
85～89歳	100.0	6.3	24.1	60.8	4.8	1.0	3.0	
	526	33	127	320	25	5	16	
90歳以上	100.0	5.9	13.8	67.3	7.5	1.2	4.3	
	254	15	35	171	19	3	11	
	無回答	100.0	6.4	20.5	34.6	2.6	0.0	35.9
		78	5	16	27	2	0	28
家族 構成	1人暮らし	100.0	11.7	28.8	51.1	5.1	1.2	2.0
		1,099	129	317	562	56	13	22
	夫婦2人暮らし （配偶者65歳以上）	100.0	7.0	26.2	57.6	6.8	1.1	1.3
		818	57	214	471	56	9	11
	夫婦2人暮らし （配偶者64歳以下）	100.0	7.2	20.9	62.6	6.5	1.4	1.4
		139	10	29	87	9	2	2
	息子・娘との2世帯	100.0	8.0	21.9	62.2	5.8	1.2	1.0
	603	48	132	375	35	7	6	
その他	100.0	8.9	27.2	57.9	4.4	1.0	0.6	
	518	46	141	300	23	5	3	
	無回答	100.0	8.7	14.3	41.3	1.3	0.0	34.3
		230	20	33	95	3	0	79
収入 のある 仕事	週4回以上	100.0	8.3	25.7	54.0	7.4	2.1	2.7
		339	28	87	183	25	7	9
	週2～3回	100.0	6.4	28.4	53.2	9.2	1.4	1.4
		141	9	40	75	13	2	2
	週1回	100.0	8.6	14.3	54.3	14.3	5.7	2.9
		35	3	5	19	5	2	1
	月1～3回	100.0	6.0	22.0	66.0	6.0	0.0	0.0
		50	3	11	33	3	0	0
年に数回	100.0	9.3	27.8	53.7	3.7	3.7	1.9	
	54	5	15	29	2	2	1	
参加していない	100.0	9.7	26.8	56.0	5.0	0.8	1.8	
	1,730	168	463	968	86	14	31	
	無回答	100.0	8.9	23.2	55.1	4.5	0.9	7.5
		1,058	94	245	583	48	9	79

【現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか】

(上段：構成比 中段：人数 下段：総数と中断の人数を比較した割合)

属性	区分	全体	大変 苦しい	やや 苦しい	ふつ つ	やや ゆとり がある	大 変 ゆとり がある	無 回 答
総数	-	3,407	310	866	1,890	182	36	123
		100.0	4.3	20.6	56.7	10.7	4.7	3.0
主観的健康感	とてもよい	233	10	48	132	25	11	7
		6.8%	3.2%	5.5%	7.0%	13.7%	30.6%	5.7%
	まあよい	100.0	6.5	22.6	61.0	6.2	0.9	2.7
		2,102	136	476	1,283	131	19	57
	61.7%	43.9%	55.0%	67.9%	72.0%	52.8%	46.3%	
	あまりよくない	100.0	13.7	34.1	46.5	2.4	0.6	2.6
		782	107	267	364	19	5	20
	23.0%	34.5%	30.8%	19.3%	10.4%	13.9%	16.3%	
	よくない	100.0	29.2	29.2	35.4	3.5	0.0	2.8
		144	42	42	51	5	0	4
4.2%	13.5%	4.8%	2.7%	2.7%	0.0%	3.3%		
無回答	100.0	10.3	22.6	41.1	1.4	0.7	24.0	
	146	15	33	60	2	1	35	
4.3%	4.8%	3.8%	3.2%	1.1%	2.8%	28.5%		
幸福感	とても幸せ	100.0	2.3	13.5	66.9	10.1	3.6	3.6
		444	10	60	297	45	16	16
	13.0%	3.2%	6.9%	15.7%	24.7%	44.4%	13.0%	
	幸せ	100.0	5.1	21.2	63.7	7.1	1.0	1.9
		1,541	79	326	981	110	15	30
	45.2%	25.5%	37.6%	51.9%	60.4%	41.7%	24.4%	
	ふつ	100.0	12.9	35.6	46.8	1.9	0.3	2.5
		1,072	138	382	502	20	3	27
	31.5%	44.5%	44.1%	26.6%	11.0%	8.3%	22.0%	
	不幸	100.0	38.4	39.0	17.1	1.4	0.7	3.4
146		56	57	25	2	1	5	
4.3%	18.1%	6.6%	1.3%	1.1%	2.8%	4.1%		
とても不幸	100.0	43.8	31.3	12.5	0.0	6.3	6.3	
	16	7	5	2	0	1	1	
0.5%	2.3%	0.6%	0.1%	0.0%	2.8%	0.8%		
無回答	100.0	10.6	19.1	44.1	2.7	0.0	23.4	
	188	20	36	83	5	0	44	
5.5%	6.5%	4.2%	4.4%	2.7%	0.0%	35.8%		
ゆううつな気持ち	はい	100.0	14.1	31.5	47.0	3.5	1.0	2.9
		1,342	189	423	631	47	13	39
	39.4%	61.0%	48.8%	33.4%	25.8%	36.1%	31.7%	
	いいえ	100.0	5.4	21.4	63.0	6.9	1.2	2.2
		1,887	101	403	1,189	131	22	41
55.4%	32.6%	46.5%	62.9%	72.0%	61.1%	33.3%		
無回答	100.0	11.2	22.5	39.3	2.2	0.6	24.2	
	178	20	40	70	4	1	43	
5.2%	6.5%	4.6%	3.7%	2.2%	2.8%	35.0%		
心から楽しめない	はい	100.0	16.9	32.2	43.6	4.2	0.6	2.5
		966	163	311	421	41	6	24
	28.4%	52.6%	35.9%	22.3%	22.5%	16.7%	19.5%	
	いいえ	100.0	5.8	22.7	61.6	6.0	1.3	2.6
		2,277	133	516	1,403	137	29	59
66.8%	42.9%	59.6%	74.2%	75.3%	80.6%	48.0%		
無回答	100.0	8.5	23.8	40.2	2.4	0.6	24.4	
	164	14	39	66	4	1	40	
4.8%	4.5%	4.5%	3.5%	2.2%	2.8%	32.5%		
生きがいの有無	生きがいあり	100.0	6.3	22.9	60.0	6.9	1.7	2.1
		1,770	112	405	1,062	123	30	38
	52.0%	36.1%	46.8%	56.2%	67.6%	83.3%	30.9%	
	思いつかない	100.0	12.8	29.2	51.6	3.5	0.5	2.4
		1,333	171	389	688	47	6	32
39.1%	55.2%	44.9%	36.4%	25.8%	16.7%	26.0%		
無回答	100.0	8.9	23.7	46.1	3.9	0.0	17.4	
	304	27	72	140	12	0	53	
8.9%	8.7%	8.3%	7.4%	6.6%	0.0%	43.1%		
友人・知人と会う頻度	毎日ある	100.0	6.3	21.7	59.6	9.2	0.8	2.5
		240	15	52	143	22	2	6
	7.0%	4.8%	6.0%	7.6%	12.1%	5.6%	4.9%	
	週に何度かある	100.0	5.4	25.4	59.8	6.0	1.4	2.0
		869	47	221	520	52	12	17
	25.5%	15.2%	25.5%	27.5%	28.6%	33.3%	13.8%	
	月に何度かある	100.0	7.9	24.4	59.4	5.1	1.2	2.2
		866	68	211	514	44	10	19
	25.4%	21.9%	24.4%	27.2%	24.2%	27.8%	15.4%	
	年に何度かある	100.0	11.0	28.5	52.1	5.7	1.3	1.5
547		60	156	285	31	7	8	
16.1%	19.4%	18.0%	15.1%	17.0%	19.4%	6.5%		
ほとんどない	100.0	15.5	27.4	49.6	3.7	0.5	3.3	
	645	100	177	320	24	3	21	
2.9%	5.0%	3.2%	2.6%	2.0%	1.3%	2.6%		
無回答	100.0	8.3	20.4	45.0	3.8	0.8	21.7	
	240	20	49	108	9	2	52	
7.0%	6.5%	5.7%	5.7%	4.9%	5.6%	42.3%		

○ 調査結果の考察（家族・生活状況）

◆現状

- 世帯の状況については、全体では「1人暮らし」（32.3%）と「夫婦2人暮らし（配偶者 65歳以上）」（24.0%）の割合が高くなっており、合わせて約5割となっている。
- 「何らかの介護を受けている」人の割合は、全体で15.2%となっている。
- 「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」という人が、要支援1（21.6%）や要支援2（20.4%）において、一定程度認められる。
- 介護・介助の状況を性・年代別で見ると、男女いずれも加齢とともに介護・介助が必要となる割合が高くなっている。特に75歳から79歳の年代で大きく伸びる。
- 男性、女性ともに85歳以上の年齢層で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「何らかの介護を受けている」人の割合が、「介護・介助は必要ない」の割合を上回っている。
- 介護・介助が必要となった原因としては、「骨折・転倒」（23.8%）が2割を超え、最も高くなっている。続いて、「高齢による衰弱」（22.9%）、「心臓」（12.1%）、「脊椎損傷」（11.4%）、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」（11.2%）及び「糖尿病」（11.1%）が1割を超え、高くなっている。
- 介護・介助が必要になった主な原因をみると、男性は70歳代で「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」の占める割合が高く、85歳以上の年齢層では「高齢による衰弱」の割合が最も高くなっている。
- 女性は、65歳から69歳は「糖尿病」の割合が高いが、その後70歳から80歳代にかけては「骨折・転倒」の割合が高くなっている。
- 主な介護者は、配偶者や子どもをはじめとする家族が約6割を占めている。
- 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかの問いについては、「ふつう」（55.5%）が一番多く、「やや苦しい」（25.5%）、「大変苦しい」（9.1%）となっている。
- 経済的に「大変苦しい」と答えた方はそれ以外の方に比べ、主観的健康観について「あまりよくない」「よくない」の割合が高くなっている（5割弱）。幸福感については、幸せの割合が低く「ふつう」「不幸」と答えた方の割合が高くなっている。うつリスクに該当する方や、生きがいの有無について「思いつかない」と回答する方の割合が高くなっている。

◆前回調査結果との比較

- 世帯の状況については、「夫婦2人暮らし」の世帯の割合が減少し（38.5%→28.1%）、「1人暮らし」の世帯の割合が増加している。（22.0%→32.3%）
- 介護・介助が必要になった原因については、特に大きな差はみられなかったが、全体で「認知症（アルツハイマー病等）」（3.3%→4.9%）「骨折・転倒」（23.0%→23.8%）「脊椎損傷」（9.5%→11.4%）「高齢による衰弱」（21.1%→22.9%）「その他」（13.7%→18.1%）の項目で増加が見られる。
- 主な介護者は、配偶者の割合が減少（19.4%→18.7%）し、その他の子、孫などの介護者の割合、特に「息子」（10.3%→15.6%）・「娘」（16.8%→26.0%）の割合が増加している。
- 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかの問いについては、大きな差はなかった。

◆課題

加齢に伴い介護・介助の必要性は高くなる傾向にあり、特に75歳を超えるとその必要性が急速に増すことから、若い年代から介護予防事業の取り組みを進めることが必要である。

また、男性では介護・介助が必要になった原因として、「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」、「心臓病」、「呼吸器系の病気」、「糖尿病」など、食事や運動、喫煙などの生活習慣に起因する疾病の割

合が女性に比べて高いため、介護予防の観点からは、生活習慣病予防に関する取り組みが重要であることがうかがえる。

一方、女性では、「骨折・転倒」、「関節の病気」の割合が高く、転倒予防、筋骨格系の機能の維持増進に関する介護予防事業の展開が重要であると考えられる。

【今後の取り組み】

高齢者自身に対して

- 加齢に伴う介護リスク向上に関する理解が必要。また、介護の原因疾患の上位に、男性では「脳卒中」、「心臓病」、「高血圧」、「糖尿病」、女性では「骨折・転倒」の割合が高いことが特徴である。こうした現状について高齢者への周知を進め、保健所等とも連携した、生活習慣病予防の取り組みの推進、介護予防事業として、転倒予防の取り組みへの参加促進を図っていく必要がある。
- 独居高齢者世帯や高齢者夫婦のみ世帯の割合が高くなっており、前回調査結果と比較すると、特に独居高齢者世帯は増加している。配食サービスや、緊急通報サービスの周知を行っていく必要がある。
- 高齢者を含め、経済的に困窮している方への支援が必要である。

高齢者の家族に対して

- 緊急時に、医療や介護、親族等と連携が取れるよう、日常的に連絡体制を作っておくことが必要である。
- 家族介護について、女性の負担が大きい状況がみられることから、女性の介護負担軽減や家族内での役割分担について、検討が必要である。
- 前回調査結果と比較し、子や孫の介護者の割合が高まっているため、若い世代の介護負担軽減や家族介護教室などの呼びかけが必要である。

地域住民や関係機関に対して

- 独居高齢者、高齢者夫婦のみの世帯を含め、地域でお互いに支えあうネットワークを強化する必要がある。

2 生活機能評価及び日常生活自立度

(1) 項目別評価結果からみた生活機能低下者の状況

本調査では、国の示す基準に基づき、高齢者が自立した日常生活を営むにおいて必要な次の①から⑦の機能について、それぞれ関連する設問の回答状況から「リスク該当者」の判定を行いました。

①運動器 ②閉じこもり ③転倒 ④栄養 ⑤口腔 ⑥認知 ⑦うつ

①運動器

運動器については、加齢とともにリスク該当者の割合が高くなっていますが、特に75～79歳からその傾向が強くなっています。また、各年代とも女性の割合が高くなっています。

運動器のリスク該当者の、介護・介助が必要になった主な原因では「骨折・転倒」「高齢による衰弱」の割合が高くなっています。

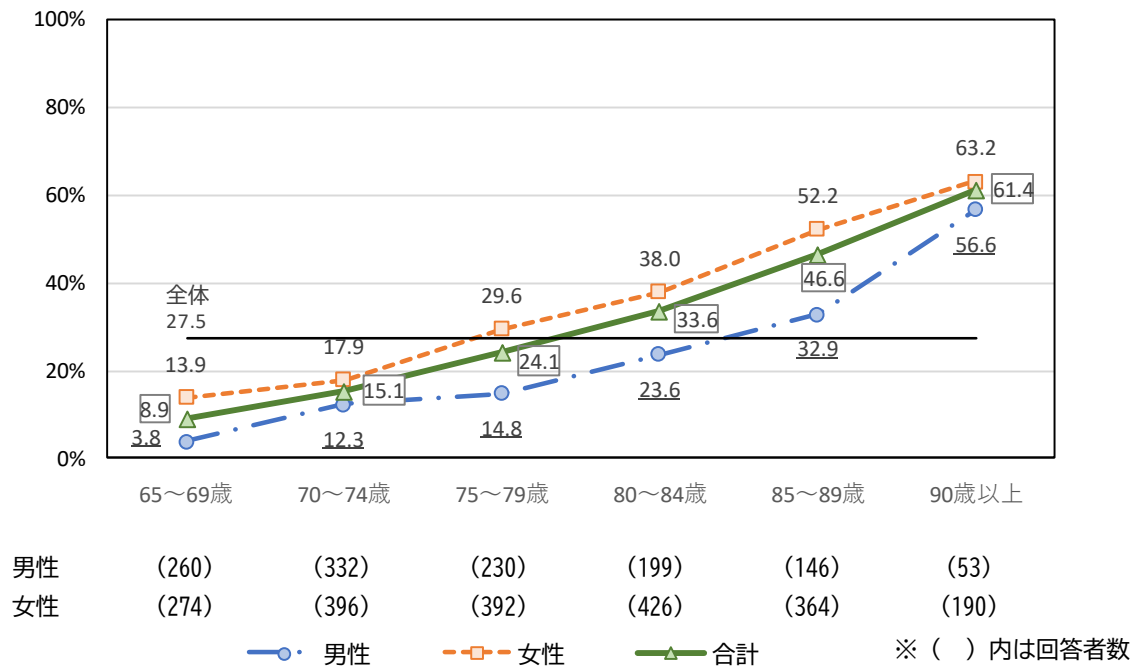
圏域別でみると、大きな差はみられないものの、G圏域、H圏域、K圏域では若干高く3割を超えています。

<前回調査結果との比較>

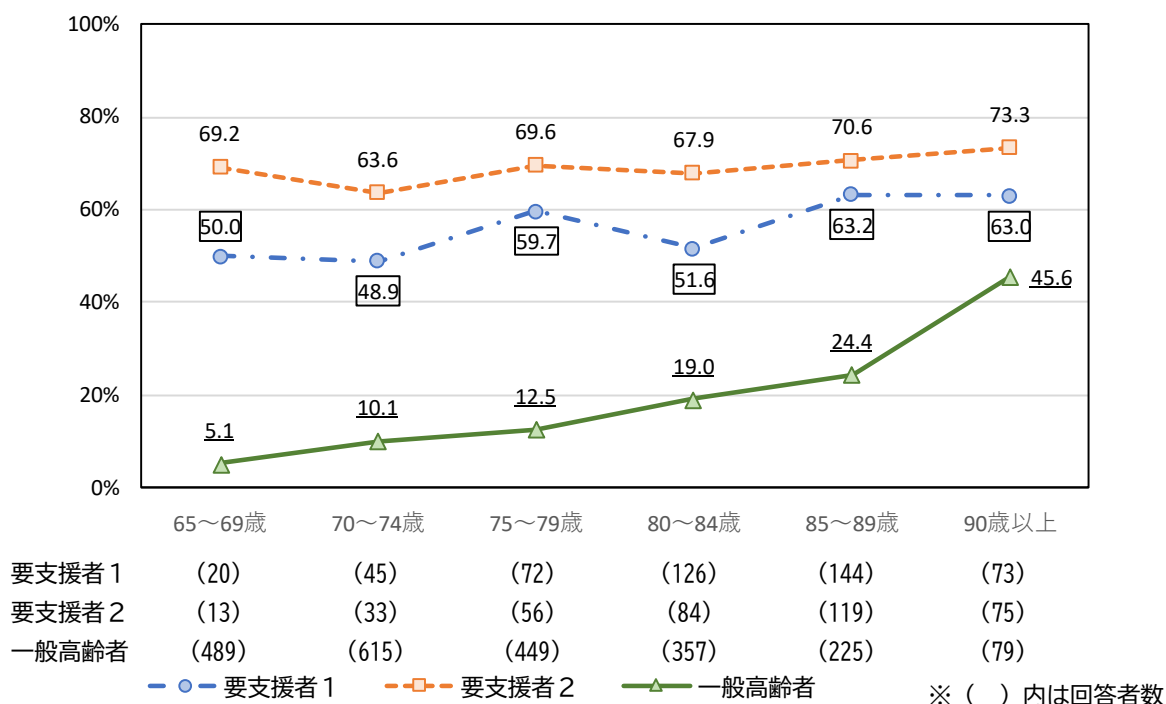
前回調査との比較では、運動器機能リスク該当者は28.0%→27.5%と若干減少しています。

【運動器機能リスク該当者の割合】

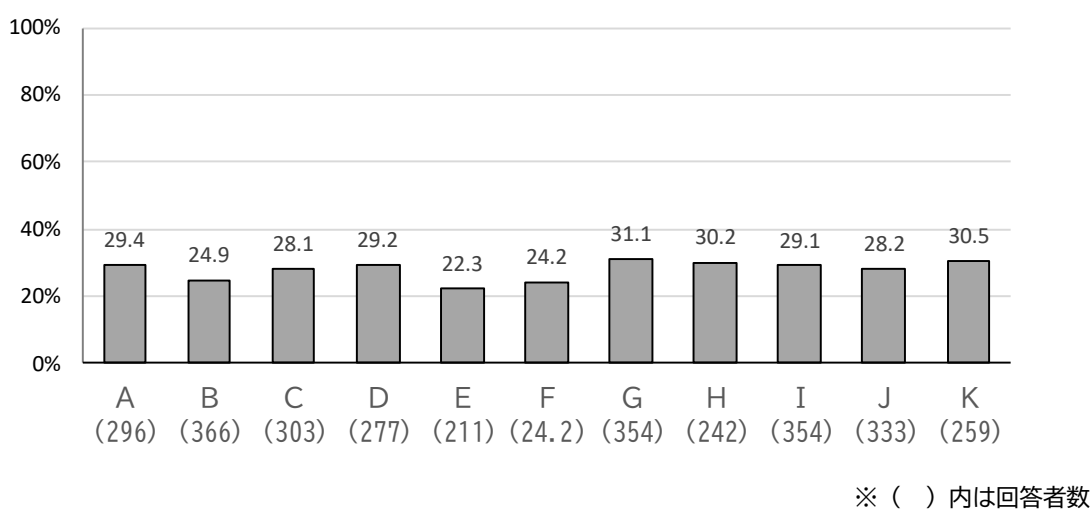
I. 性別・年齢別



Ⅱ. 要支援認定・年齢別



Ⅲ. 日常生活圏域別



【介護・介助が必要になった主な原因（運動リスクの有無）】

区分	有効回答数(件)	主な原因														
		脳梗塞等(脳卒中・脳出血)	心臓病	がん(悪性新生物)	気腫・肺炎等(呼吸器の病気)	関節の病気(リウマチ等)	認知症(アルツハイマー病等)	パーキンソン病	糖尿病	腎疾患(透析)	視覚・聴覚障害	骨折・転倒	脊椎損傷	高齢による衰弱	その他	不明
運動機能低下者該当	583	9.9	12.3	5.0	5.3	10.3	4.3	2.1	11.7	1.5	8.1	29.5	13.2	25.7	17.8	1.0
運動機能低下者非該当	216	15.3	10.6	3.7	5.1	6.9	7.4	1.4	8.8	2.3	7.9	10.6	6.9	19.9	19.9	0.9

単位: %

②閉じこもり

閉じこもりの判定結果をみると、回答者全体のうち 24.3%が閉じこもりのリスク該当者となっており、男性、女性ともに特に 80 歳代からリスク該当者の割合が高くなっています。

日常生活圏域による大きな差はないが、I 圏域がやや高くなっています。

運動器のリスク該当者では、非該当者に比べ閉じこもりリスクが高くなっています。

息子・娘の2世帯及び一人暮らし世帯では、他に比べ閉じこもりリスクが高くなっています。

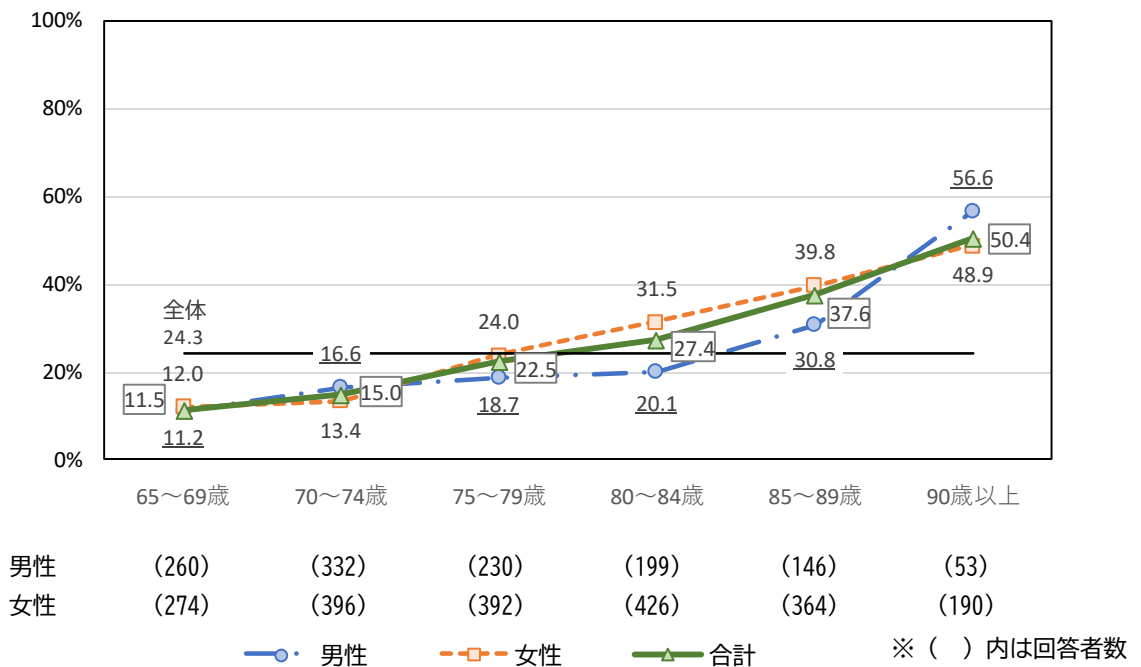
<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、閉じこもりリスク該当者の割合が増加（22.9%→24.3%）しています。

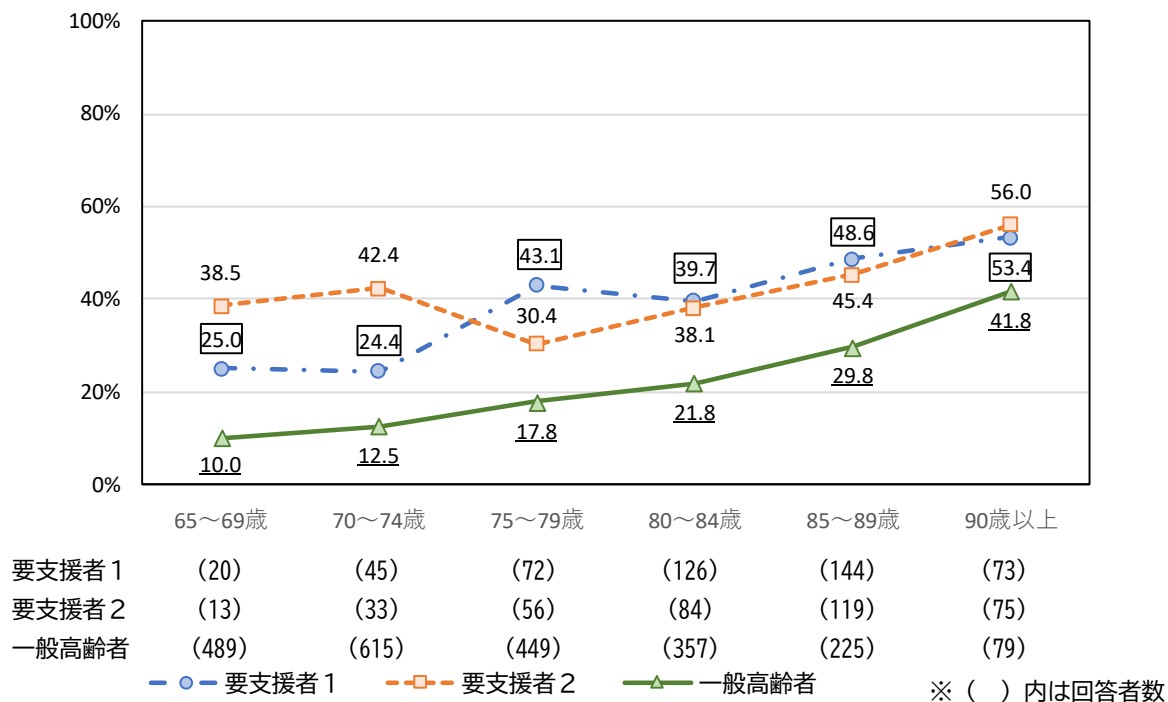
息子・娘との2世帯のリスク者の割合が増加（25.2%→29.3%）しています。

【閉じこもりリスク該当者の割合】

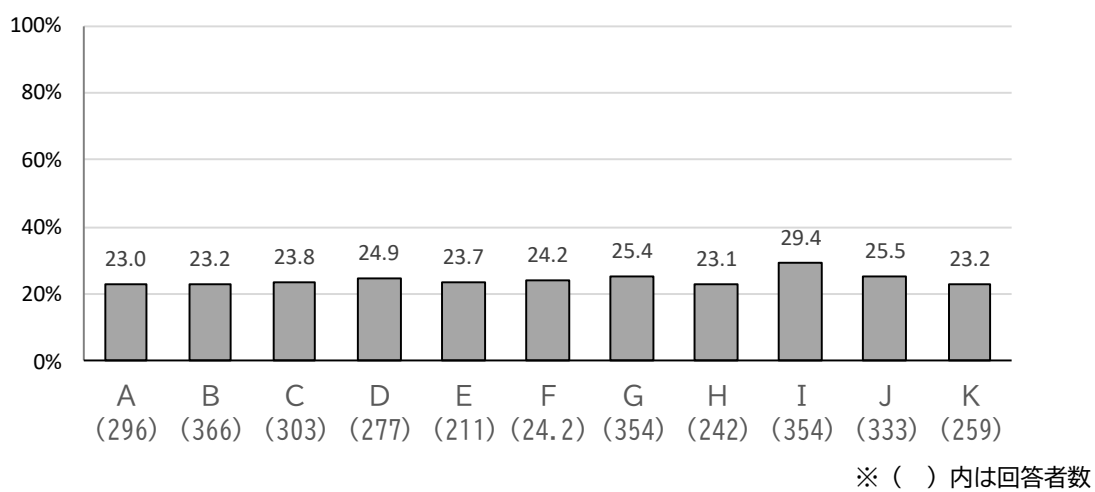
I. 性別・年齢別



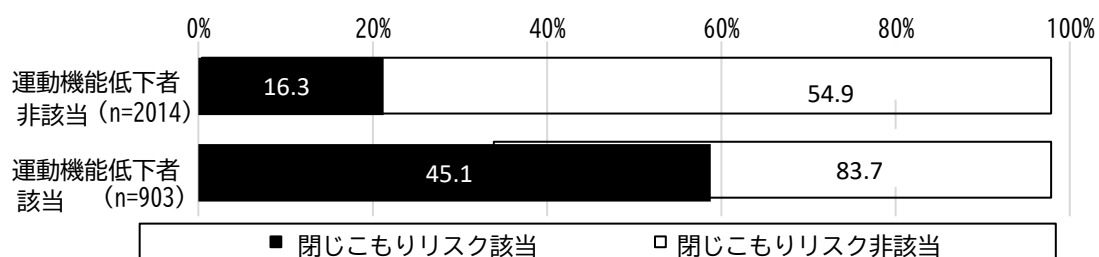
Ⅱ. 要支援認定・年齢別



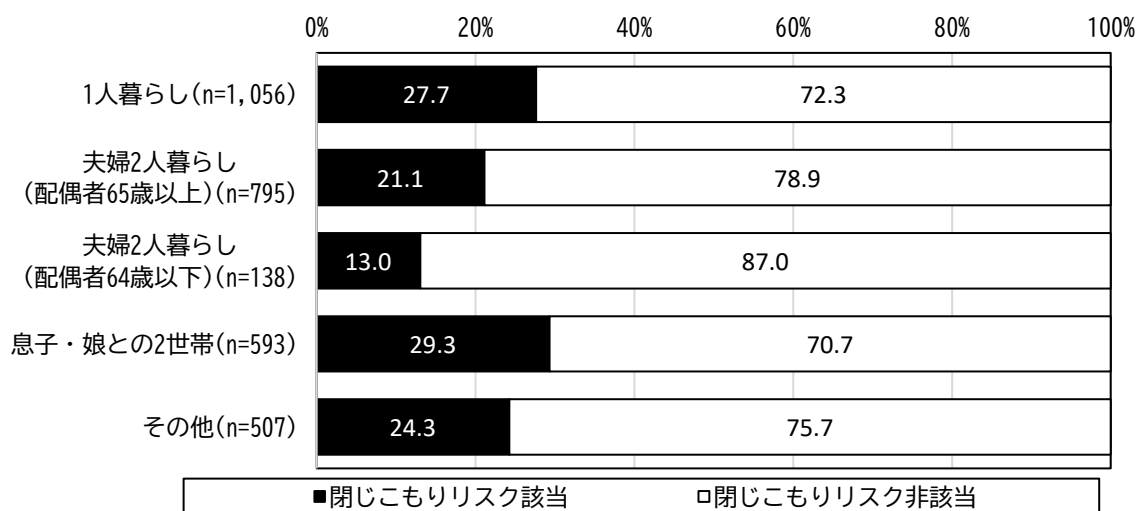
Ⅲ. 日常生活圏域別



【閉じこもりリスクの有無（運動リスクの有無）】



【閉じこもりリスクの有無（世帯構成）】



③転倒

転倒の評価結果をみると、回答者全体のうち 36.8%が転倒のリスク該当者となっています。

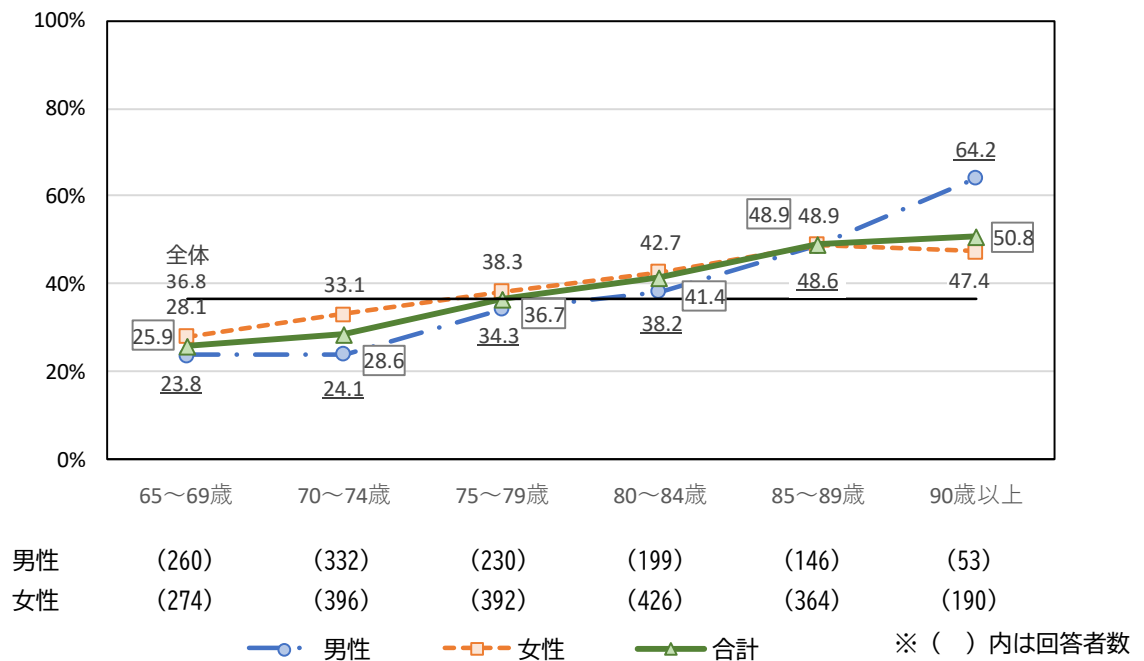
性別・年齢階級別でみると、男性では、85～89歳で 48.6%と 80～84歳に比べ 10.4ポイント上昇しており、この年代から、それ以前の年代に比べ急激にリスクが高くなっています。

<前回調査結果との比較>

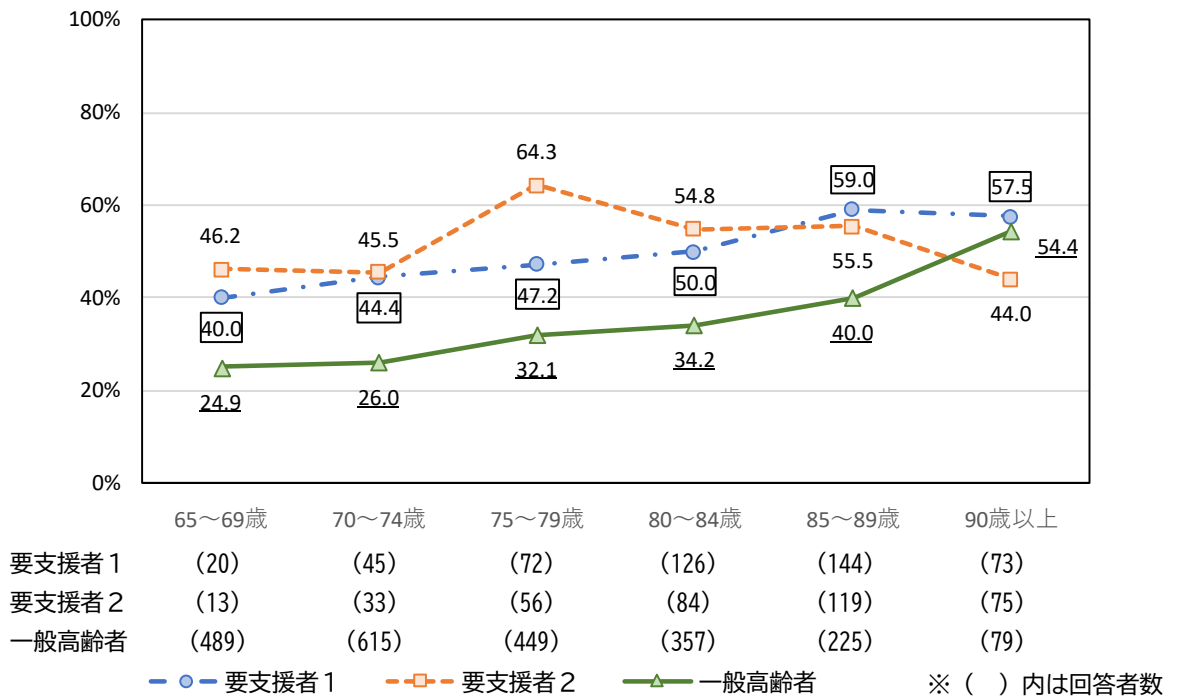
前回調査との比較では、転倒リスク者の割合が減少（38.5%→36.8%）しています。

【転倒リスク該当者の割合】

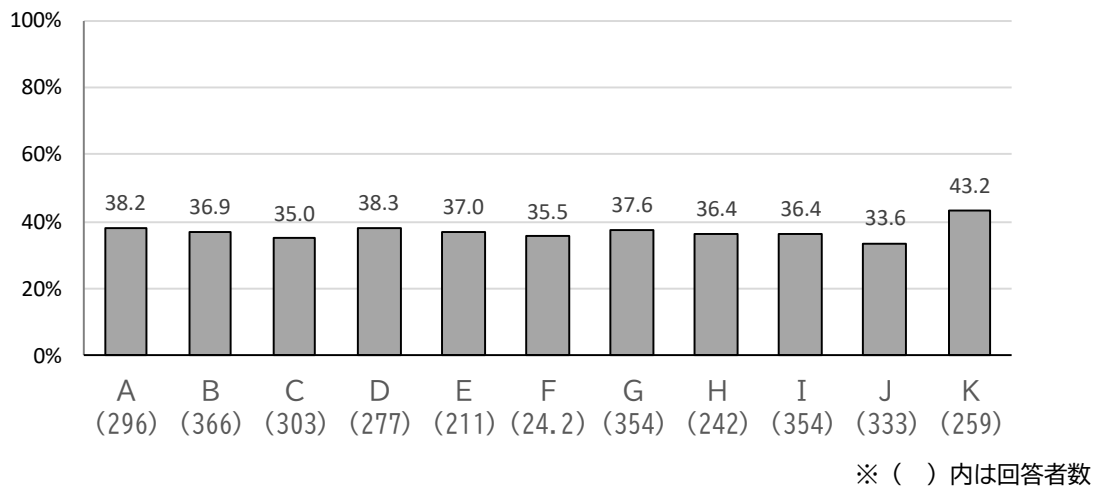
I. 性別・年齢別



Ⅱ. 要支援認定・年齢別



Ⅲ. 日常生活圏域別



④栄養

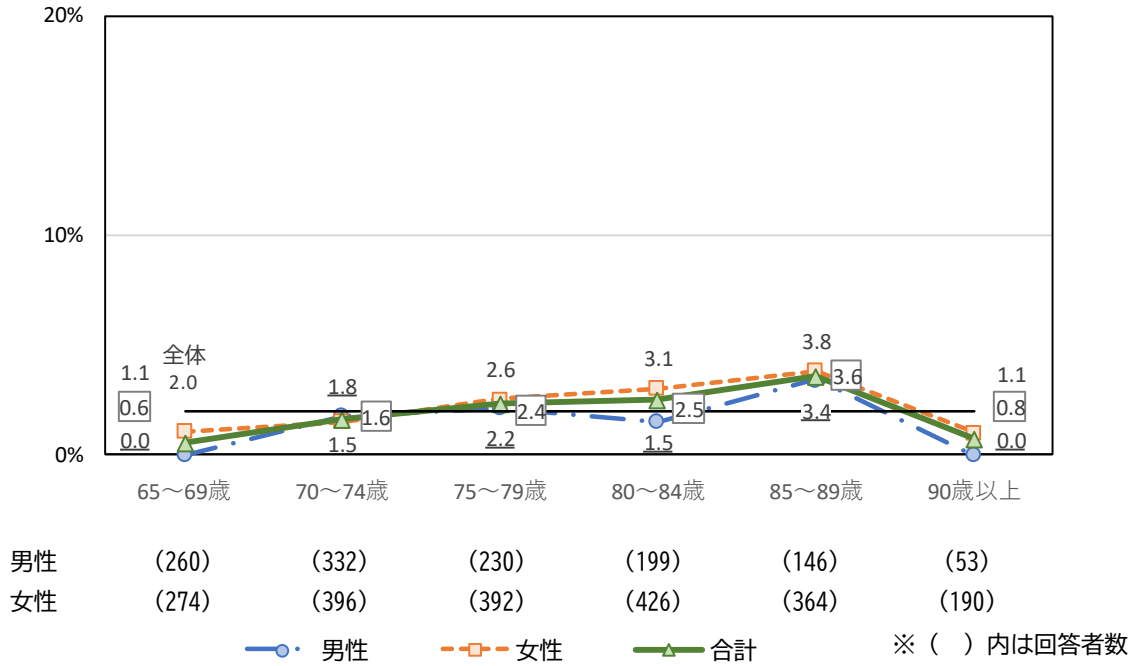
栄養の評価結果をみると、回答者全体のうち 2.0%が低栄養のリスク該当者となっており、男性と女性を比べると、70～74 歳で男性が女性を上回り、そのほかの年代では女性の割合が高くなっています。

<前回調査結果との比較>

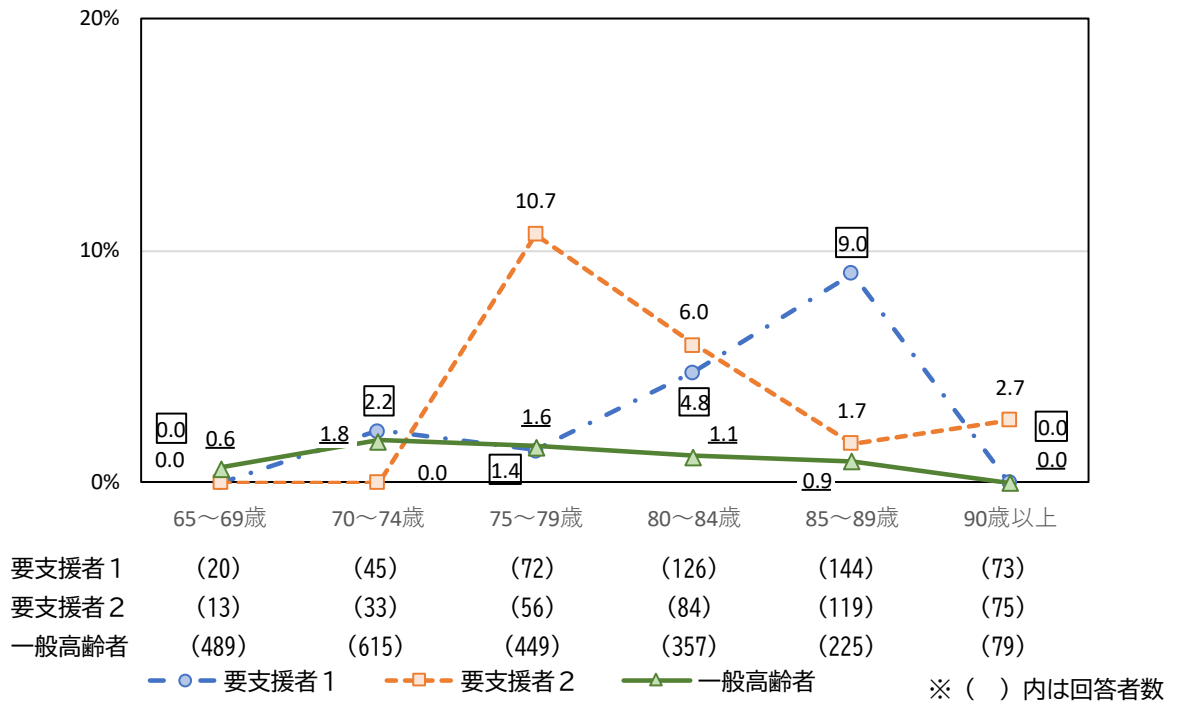
前回調査との比較では、低栄養のリスク該当者は、ほぼ変動がありません。(1.9%→2.0%)

【低栄養リスク該当者の割合】

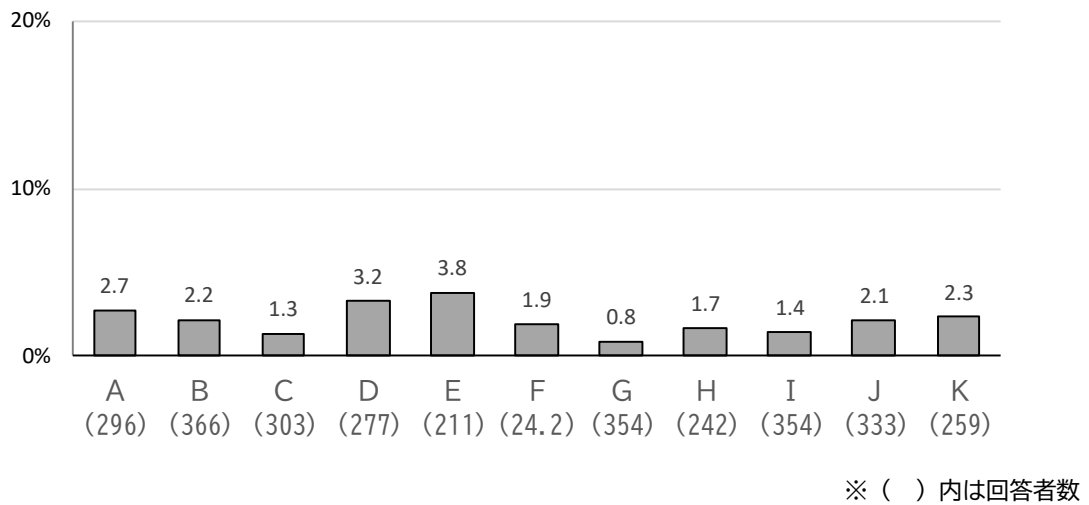
I. 性別・年齢別



Ⅱ. 要支援認定・年齢別



Ⅲ. 日常生活圏域別



⑤口腔

口腔の評価結果をみると、回答者全体のうち 30.2%が口腔機能低下者となっています。

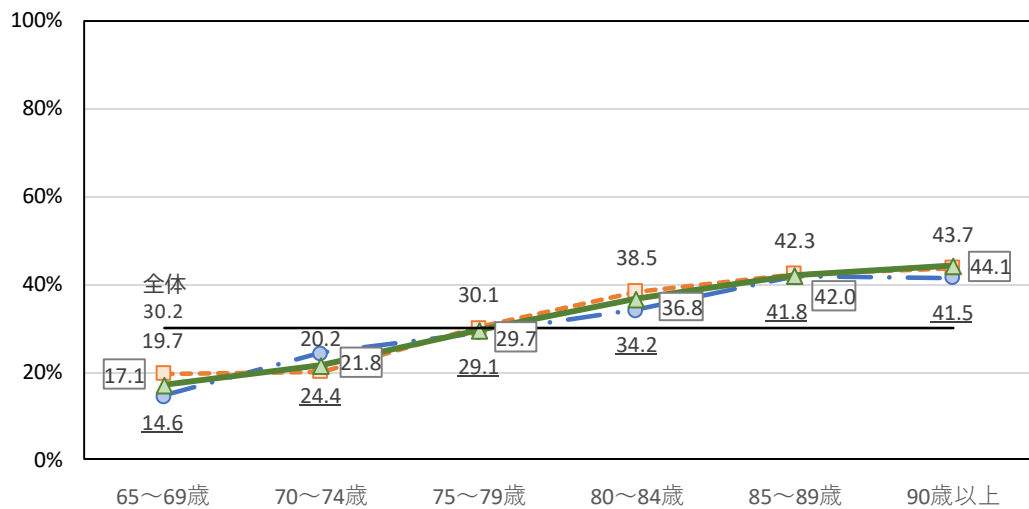
性別・年齢階級別でみると、どの年齢階級でも男性に比べ、女性が上回っています。また、男性、女性ともに 80～84 歳から口腔機能リスクが高くなっています。

<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、口腔機能低下者の割合が増加（27.8%→30.2%）しています。全ての日常生活圏域において増加しています。

【口腔機能リスク該当者の割合】

I. 性別・年齢別

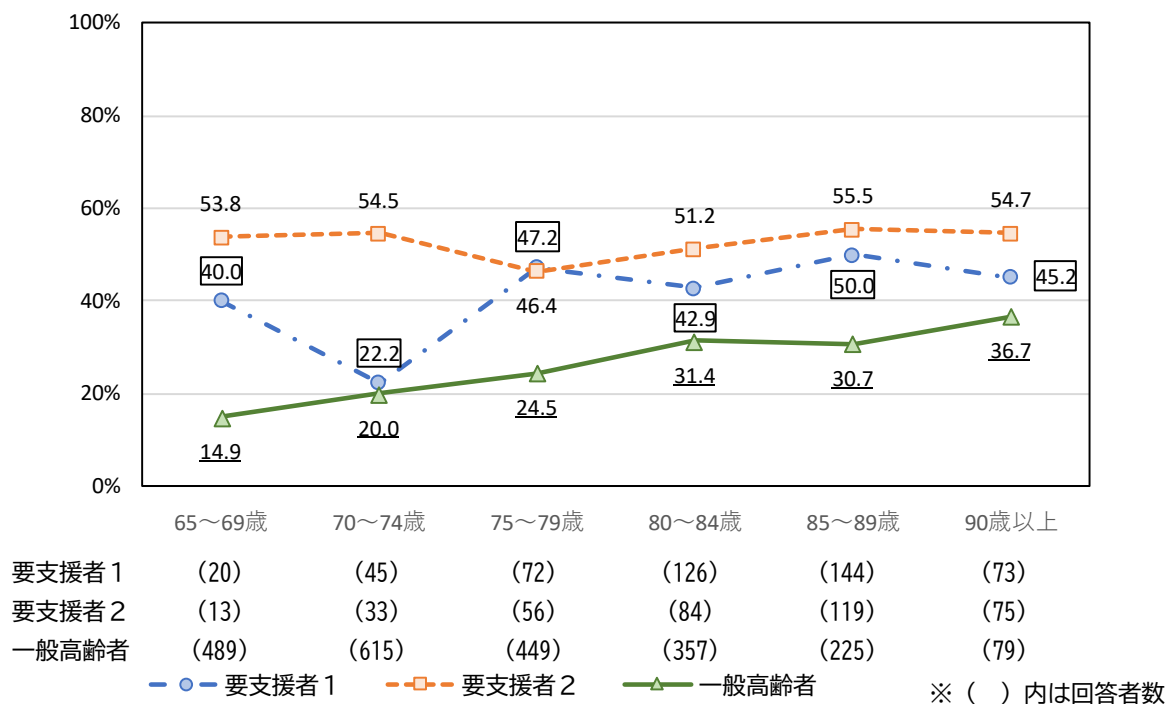


男性	(260)	(332)	(230)	(199)	(146)	(53)
女性	(274)	(396)	(392)	(426)	(364)	(190)

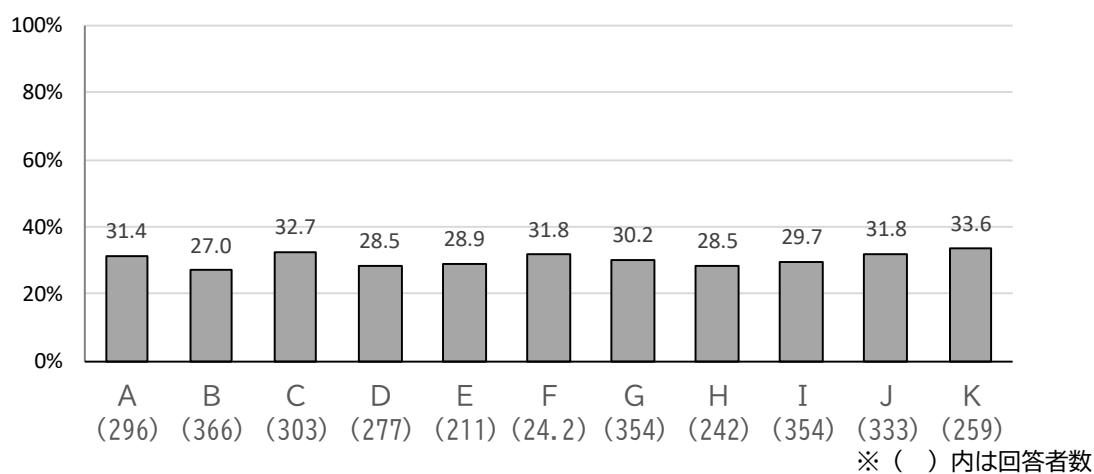
—○— 男性 —□— 女性 —△— 合計

※ () 内は回答者数

II. 要支援認定・年齢別



III. 日常生活圏域別



⑥認知

認知機能の評価結果をみると、回答者全体のうち 55.1%が認知機能低下者となっています。

性別・年齢階級別でみると、男性、女性ともに 80～84 歳から特に割合が高くなっています。

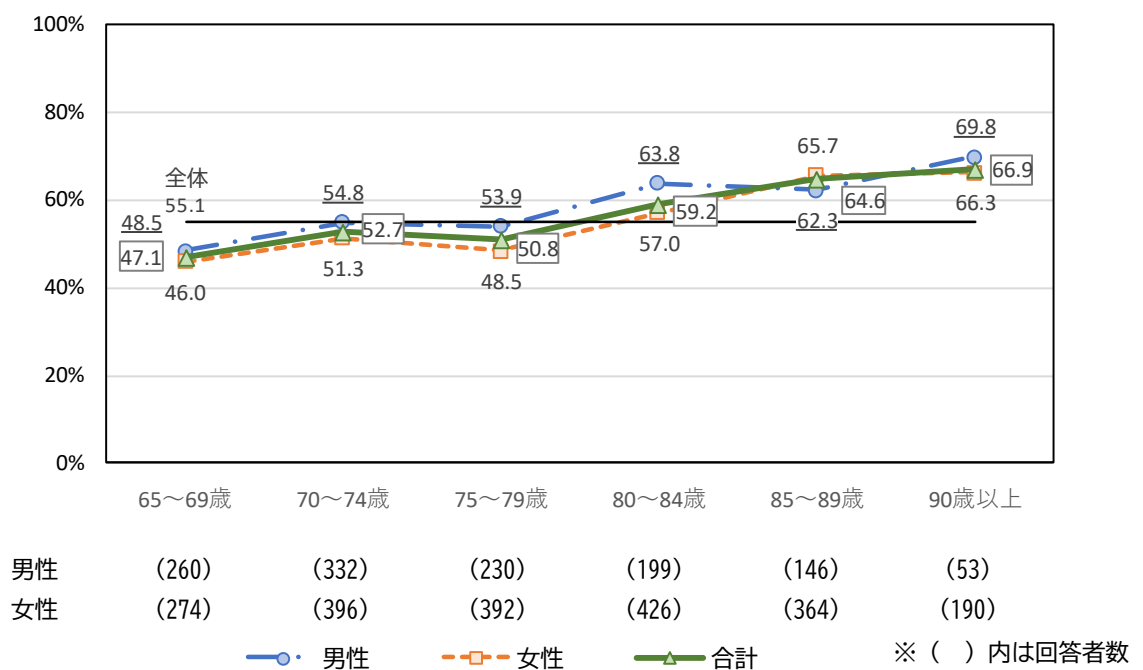
手段的日常生活動作能力（IADL）、知的能動性、社会的役割の低下者ほど、認知機能低下のリスクが高く、自立した生活や社会とのつながりの有無が、認知機能に影響していると考えられます。

<前回調査結果との比較>

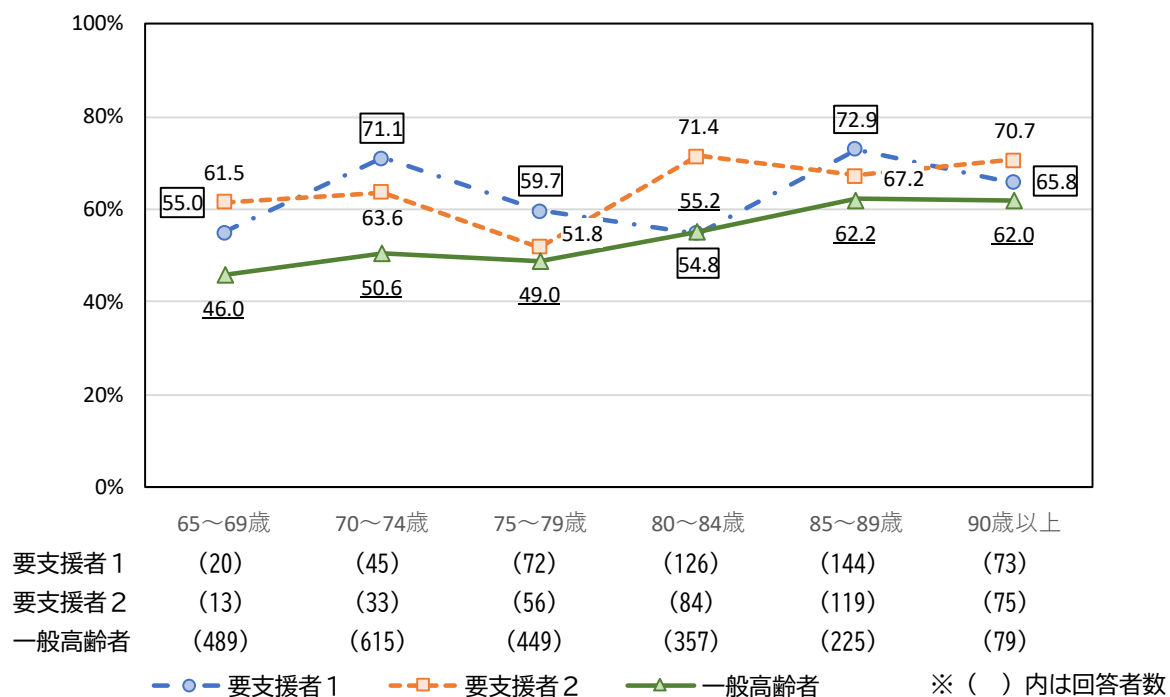
前回調査との比較では、認知機能低下者の割合がやや増加（54.3%→55.1%）しています。

【認知機能リスク該当者の割合】

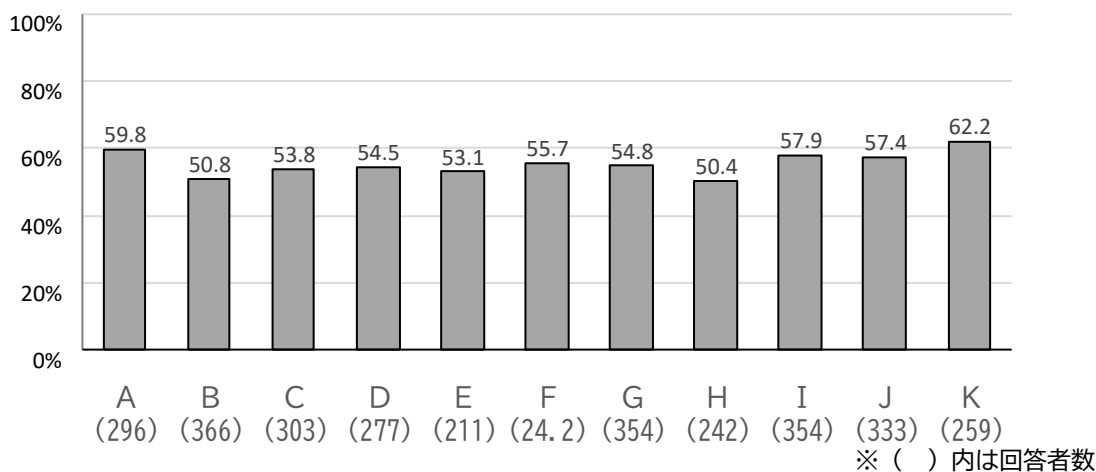
I. 性別・年齢別



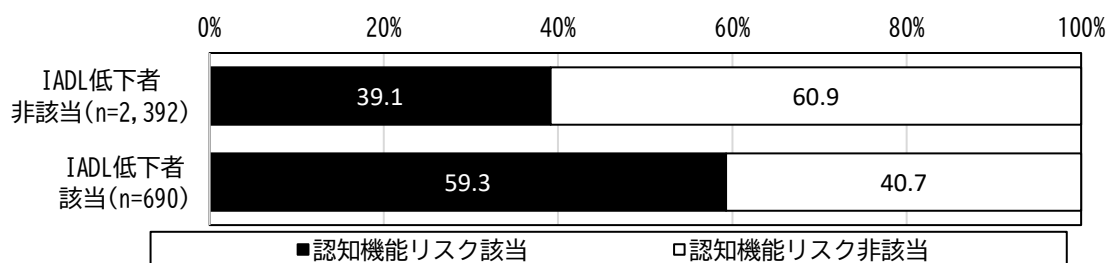
Ⅱ. 要支援認定・年齢別



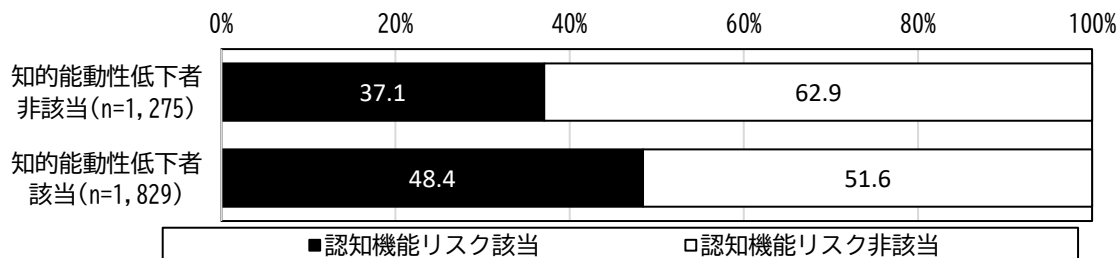
Ⅲ. 日常生活圏域別



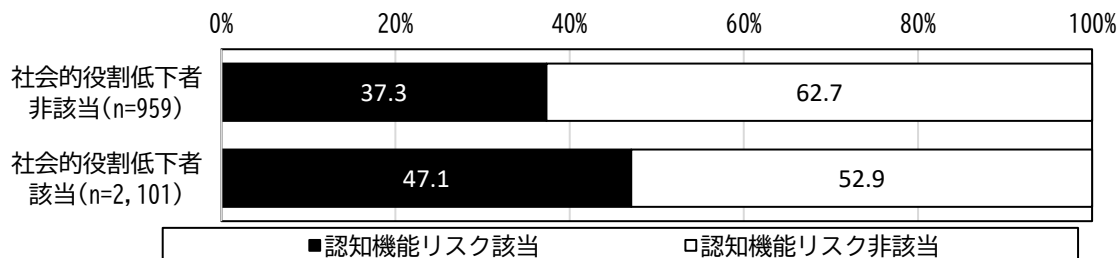
【認知リスクの有無（手段的日常生活動作「IADL」低下の有無）】



【認知リスクの有無（知的能動性低下の有無）】



【認知リスクの有無（社会的役割低下の有無）】



⑦うつ

うつの評価結果をみると、回答者全体のうち 44.5%がリスク該当者となっています。

性別・年齢階級別でみると、男性の 85～89 歳以上で特に割合が高くなっています。

圏域別では、大きな差は無いもののA、D圏域では 50%を超えています。

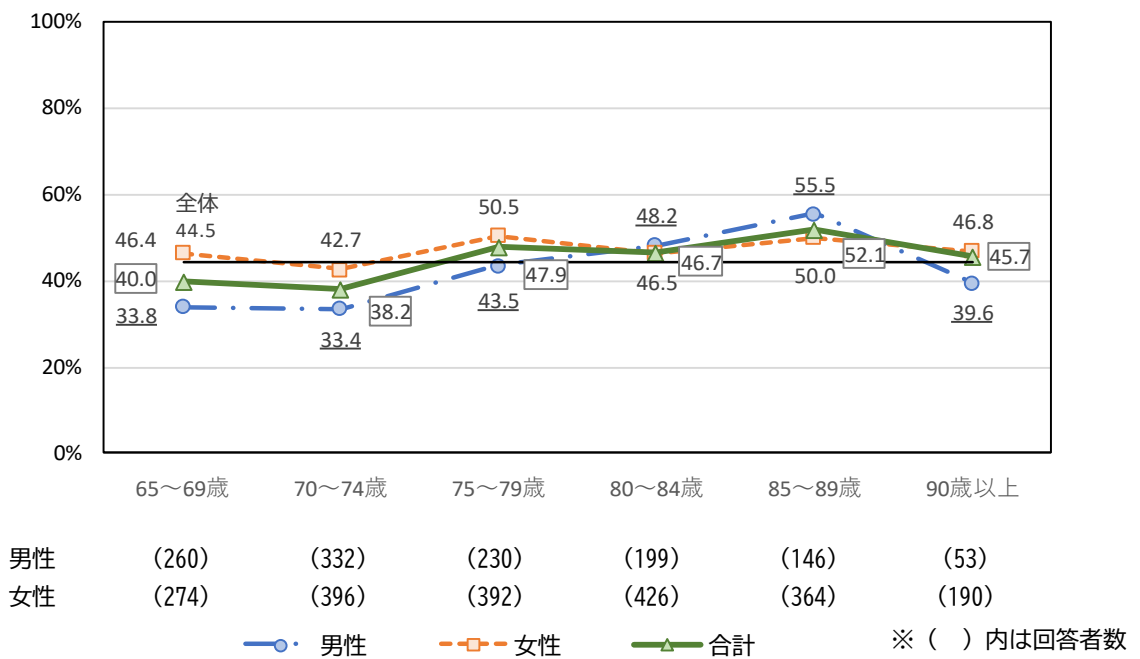
趣味や生きがいの有無別でみると、趣味、生きがいを持たない人ほど、うつのリスクが高くなっています。

<前回調査結果との比較>

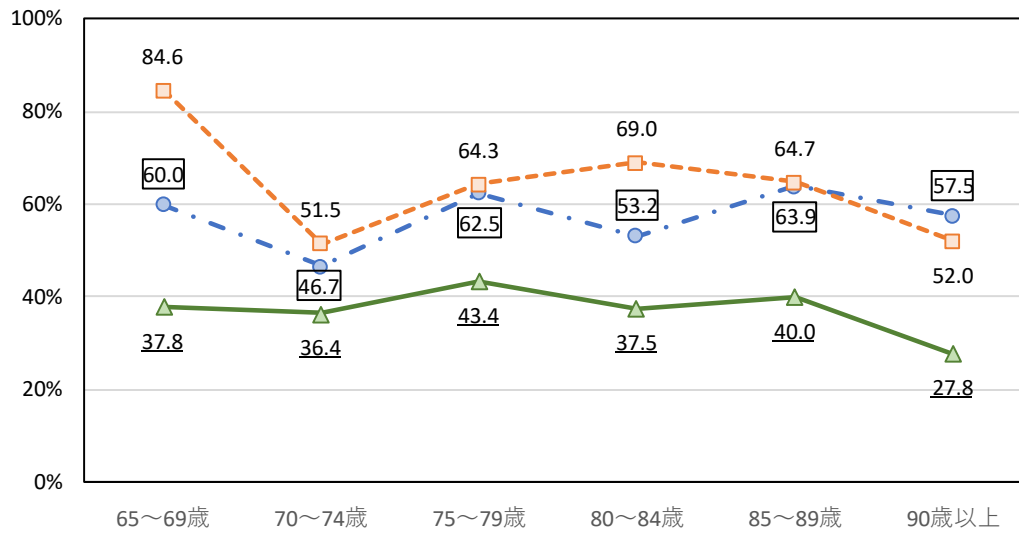
前回調査との比較では、うつリスク該当者の割合はやや減少（45.3%→44.5%）しています。

【うつリスク該当者の割合】

I. 性別・年齢別



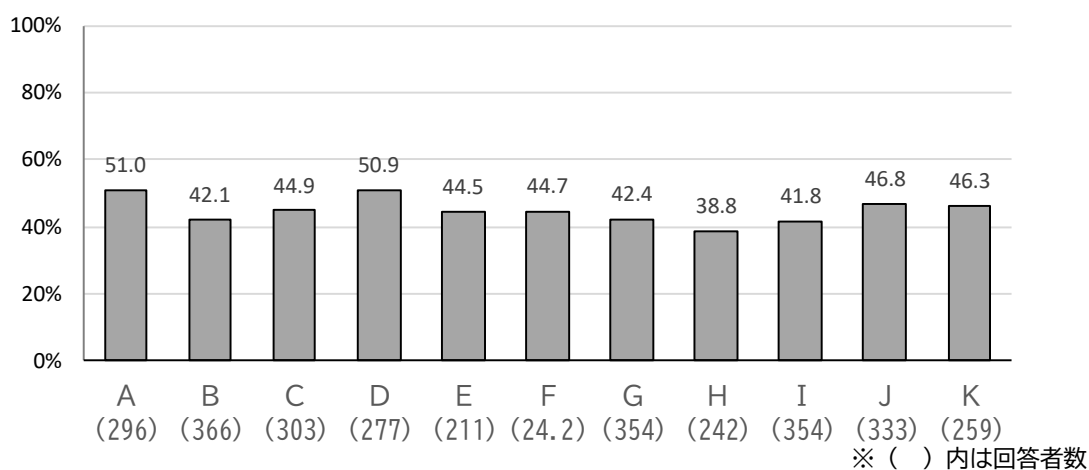
II. 要支援認定・年齢別



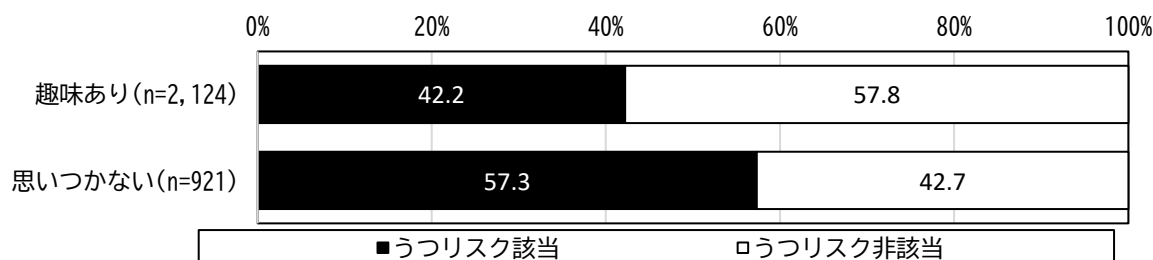
要支援者1	(20)	(45)	(72)	(126)	(144)	(73)
要支援者2	(13)	(33)	(56)	(84)	(119)	(75)
一般高齢者	(489)	(615)	(448)	(357)	(225)	(79)

※ () 内は回答者数

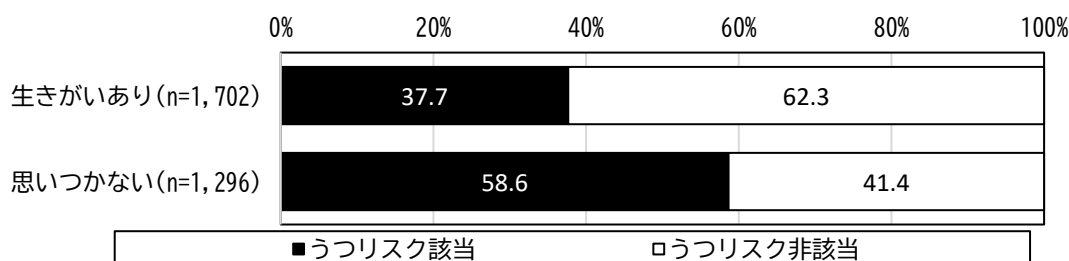
Ⅲ. 日常生活圏域別



【うつリスクの有無 (趣味の有無)】



【うつリスクの有無 (生きがいの有無)】



(2) 手段的日常生活動作

①手段的日常生活動作（IADL）

外出の際に自分で公共交通機関を利用したり、金銭を管理したりするというような、少し高度で日常生活を送る上で必要な動作について評価することができる老研式活動能力指標（高齢者が地域で自立して、活動的に日常生活を送る上で必要な機能(高次生活機能)を評価する指標）には、高齢者の手段的日常生活動作（IADL）に関する設問があり、「手段的日常生活動作（IADL）」として尺度化されています。

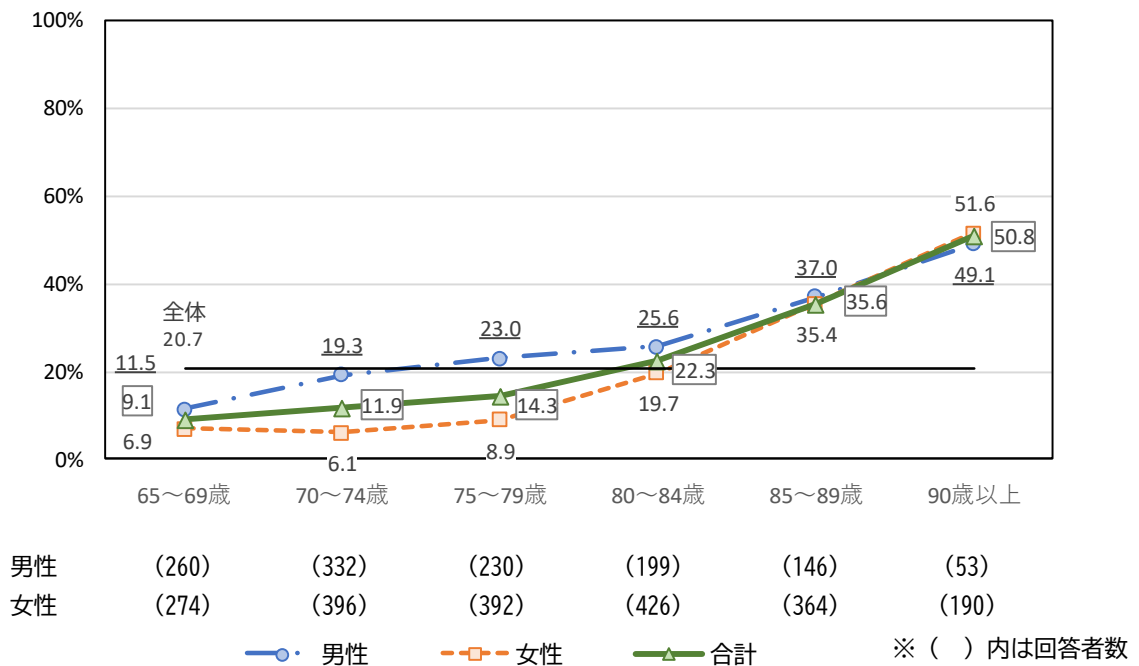
本調査における高齢者の手段的日常生活動作（IADL）をみると、回答者全体のうち20.7%が手段的日常生活動作の低下者に該当します。性別・年齢階級別でみると、男性、女性ともに85～89歳から低下者の割合が特に高くなっています。

<前回調査結果との比較>

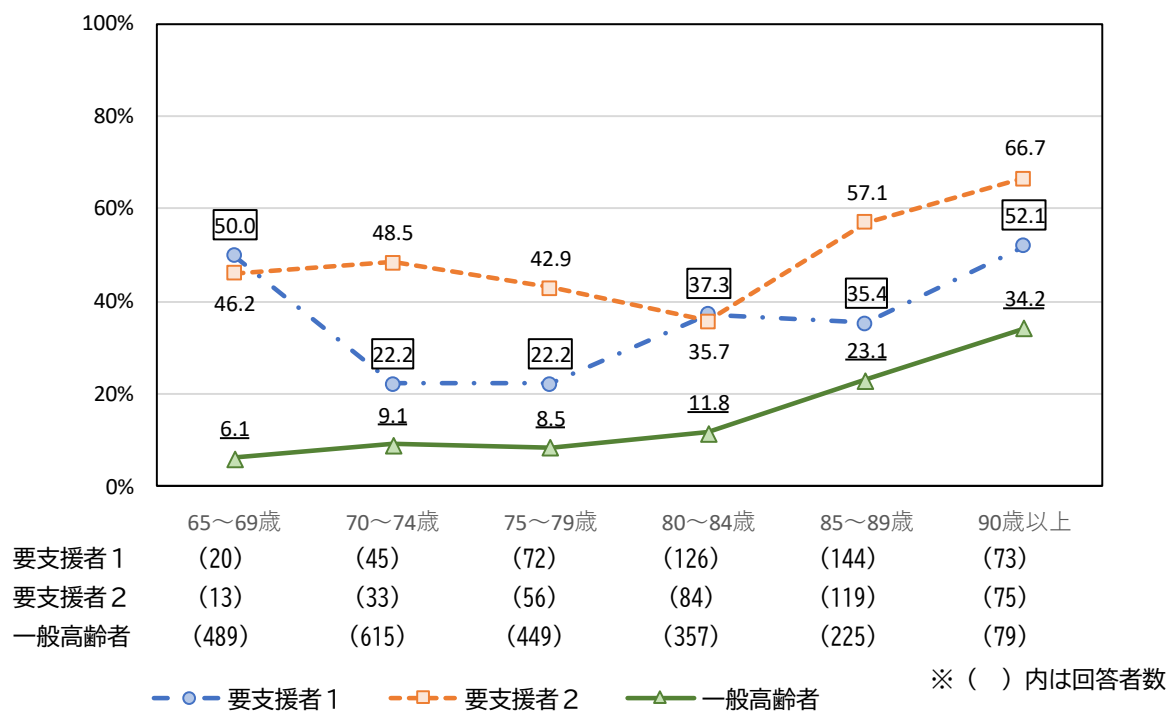
前回調査との比較では、手段的日常生活動作の低下者の割合が減少(26.2%→20.7%)しています。

【IADL低下者の割合】

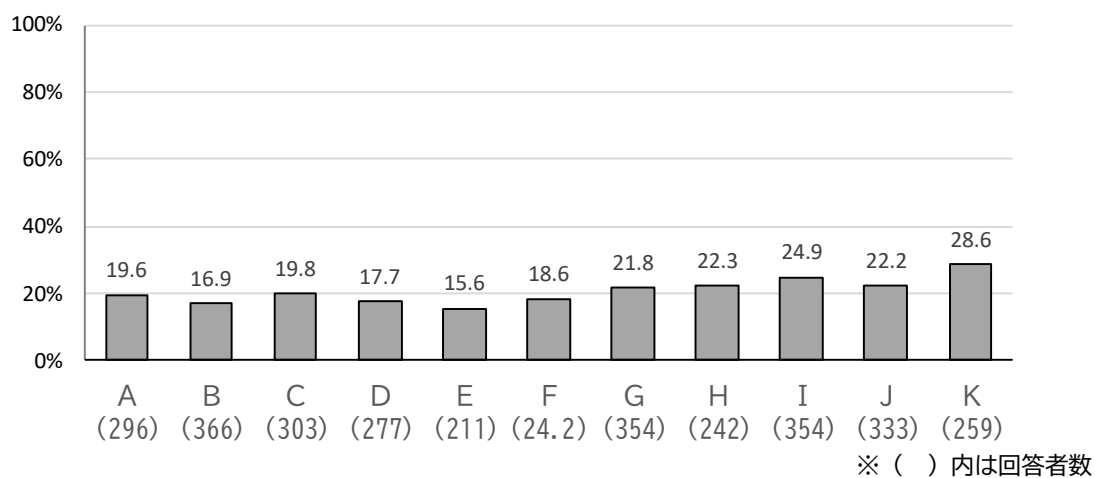
I. 性別・年齢別



II. 要支援認定・年齢別



III. 日常生活圏域別



②知的能動性

知的能動性の低下者は、回答者全体のうち 55.7%となっています。

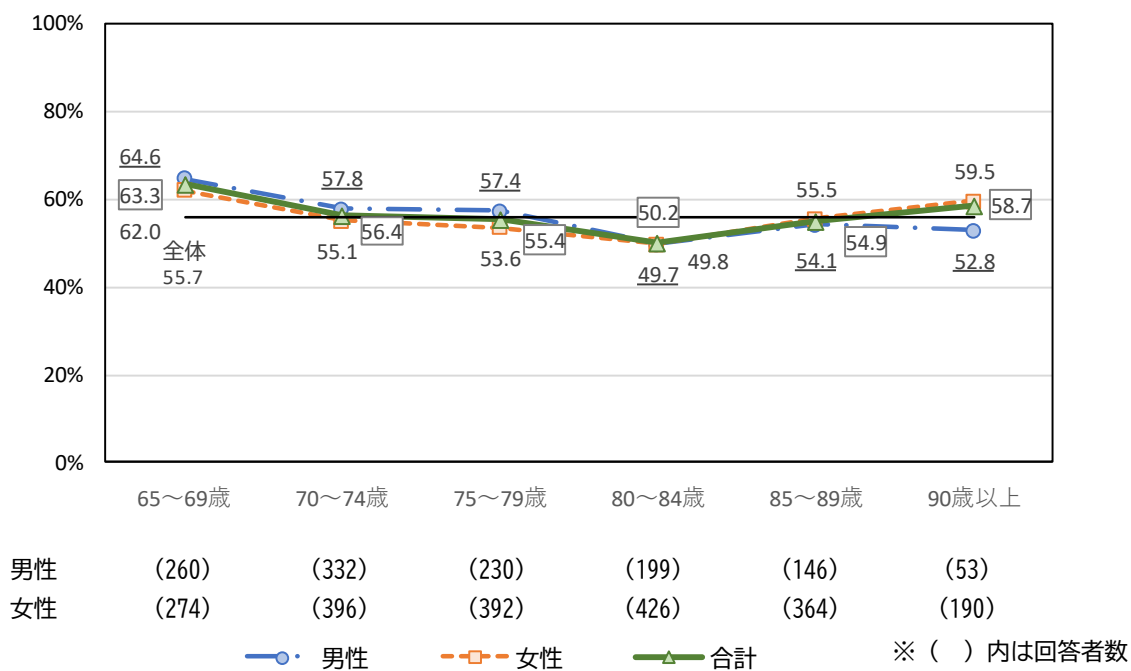
性別・年齢階級別でみると大きな差はみられませんが、やや若年層の割合が高くなっています。

<前回調査結果との比較>

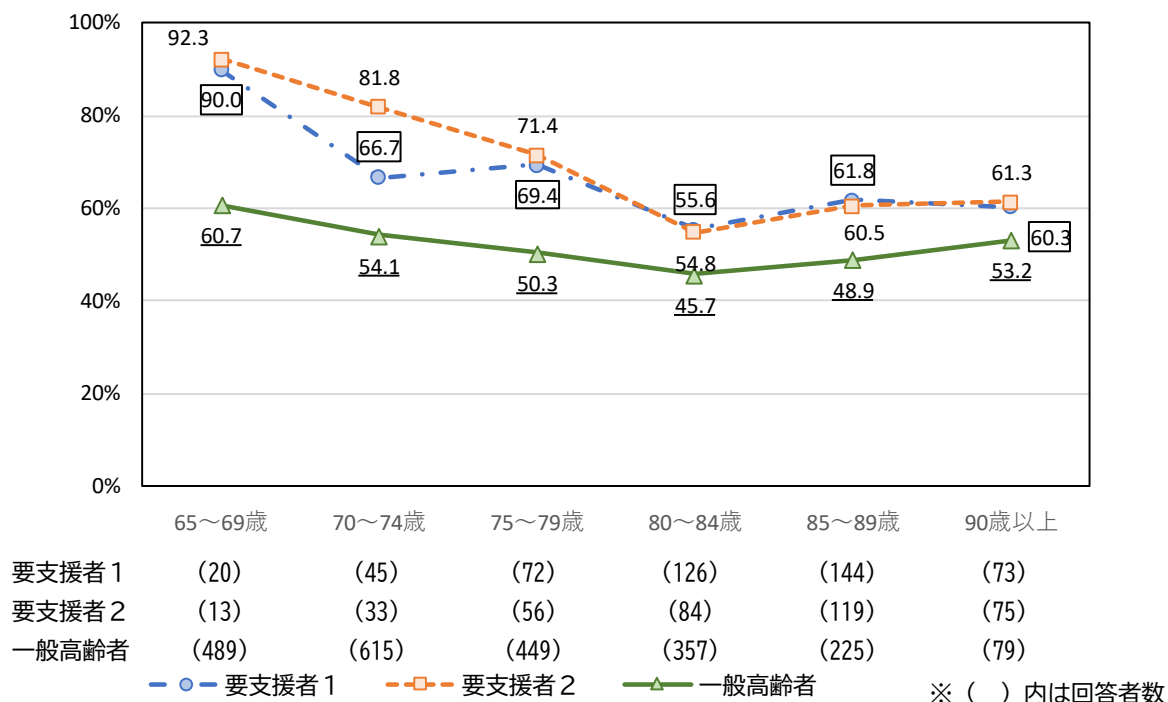
前回調査との比較では、知的能動性の低下者の割合が増加（50.3%→55.7%）しています。

【知的能動性低下者の割合】

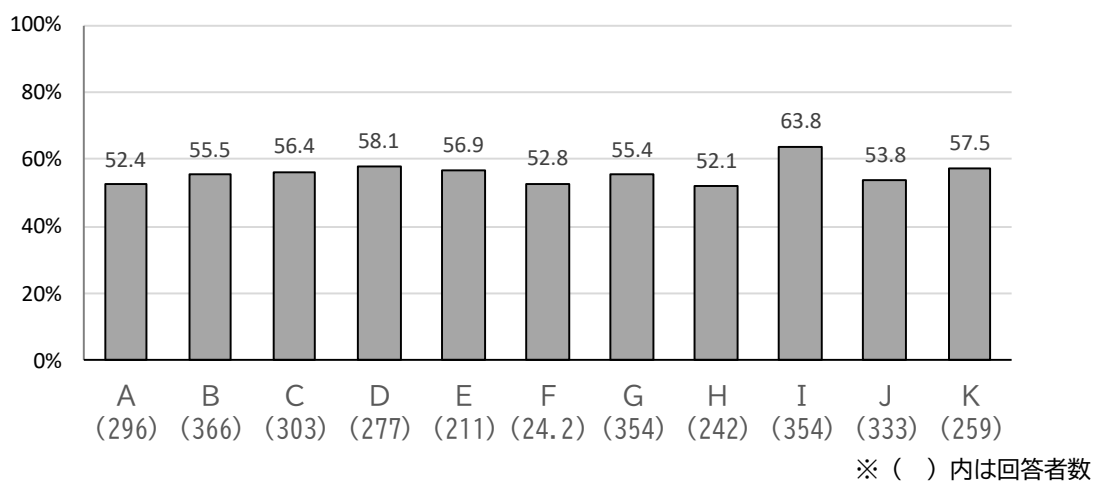
I. 性別・年齢別



Ⅱ. 要支援認定・年齢別



Ⅲ. 日常生活圏域別



(3) 社会参加

①社会的役割

社会的役割の低下者は、回答者全体のうち 63.9%となっています。

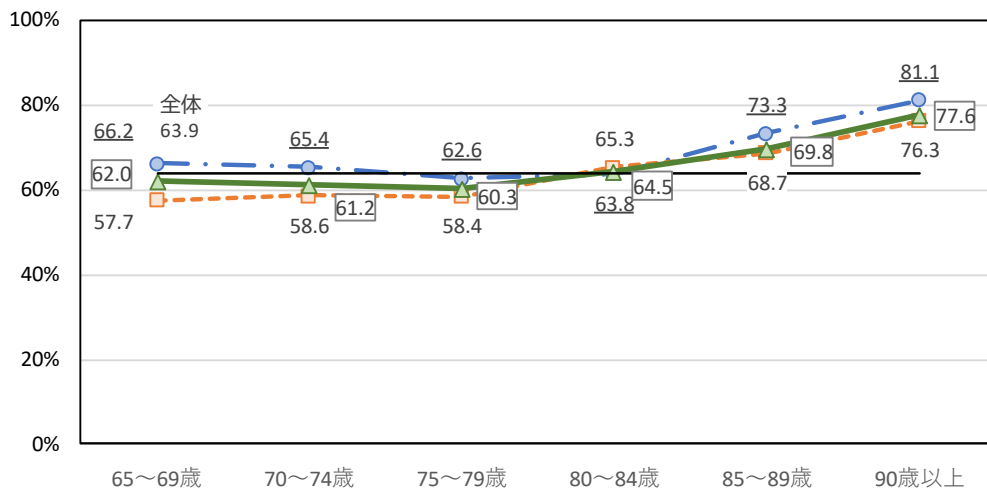
性別・年齢階級別で見ると、男性、女性ともに 80～84 歳から上昇しており、特に男性の 90 歳以上では社会的役割の低下者は 8 割を上回っています。

<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、社会的役割の低下者の割合が増加（61.8%→63.9%）しています。

【社会的役割低下者の割合】

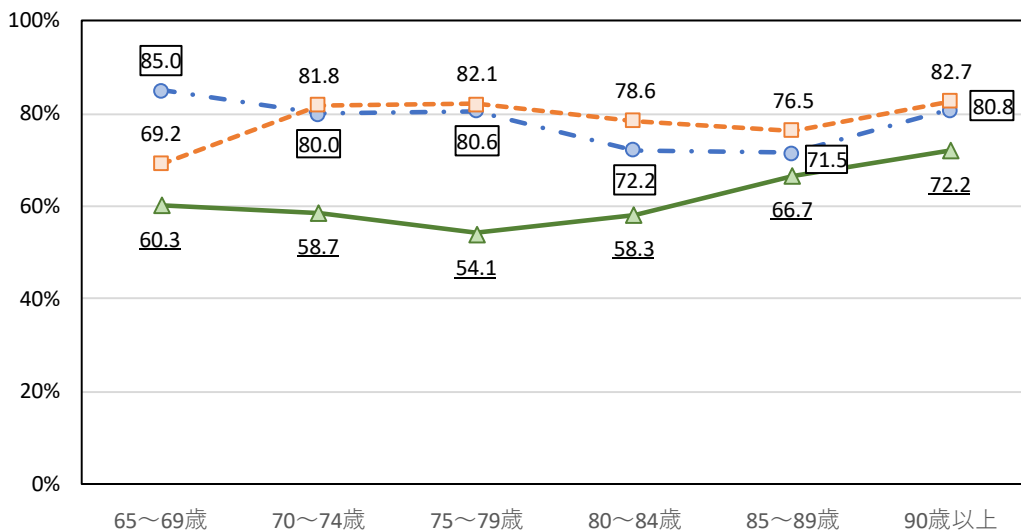
I. 性別・年齢別



男性	(260)	(332)	(230)	(199)	(146)	(53)
女性	(274)	(396)	(392)	(426)	(364)	(190)

● 男性 □ 女性 ▲ 合計 ※ () 内は回答者数

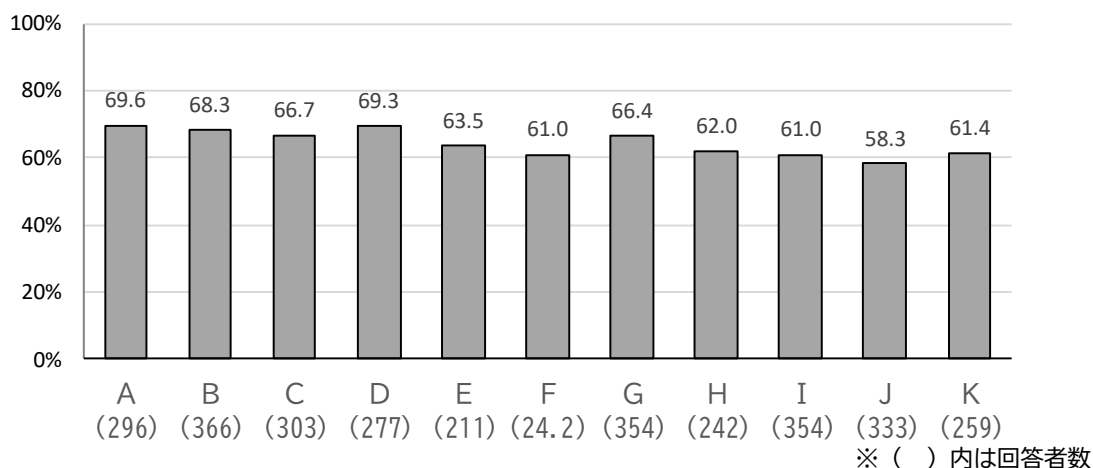
II. 要支援認定・年齢別



要支援者 1	(20)	(45)	(72)	(126)	(144)	(73)
要支援者 2	(13)	(33)	(56)	(84)	(119)	(75)
一般高齢者	(489)	(615)	(449)	(357)	(225)	(79)

● 要支援者 1 □ 要支援者 2 ▲ 一般高齢者 ※ () 内は回答者数

Ⅲ. 日常生活圏域別

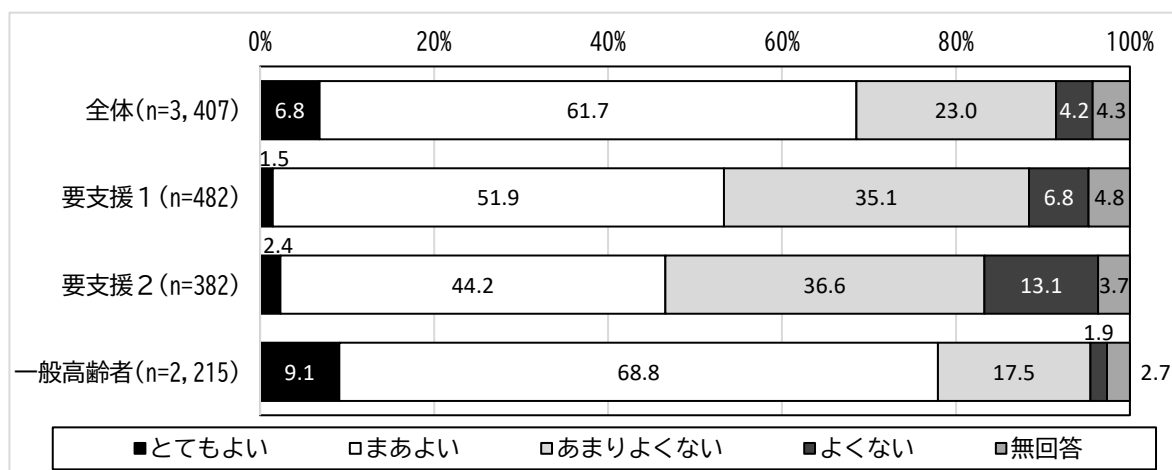


(4) 健康状態

「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『健康状態がよい人』の割合は、要支援1で53.4%、要支援2で46.6%、一般高齢者で77.9%となっています。また、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『健康状態がよくない人』の割合は、要支援1で41.9%、要支援2で49.7%、一般高齢者で19.4%となっています。

前回調査との比較では、『健康状態が良い人』の割合は、全体で68.8%→68.5%。『健康状態が良くない人』の割合は、全体で28.6%→27.2%とほぼ変動がありません。

【現在の健康状態について】



【現在の健康状態（運動器）】

単位：％

区分	有効回答数（件）	機能低下者	非該当	無回答
全体	3,407	27.5	60.1	12.4
とてもよい	233	4.3	83.3	12.4
まあよい	2,102	19.7	69.5	10.8
あまりよくない	782	49.7	38.5	11.8
よくない	144	66.7	24.3	9.0
無回答	146	18.5	39.7	41.8

【現在の健康状態（閉じこもり）】

単位：％

区分	有効回答数（件）	リスク該当者	非該当	無回答
全体	3,407	24.3	71.8	3.9
とてもよい	233	8.2	88.4	3.4
まあよい	2,102	19.7	77.9	2.3
あまりよくない	782	36.6	59.7	3.7
よくない	144	56.9	38.2	4.9
無回答	146	18.5	54.1	27.4

【現在の健康状態（転倒）】

単位：％

区分	有効回答数（件）	リスク該当者	非該当	無回答
全体	3,407	36.8	54.2	9.0
とてもよい	233	18.9	74.7	6.4
まあよい	2,102	33.3	59.4	7.3
あまりよくない	782	50.0	40.5	9.5
よくない	144	56.3	34.0	9.7
無回答	146	25.3	40.4	34.2

【現在の健康状態（低栄養）】

単位：％

区分	有効回答数（件）	リスク該当者	非該当	無回答
全体	3,407	2.0	88.4	9.6
とてもよい	233	0.4	94.8	4.7
まあよい	2,102	1.1	93.5	5.4
あまりよくない	782	4.3	87.5	8.2
よくない	144	6.9	77.8	15.3
無回答	146	0.0	19.2	80.8

【現在の健康状態（口腔機能）】

単位：％

区分	有効回答数（件）	リスク該当者	非該当	無回答
全体	3,407	30.2	65.9	3.9
とてもよい	233	6.0	91.0	3.0
まあよい	2,102	23.4	73.6	3.0
あまりよくない	782	50.5	46.8	2.7
よくない	144	65.3	32.6	2.1
無回答	146	23.3	50.0	26.7

【現在の健康状態（認知機能）】

単位：％

区分	有効回答数（件）	リスク該当者	非該当	無回答
全体	3,407	55.1	40.1	4.8
とてもよい	233	33.9	64.8	1.3
まあよい	2,102	52.3	46.0	1.7
あまりよくない	782	71.7	26.9	1.4
よくない	144	78.5	18.1	3.5
無回答	146	16.4	8.2	75.3

【現在の健康状態（うつ傾向）】

単位：%

区分	有効回答数（件）	リスク該当者	非該当	無回答
全体	3,407	44.5	50.4	5.1
とてもよい	233	15.5	82.8	1.7
まあよい	2,102	37.1	61.3	1.6
あまりよくない	782	72.1	25.4	2.4
よくない	144	86.1	13.2	0.7
無回答	146	8.2	12.3	79.5

【現在の健康状態（IADL）】

単位：%

区分	有効回答数（件）	5点（高い）	4点（やや低い）	3点以下（低い）	無回答
全体	3,407	71.6	10.4	10.3	7.7
とてもよい	233	88.4	4.3	2.1	5.2
まあよい	2,102	80.3	8.5	7.4	3.9
あまりよくない	782	59.6	16.6	17.5	6.3
よくない	144	36.1	18.8	36.1	9.0
無回答	146	18.5	6.2	0.7	74.7

【現在の健康状態（知的能動性）】

単位：%

区分	有効回答数（件）	4点（高い）	3点（やや低い）	2点以下（低い）	無回答
全体	3,407	38.9	28.7	26.9	5.5
とてもよい	233	47.6	27.5	18.5	6.4
まあよい	2,102	43.9	28.7	23.5	4.0
あまりよくない	782	28.5	31.1	36.7	3.7
よくない	144	20.1	22.9	50.0	6.9
無回答	146	26.7	24.7	15.8	32.9

【現在の健康状態（社会的役割）】

単位：%

区分	有効回答数（件）	4点（高い）	3点（やや低い）	2点以下（低い）	無回答
全体	3,407	29.3	24.9	38.9	6.8
とてもよい	233	50.2	25.8	18.5	5.6
まあよい	2,102	33.4	27.7	33.1	5.8
あまりよくない	782	17.3	20.6	57.4	4.7
よくない	144	6.3	13.2	72.2	8.3
無回答	146	24.7	17.8	24.0	33.6

【現在の健康状態（治療中、または後遺症のある病気）】

単位：%

区分	有効回答数（件）	現在の健康状態（治療中、または後遺症のある病気）																		
		ない	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他
全体	3,407	12.9	41.5	4.4	11.5	15.0	10.0	5.6	6.7	7.5	16.3	6.4	3.5	1.6	2.1	1.2	0.8	22.0	7.4	10.4
とてもよい	233	35.6	28.3	1.7	3.9	6.0	9.4	0.9	1.3	3.4	7.3	2.6	0.4	0.4	0.9	0.4	0.0	12.0	1.7	6.4
まあよい	2,102	15.4	42.0	3.9	8.9	14.0	10.2	4.1	5.3	6.5	13.6	4.2	2.9	1.2	1.8	1.1	0.5	19.5	5.9	9.6
あまりよくない	782	3.7	48.3	6.4	19.2	21.7	11.8	10.0	10.9	11.0	25.6	12.3	4.7	2.4	2.9	1.5	1.3	31.3	12.4	14.5
よくない	144	1.4	46.5	6.9	25.7	19.4	6.9	14.6	17.4	16.7	29.9	18.1	13.9	4.9	6.9	2.8	2.8	38.2	16.0	13.9
無回答	146	0.7	13.7	2.1	5.5	2.7	1.4	2.1	2.7	0.7	6.2	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	1.4	6.8	2.7	3.4

○ 調査結果の考察（健康状態、リスク該当、疾病状況）

◆現状

- 生活機能評価については、各項目で、年齢が高くなるほど機能低下者やリスク該当者の割合が高くなる傾向にある。
- 項目別でみると、運動器機能では加齢ともにリスク該当者の割合が上昇している。
- 現在の健康状態と各リスクとの関連をみると、いずれも健康状態が悪くなるほどリスク該当者の割合は高くなっている。特に認知機能やうつつのリスク該当者は、健康状態が「よくない」と回答した人の割合が8割程度となっており、他に比べ高い割合を占めている。
- 健康状態と疾病の状況（現在治療中、または後遺症のある病気はあるか）をみると、健康状態が「とてもよい」場合には、現在治療中、または後遺症のある病気は「ない」との回答が最も多く、これから健康状態が悪くなっていくと（まあよい→あまりよくない→よくない）、「高血圧」「目の病気」「筋骨格の病気」「心臓病」などの割合が高くなる。

◆前回調査結果との比較

- 運動器リスク該当者、低栄養リスク該当者はほぼ変わっていないが、転倒リスク該当者、うつつリスク該当者、IADL低下者は減少しており、閉じこもりリスク該当者、口腔機能低下者、認知機能低下者、知的能動性低下者、社会的役割低下者は増加している。

◆課題

リスク該当者の割合を比較すると、上位2項目は認知機能（55.1%）、うつ（44.5%）で、他に比べ高くなっている。また、これらの該当者を健康状態別でみると、健康状態が「よくない」と回答した人が7割から8割を占めている。このことから、健康状態と認知機能やうつつのリスクには関連があるものと考えられる。

これらの状況改善のためには、介護予防の視点からの認知症の予防や早期の発見・対応・相談などの取り組みとともに、うつ予防のための社会参加や交流活動、生きがいづくりなどについて促進することが重要である。

一方で、健康状態の悪化を防ぐための健康の維持・増進に関する取り組みも重要であり、保健と介護予防の分野が相互に連携して進めていくことが課題となる。

【今後の取り組み】

高齢者自身に対して

- 介護予防の観点からも、現在の健康状態を維持・増進することについて、高齢者に対する周知・啓発活動が重要であり、市や地域の健康増進に関する取組に対して、積極的な参加を促進する必要がある。

高齢者の家族に対して

- 高齢者の健康づくり、介護予防、社会参加や生きがいづくりの取り組みについて、家族へも周知を図り、さらなる参加促進を行う必要がある。
- 閉じこもりリスクについては独居だけではなく、子と2世帯の家庭においてもリスクが高くなっており、家族を含めて啓発が必要である。

地域住民に対して

- 認知症、うつに関するリスクが高い状況について、高齢者や高齢者家族以外の地域住民に対する周知を進め、地域で支え合うための見守りネットワークの取り組みや、認知症サポーターの養成などを促進し、地域ぐるみで認知症高齢者とその家族を支える仕組みづくりが必要である。

その他

- 健康の維持・増進や認知症の早期発見、早期治療が重要であるため、医療機関、行政、地域包括支援センターや地域の活動など、相互の連携強化が必要である。

3 社会参加

(1) 趣味・生きがい

趣味があると回答した人の割合は、一般高齢者で 69.2%、要支援1で 57.5%、要支援2で 53.7%と、身体状態が悪化するにつれ割合が低くなっています。

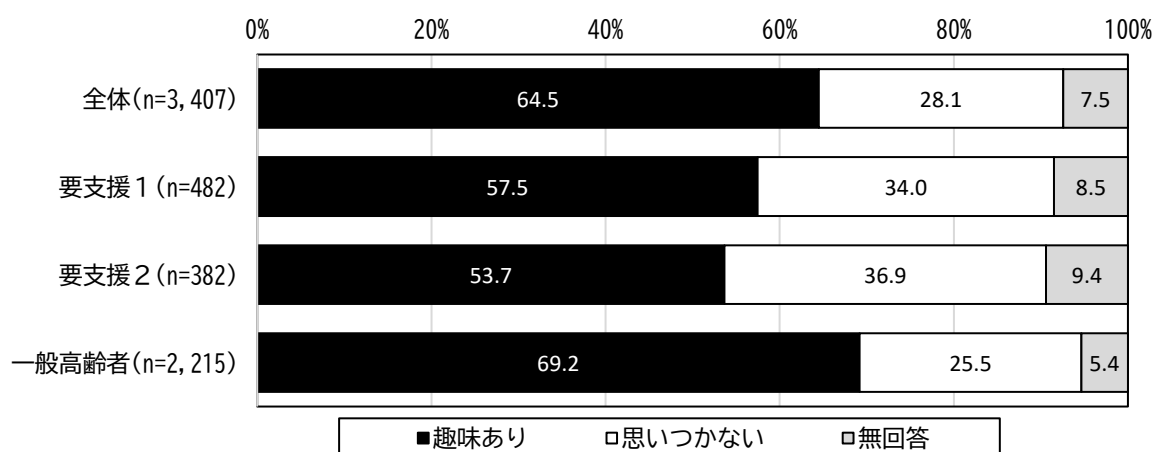
生きがいがあると回答した人は、一般高齢者で 56.6%、要支援1で 44.4%、要支援2で 43.5%となっており、身体状態が悪化するにつれ、その割合が低くなっています。

健康状態別でみると、状態がよい人ほど、趣味、生きがいがあると回答する割合が、高くなっています。

<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、趣味があると回答した人の割合は、全体で 72.2%→64.5%と減少し、生きがいがあると回答した人についても、56.3%→52.0%と減少しています。

【趣味の有無について】

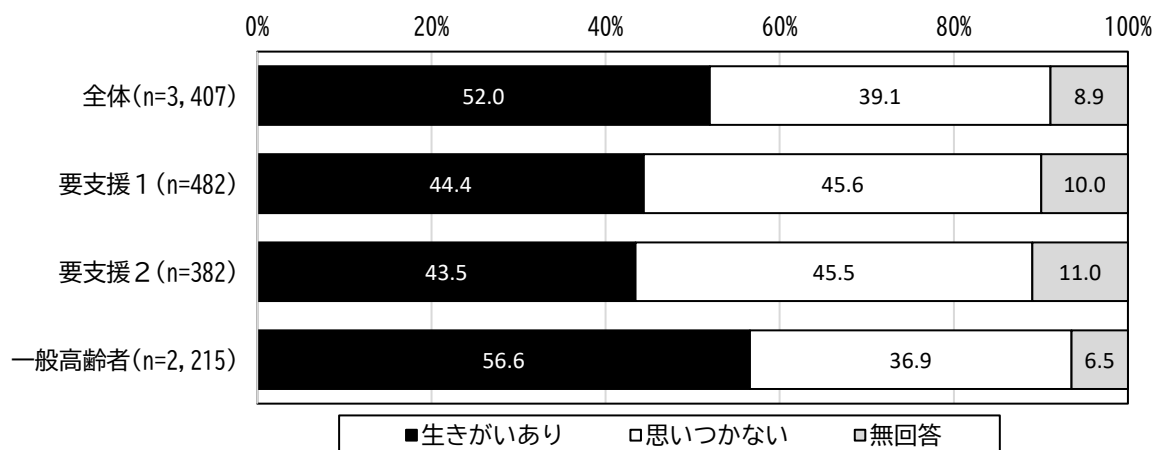


【現在の健康状態（趣味の有無）】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	趣味あり (%)	思いつかない (%)	無回答 (%)
全体	3,407	64.5	28.1	7.5
とてもよい	233	79.4	14.2	6.4
まあよい	2,102	68.8	24.5	6.7
あまりよくない	782	56.3	38.4	5.4
よくない	144	41.7	52.1	6.3
無回答	146	45.2	21.9	32.9

【生きがいの有無について】



【現在の健康状態（生きがいの有無）】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	生きがい (%)	思いつかない (%)	無回答 (%)
全体	3,407	52.0	39.1	8.9
とてもよい	233	74.7	17.2	8.2
まあよい	2,102	56.8	35.4	7.8
あまりよくない	782	39.6	53.8	6.5
よくない	144	23.6	66.7	9.7
無回答	146	40.4	21.2	38.4

(2) 地域での活動

地域での活動への参加状況は、要支援の方は「介護予防のための通いの場」の参加の割合が高く（約3割）、一般の高齢者では「町内会・自治会」（約3割）「収入のある仕事」（約2.5割）の割合が高くなっています。

基本的には各項目とも、身体状態が悪化するに従って参加割合が低くなっていますが、「老人クラブ」は、比較的に身体状態による差が少なく、「介護予防のための通いの場」は、逆に一般高齢者より、要支援者の方が高くなっています。

一方で、地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として参加してみたいと思う高齢者は、市全体で、「是非参加したい」（5.6%）、「参加してもよい」（39.6%）の割合が合わせて5割近くとなっています。

また、介護予防のための通いの場以外のボランティアやスポーツ関係、趣味活動などの地域での活動に参加している方は、参加していない方に比べて、健康状態が「とてもよい」「まあよい」と答えた方を合わせた『健康状態がよい人』の割合が高くなっています。

地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加している方は、参加していない方に比べ「とても幸せ」「幸せ」と回答する割合が高く、また、生きがいがあると答える方の割合も高くなっています。

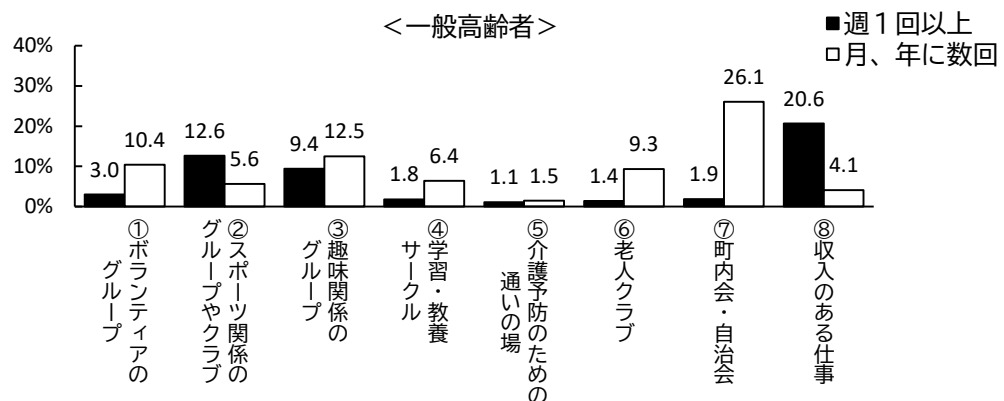
<前回調査結果との比較>

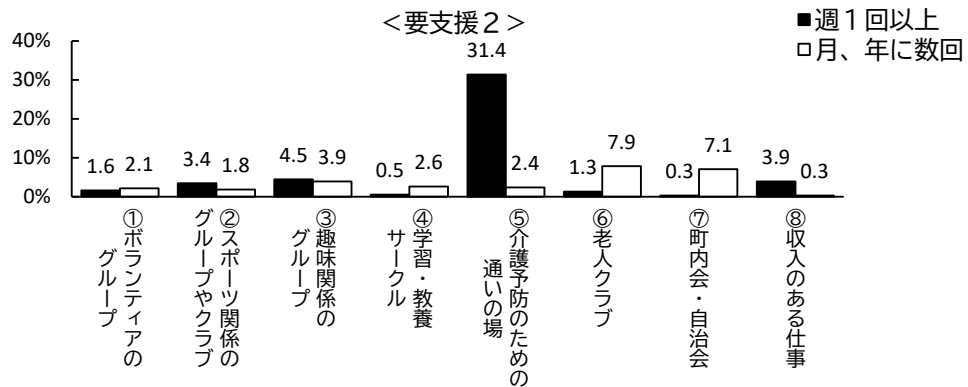
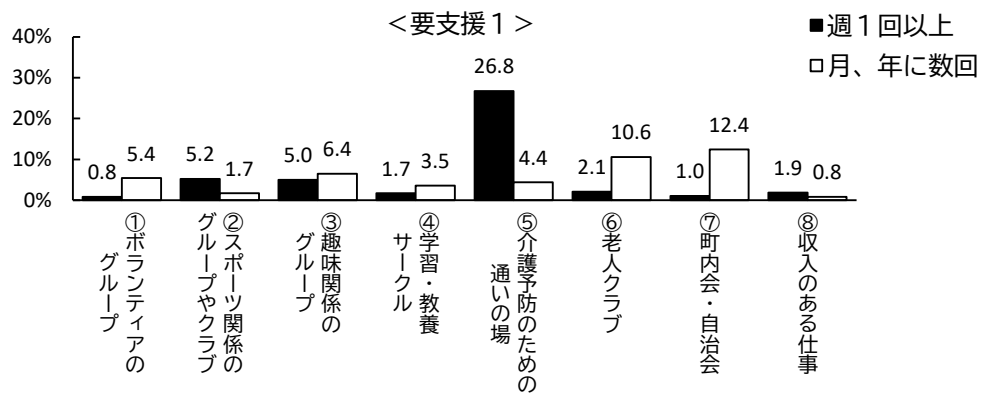
前回調査との比較では、一般の高齢者については全項目で参加割合が減少しています。

要支援者についても減少傾向ですが、「介護予防のための通いの場」、「収入のある仕事の項目」については、増加しています。

地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として「是非参加したい」（5.6%）「参加してもよい」（39.6%）を合わせた『参加してみたいと思う高齢者』は、全体で、約45%となっています。

【地域での活動への参加状況】



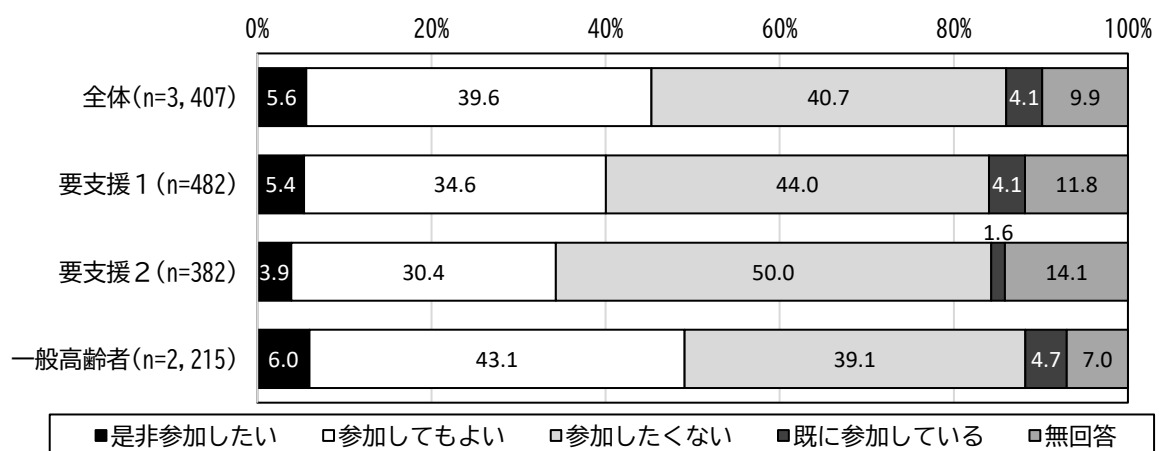


【健康づくり活動や趣味等の活動への参加意向】

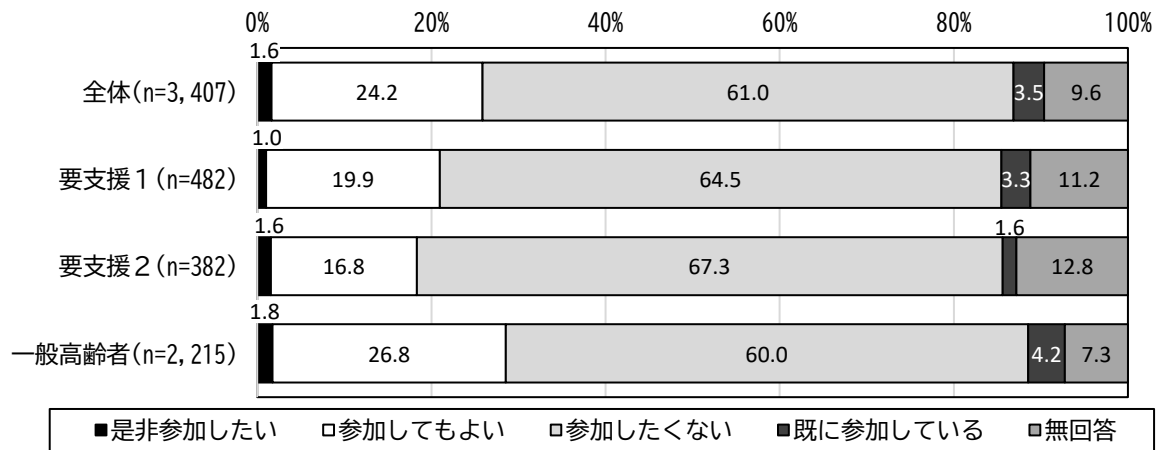
地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加者として「是非参加したい」(5.6%)「参加してもよい」(39.6%)を合わせた『参加してみたいと思う高齢者』は、全体で、約45%となっています。

前回調査との比較では、地域での活動への参加意欲は、参加者としては、全体で「ぜひ参加したい」7.4%→5.6%、「参加してもよい」41.2%→39.6%と減少しています。また、企画・運営（お世話役）としては、全体で「ぜひ参加したい」2.2%→1.6%、「参加してもよい」26.6%→24.2%と減少しています。

参加者として



企画・運営（お世話役）として



【現在の健康状態（地域での活動への参加頻度）】

①ボランティアのグループ

単位：%

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	3,407	0.7	0.8	1.1	4.1	4.1	57.9	31.3
とてもよい	233	2.6	2.1	1.3	6.0	5.6	46.8	35.6
まあよい	2,102	0.7	0.8	1.0	4.8	4.2	60.2	28.3
あまりよくない	782	0.5	0.1	1.0	2.3	4.3	60.0	31.7
よくない	144	0.0	0.0	0.7	0.7	2.1	63.2	33.3

②スポーツ関係のグループやクラブ

単位：%

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2〜3回	週1回	月1〜3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	3,407	2.6	4.5	3.1	2.7	1.8	55.2	30.1
とてもよい	233	7.7	5.6	4.3	3.0	3.0	43.3	33.0
まあよい	2,102	2.8	5.5	3.7	3.6	1.8	56.4	26.3
あまりよくない	782	1.3	2.7	1.8	0.8	2.0	59.3	32.1
よくない	144	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	64.6	34.7

③趣味関係のグループ

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	3,407	1.1	3.2	3.9	6.3	3.8	52.1	29.6
とてもよい	233	3.4	4.7	5.6	7.3	6.0	40.3	32.6
まあよい	2,102	1.1	3.5	4.3	7.0	4.2	53.7	26.2
あまりよくない	782	0.5	2.7	2.8	5.8	2.8	54.9	30.6
よくない	144	0.0	0.7	1.4	0.7	2.1	61.1	34.0

④学習・教養サークル

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	3,407	0.3	0.5	0.9	2.3	2.9	59.8	33.3
とてもよい	233	0.4	0.9	1.7	5.2	5.6	49.4	36.9
まあよい	2,102	0.3	0.7	1.0	2.5	3.2	62.5	29.9
あまりよくない	782	0.4	0.1	0.1	1.7	2.3	60.9	34.5
よくない	144	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	63.9	35.4

⑤介護予防のための通いの場

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	3,407	0.6	5.3	3.0	1.2	0.8	58.5	30.7
とてもよい	233	0.4	2.6	1.3	0.4	1.3	56.7	37.3
まあよい	2,102	0.5	4.9	2.2	1.3	0.9	61.8	28.4
あまりよくない	782	1.0	7.5	5.4	1.2	0.5	55.9	28.5
よくない	144	0.0	7.6	3.5	0.7	0.0	61.1	27.1

⑥老人クラブ

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	3,407	0.4	0.6	0.5	2.7	6.3	58.1	31.3
とてもよい	233	0.9	1.7	0.4	2.6	5.6	54.1	34.8
まあよい	2,102	0.5	0.6	0.4	3.1	6.6	60.5	28.3
あまりよくない	782	0.0	0.3	0.6	2.3	6.9	58.6	31.3
よくない	144	0.7	0.7	0.7	0.7	2.8	61.1	33.3

⑦町内会・自治会

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	3,407	0.2	0.7	0.7	4.8	15.9	46.9	30.8
とてもよい	233	0.9	1.7	0.0	7.7	16.3	39.1	34.3
まあよい	2,102	0.2	0.6	0.9	5.3	18.5	46.7	27.8
あまりよくない	782	0.1	0.6	0.5	3.5	11.4	52.8	31.1
よくない	144	0.0	0.0	0.0	0.7	10.4	56.3	32.6

⑧収入のある仕事

単位：％

区分	有効回答数 (件)	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	3,407	10.0	4.1	1.0	1.5	1.6	50.8	31.1
とてもよい	233	24.5	5.2	0.9	1.3	2.6	34.8	30.9
まあよい	2,102	10.8	5.2	1.3	1.7	1.7	51.8	27.5
あまりよくない	782	5.5	1.9	0.5	1.2	1.4	56.4	33.1
よくない	144	3.5	1.4	0.0	0.0	1.4	59.0	34.7

【現在の健康状態（地域の健康づくり・趣味の活動等に参加者としての参加意向）】

単位：％

区分	有効回答数（件）	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体	3,407	5.6	39.6	40.7	4.1	9.9
とてもよい	233	9.4	39.1	35.2	9.9	6.4
まあよい	2,102	5.9	44.1	38.2	4.1	7.6
あまりよくない	782	4.7	34.0	46.9	3.3	11.0
よくない	144	0.7	20.1	67.4	0.7	11.1

【現在の健康状態（地域の健康づくり・趣味の活動等に企画・運営としての参加意向）】

単位：％

区分	有効回答数（件）	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答
全体	3,407	1.6	24.2	61.0	3.5	9.6
とてもよい	233	6.0	30.0	48.1	9.4	6.4
まあよい	2,102	1.3	27.3	59.9	3.9	7.6
あまりよくない	782	1.4	18.8	67.9	1.7	10.2
よくない	144	0.0	9.0	81.3	0.0	9.7

【地域での活動への参加状況×現在のあなたの健康状態はいかがですか】

介護予防のための通いの場以外のボランティアやスポーツ関係、趣味活動などの地域での活動に参加している方は、参加していない方に比べて、健康状態が「とてもよい」「まあよい」と答えた方を合わせた『健康状態がよい人』の割合が高くなっています。

(上段：構成比 下段：人数)

現在のあなたの健康状態はいかがですか。								
属性	区分	全体	まあよい・ とてもよい の合計	と ても よ い	ま あ よ い	あ ま り よ く な い	よ く な い	無 回 答
総数	-	100.0	68.5	6.8	61.7	23.0	4.2	4.3
		3,407	2,335	233	2,102	782	144	146
ボ ラ ン テ ィ ア の グ ル ー プ	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	77.8	11.2	66.6	17.8	1.4	3.0
		365	284	41	243	65	5	11
	参加していない	100.0	69.6	5.5	64.1	23.8	4.6	2.0
		1,974	1,374	109	1,265	469	91	40
無回答	100.0	63.4	7.8	55.6	23.2	4.5	8.9	
		1,068	677	83	594	248	48	95
ス ポ ー ツ ク ラ ブ の グ ル ー プ 関 係	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	84.1	11.0	73.1	13.5	0.2	2.2
		498	419	55	364	67	1	11
	参加していない	100.0	68.4	5.4	63.0	24.7	4.9	2.0
		1,882	1,287	101	1,186	464	93	38
無回答	100.0	61.2	7.5	53.7	24.4	4.9	9.4	
		1,027	629	77	552	251	50	97
趣 味 関 係 の グ ル ー プ	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	77.8	10.1	67.7	18.2	1.1	2.9
		625	486	63	423	114	7	18
	参加していない	100.0	68.9	5.3	63.6	24.2	5.0	2.0
		1,775	1,223	94	1,129	429	88	35
無回答	100.0	62.2	7.5	54.6	23.7	4.9	9.2	
		1,007	626	76	550	239	49	93
学 習 ・ 教 養 サ イ ク ル	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	82.1	13.6	68.5	15.3	0.4	2.1
		235	193	32	161	36	1	5
	参加していない	100.0	70.1	5.6	64.4	23.4	4.5	2.1
		2,038	1,428	115	1,313	476	92	42
無回答	100.0	63.0	7.6	55.4	23.8	4.5	8.7	
		1,134	714	86	628	270	51	99
介 護 予 防 の 場 た め	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	59.6	3.8	55.8	33.1	4.6	2.7
		369	220	14	206	122	17	10
	参加していない	100.0	71.8	6.6	65.2	21.9	4.4	1.9
		1,992	1,430	132	1,298	437	88	37
無回答	100.0	65.5	8.3	57.2	21.3	3.7	9.5	
		1,046	685	87	598	223	39	99
老 人 ク ラ ブ	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	72.3	7.2	65.1	21.9	2.2	3.6
		361	261	26	235	79	8	13
	参加していない	100.0	70.6	6.4	64.2	23.1	4.4	1.8
		1,980	1,398	126	1,272	458	88	36
無回答	100.0	63.4	7.6	55.8	23.0	4.5	9.1	
		1,066	676	81	595	245	48	97
町 内 会 ・ 自 治 会	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	78.8	8.2	70.6	16.6	2.1	2.5
		759	598	62	536	126	16	19
	参加していない	100.0	67.1	5.7	61.4	25.8	5.1	2.0
		1,598	1,072	91	981	413	81	32
無回答	100.0	63.3	7.6	55.7	23.1	4.5	9.0	
		1,050	665	80	585	243	47	95
事 業 に 関 連 する 職 業	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	83.2	12.9	70.3	13.2	1.5	2.1
		619	515	80	435	82	9	13
	参加していない	100.0	67.6	4.7	62.9	25.5	4.9	2.0
		1,730	1,169	81	1,088	441	85	35
無回答	100.0	61.5	6.8	54.7	24.5	4.7	9.3	
		1,058	651	72	579	259	50	98

【地域での活動への参加状況×幸福感】

地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加している方は、参加していない方に比べ「とても幸せ」「幸せ」と回答する割合が高く、また、生きがいがあると答える方の割合も高くなっています。

(上段：構成比 下段：人数)

幸福感									
属性	区分	全体	とても 幸せの 合計	とても 幸せ	幸 せ	ふ つ う	不 幸	と も 不 幸	無 回 答
総数	-	100.0	58.3	13.0	45.2	31.5	4.3	0.5	5.5
		3,407	1,985	444	1,541	1,072	146	16	188
ボランティアの	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	70.7	17.3	53.4	22.5	3.0	0.3	3.6
		365	258	63	195	82	11	1	13
	参加していない	100.0	57.3	11.2	46.1	34.2	4.8	0.5	3.2
		1,974	1,132	222	910	675	94	9	64
	無回答	100.0	55.7	14.9	40.8	29.5	3.8	0.6	10.4
		1,068	595	159	436	315	41	6	111
スポーツや関係者の	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	72.9	16.7	56.2	22.7	1.8	0.4	2.2
		498	363	83	280	113	9	2	11
	参加していない	100.0	56.4	11.3	45.1	34.8	5.0	0.4	3.3
		1,882	1,061	213	848	655	95	8	63
	無回答	100.0	54.6	14.4	40.2	29.6	4.1	0.6	11.1
		1,027	561	148	413	304	42	6	114
趣味関係の	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	69.3	15.2	54.1	24.8	2.2	0.3	3.4
		625	433	95	338	155	14	2	21
	参加していない	100.0	56.5	11.2	45.3	34.8	5.0	0.4	3.3
		1,775	1,003	199	804	617	89	7	59
	無回答	100.0	54.5	14.9	39.6	29.8	4.3	0.7	10.7
		1,007	549	150	399	300	43	7	108
学習・サークル	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	74.5	14.5	60.0	19.6	1.7	0.4	3.8
		235	175	34	141	46	4	1	9
	参加していない	100.0	57.6	11.8	45.8	34.2	4.7	0.4	3.2
		2,038	1,173	240	933	697	95	8	65
	無回答	100.0	56.2	15.0	41.2	29.0	4.1	0.6	10.1
		1,134	637	170	467	329	47	7	114
介護予防のため	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	56.4	12.5	43.9	33.1	4.9	1.4	4.3
		369	208	46	162	122	18	5	16
	参加していない	100.0	59.0	11.9	47.1	33.2	4.4	0.4	3.0
		1,992	1,176	237	939	662	87	7	60
	無回答	100.0	57.5	15.4	42.1	27.5	3.9	0.4	10.7
		1,046	601	161	440	288	41	4	112
老人クラブ	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	67.9	16.6	51.2	26.3	2.2	0.3	3.3
		361	245	60	185	95	8	1	12
	参加していない	100.0	58.1	11.6	46.6	33.6	4.6	0.4	3.2
		1,980	1,151	229	922	665	92	8	64
	無回答	100.0	55.3	14.5	40.7	29.3	4.3	0.7	10.5
		1,066	589	155	434	312	46	7	112
町内会・自治会	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	65.9	14.1	51.8	28.3	2.6	0.3	2.9
		759	500	107	393	215	20	2	22
	参加していない	100.0	55.9	11.2	44.7	35.0	5.1	0.5	3.5
		1,598	893	179	714	559	82	8	56
	無回答	100.0	56.4	15.0	41.3	28.4	4.2	0.6	10.5
		1,050	592	158	434	298	44	6	110
収入のある仕事	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	65.9	14.2	51.7	27.5	3.4	0.6	2.6
		619	408	88	320	170	21	4	16
	参加していない	100.0	57.1	11.3	45.7	34.6	4.6	0.3	3.4
		1,730	987	196	791	599	80	5	59
	無回答	100.0	55.8	15.1	40.6	28.6	4.3	0.7	10.7
		1,058	590	160	430	303	45	7	113

【地域での活動への参加状況×生きがいの有無】

(上段：構成比 下段：人数)

生きがいはありますか。					
属性	区分	全体	生きがいあり	思いつかない	無回答
総数	-	100.0	52.0	39.1	8.9
		3,407	1,770	1,333	304
ボランティアの	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	73.7	20.8	5.5
		365	269	76	20
	参加していない	100.0	49.1	45.5	5.3
		1,974	970	899	105
	無回答	100.0	49.7	33.5	16.8
		1,068	531	358	179
スポーツや関係の	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	69.7	23.5	6.8
		498	347	117	34
	参加していない	100.0	48.8	45.7	5.5
		1,882	919	860	103
	無回答	100.0	49.1	34.7	16.3
		1,027	504	356	167
趣味関係の	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	74.6	20.5	5.0
		625	466	128	31
	参加していない	100.0	46.5	47.9	5.6
		1,775	826	850	99
	無回答	100.0	47.5	35.3	17.3
		1,007	478	355	174
学習・教養サークル	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	76.2	18.7	5.1
		235	179	44	12
	参加していない	100.0	50.1	44.6	5.3
		2,038	1,022	908	108
	無回答	100.0	50.2	33.6	16.2
		1,134	569	381	184
介護予防のため	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	52.6	40.1	7.3
		369	194	148	27
	参加していない	100.0	52.1	42.6	5.3
		1,992	1,037	849	106
	無回答	100.0	51.5	32.1	16.3
		1,046	539	336	171
老人クラブ	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	68.1	25.2	6.6
		361	246	91	24
	参加していない	100.0	50.2	44.5	5.4
		1,980	993	881	106
	無回答	100.0	49.8	33.9	16.3
		1,066	531	361	174
町内会・自治会	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	61.5	32.7	5.8
		759	467	248	44
	参加していない	100.0	48.1	46.4	5.4
		1,598	769	742	87
	無回答	100.0	50.9	32.7	16.5
		1,050	534	343	173
収入のある仕事	参加している (年に数回～週4回以上)	100.0	63.7	32.1	4.2
		619	394	199	26
	参加していない	100.0	49.0	45.1	5.9
		1,730	847	781	102
	無回答	100.0	50.0	33.4	16.6
		1,058	529	353	176

(3) まわりの人とのたすけあい

心配事や愚痴について、「聞いてくれる人」は「別居の子ども」が37.9%と最も高く、「聞いてあげる人」は「友人」が37.7%で最も高くなっています。病気の時の看病や世話を「してくれる人」「してあげる人」については「配偶者」の割合が最も高く、いずれも4割近くを占めています。

家族構成別でみると、1人暮らしの世帯で、心配事や愚痴を聞いてくれる人及び看病や世話をしてくれる人について、「そのような人はいない」と回答した人が1割～2割程度みられます。

<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、心配事を聞いてくれる人、あげる人では、配偶者の割合がそれぞれ(47.1%→34.4%)、(44.1%→32.9%)、と大きく減少。近隣や友人の割合も減少し、子や親戚などが若干増加しました。

病気の時の看病や世話をしてくれる人、あげる人でも、配偶者の割合が(52.2%→36.6%)、(52.5%→38.2%)と、いずれも大幅に減少しています。子や近隣、友人の割合が若干増加しています。

【心配事等を聞いてくれる人・聞いてあげる人、看病等をしてくれる人・してあげる人】

単位：％

区分	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親戚・兄弟姉妹・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない人
聞いてくれる人	34.4	22.4	37.9	33.0	10.3	37.7	3.0	5.0
聞いてあげる人	32.9	18.4	32.1	32.5	12.8	37.7	2.1	8.9
世話してくれる人	36.6	28.3	33.8	16.2	2.7	6.4	3.2	9.5
世話してあげる人	38.2	22.5	21.2	19.1	3.8	7.4	3.9	19.3

n=3,407

【家族構成（心配事や愚痴を聞いてくれる人）】

単位：％

区分	(有効回答数)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親戚・兄弟姉妹・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない人
1人暮らし	1,099	1.5	1.5	46.3	38.1	14.9	45.4	4.7	9.0
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	818	76.3	3.1	45.4	24.3	8.9	32.8	1.7	2.3
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	139	83.5	10.8	28.8	25.9	4.3	36.7	1.4	0.7
息子・娘との2世帯	603	33.5	61.5	30.7	34.3	8.6	32.3	1.3	4.0
その他	518	30.3	47.9	24.9	38.2	7.7	39.0	3.1	3.3
無回答	230	24.8	37.8	24.3	27.8	6.5	30.4	4.3	3.9

【家族構成（看病や世話をしてくれる人）】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親戚・兄弟姉妹・孫	近隣	友人	その他	そのような人はいない
1人暮らし	1,099	1.4	1.4	46.8	25.4	6.1	12.6	5.6	21.7
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	818	81.4	4.0	36.6	8.2	1.3	3.5	1.5	4.3
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	139	89.9	11.5	25.9	6.5	0.7	2.2	0.0	1.4
息子・娘との2世帯	603	34.8	80.1	23.7	12.3	1.0	2.8	1.2	1.8
その他	518	33.4	59.5	21.8	17.6	1.0	4.8	3.3	5.0
無回答	230	25.7	47.4	19.6	14.3	0.9	1.7	4.8	4.3

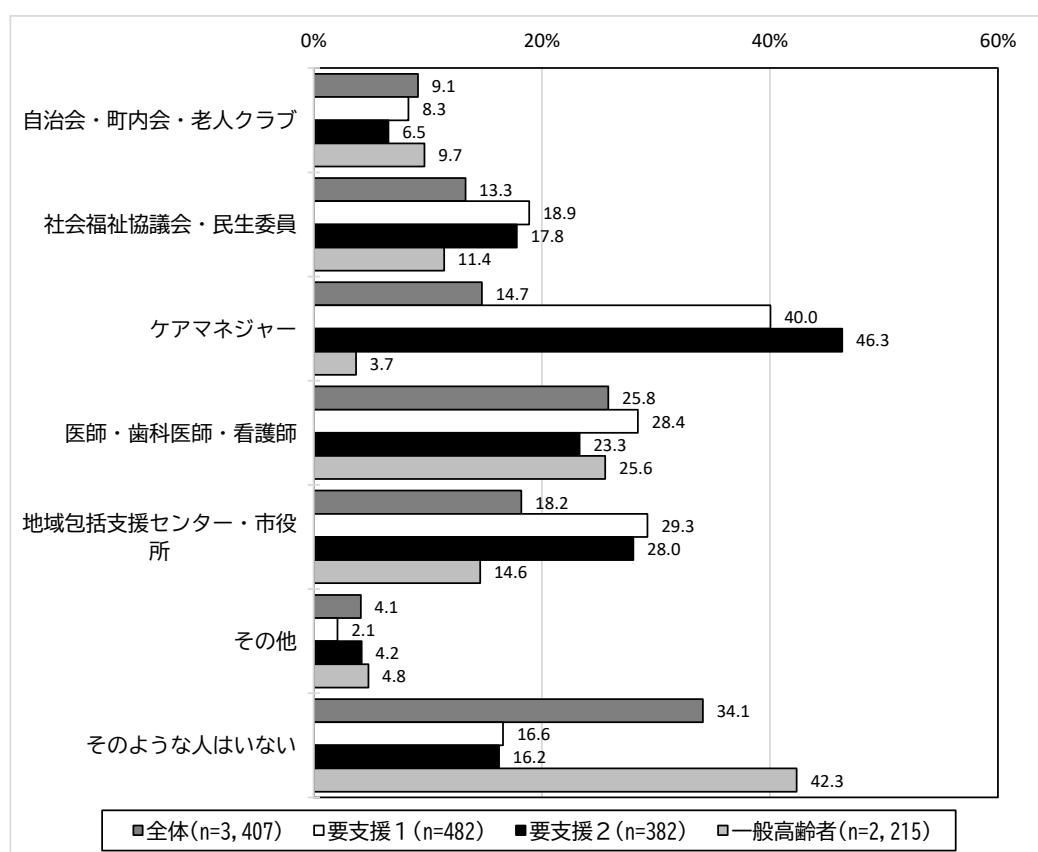
(4) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手としては、要支援者では、「ケアマネジャー」の割合が最も高く（4割強）、次いで「地域包括支援センター・市役所」（3割弱）、「医師・歯科医師・看護師」（3割弱）となっています。

一般高齢者では、「そのような人はいない」の割合が最も高く（42.3%）、次いで「医師・歯科医師・看護師」（25.6%）、「地域包括支援センター・市役所」（14.6%）となっています。

前回調査との比較では、「ケアマネジャー」（13.4%→14.7%）、と「そのような人はいない」（27.7%→34.1%）の割合が増加し、その他については減少しています。

【家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手】



(5) 友人関係

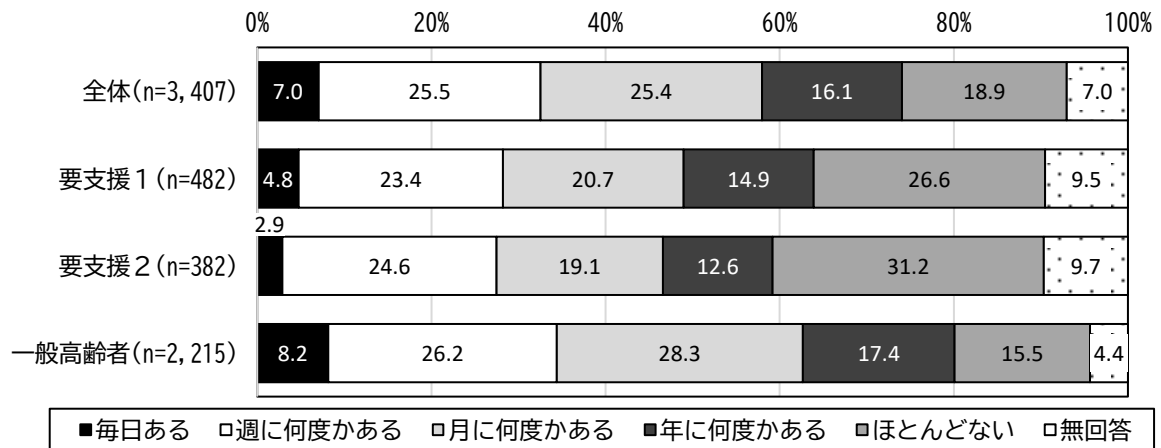
友人や知人と会う頻度については、要支援の方は、「ほとんどない」の割合が最も高く（3割程度）、次いで「週に何度かある」（25%弱）、「月に何度かある」（約2割）となっています。

一般高齢者では、「月に何度かある」の割合が最も高く（28.3%）、次いで「週に何度かある」（26.2%）、「年に何度かある」（17.4%）となっています。

<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、「毎日ある」から「年に何度かある」までの項目は全てが減少し、「ほとんどない」が（14.6%→18.9%）と増加しています。

【友人や知人と会う頻度】



【家族構成（友人や知人と会う頻度）】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答
全体	3,407	7.0	25.5	25.4	16.1	18.9	7.0
1人暮らし	1,099	8.4	25.8	26.5	15.6	17.4	6.5
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	818	6.5	24.7	26.0	18.1	18.3	6.4
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	139	9.4	28.1	22.3	20.9	16.5	2.9
息子・娘との2世帯	603	6.0	27.2	24.7	15.8	21.4	5.0
その他	518	6.6	24.1	28.2	16.2	20.5	4.4
無回答	230	5.2	24.3	15.7	8.7	20.0	26.1

(6) 外出を控えているか

外出を控えているかについては「はい」(42.8%)「いいえ」(53.0%)となっています。

外出を控えている理由については、「足腰などの痛み」(47.6%)、「交通手段がない」(15.8%)、「トイレの心配(失禁など)」(13.7%)、「外での楽しみが無い」(11.8%)、「病気」(11.0%)、「耳の障害(聞こえの問題)」(8.6%)などとなっています。

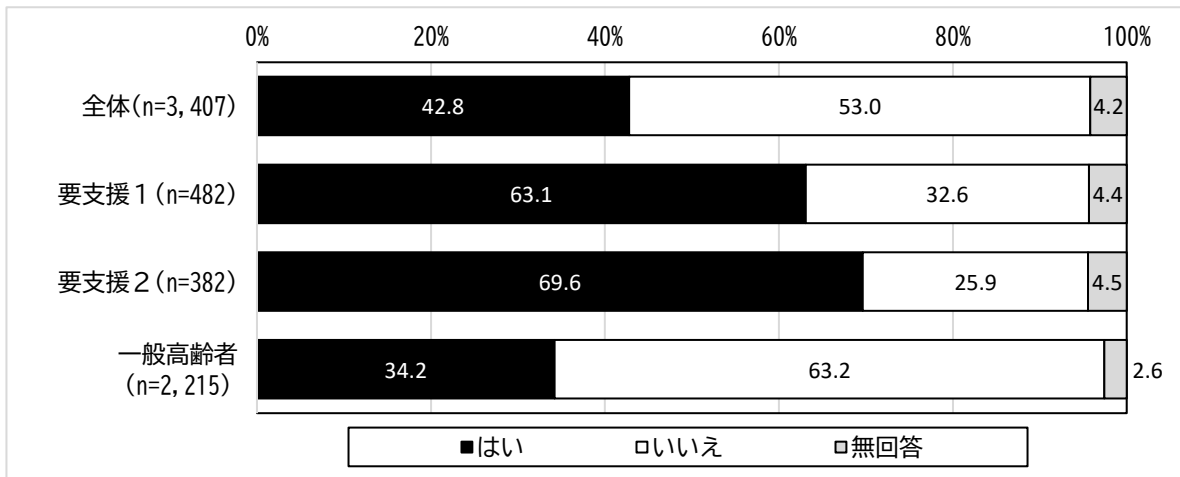
性差が見られた項目としては、男性は女性と比べ、病気、障害、外での楽しみが無い、経済的に出られないの項目で多くなっており、女性は足腰などの痛み、交通手段が無い、が男性より多くなっています。

<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、外出を控えている方が、「はい」(30.2%→42.8%)「いいえ」(68.7%→53.0%)と増加しています。

外出を控えている理由の前回調査との比較では、全体で「その他」(9.3%→32.7%)「外での楽しみが無い」(11.5%→11.8%)の割合が増加し、他の項目は減少しています。

【外出を控えているか】



【外出を控えている理由】

(上段：構成比 下段：人数)

属性	区分	全体	病 気	障 害 (脳 卒 中 の 後 遺 症 な ど)	足 腰 な ど の 痛 み	禁 ト イ レ の 心 配 (失 禁 な ど)	耳 の 障 害 (聞 こ え の 問 題 な ど)	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	そ の 他	
													構成比
総数	-	100.0	11.0	3.2	47.6	13.7	8.6	6.4	11.8	7.6	15.8	32.7	
		1,458	160	47	694	200	126	94	172	111	230	477	
性別	男性	100.0	15.6	5.9	39.8	13.4	9.0	6.6	14.6	11.2	12.4	33.2	
		410	64	24	163	55	37	27	60	46	51	136	
	女性	100.0	9.0	2.3	50.6	13.4	8.0	6.2	10.8	6.2	16.9	33.2	
		1,000	90	23	506	134	80	62	108	62	169	332	
無回答	100.0	12.5	0.0	52.1	22.9	18.8	10.4	8.3	6.3	20.8	18.8		
		48	6	0	25	11	9	5	4	3	10	9	
年齢	65～69歳	100.0	8.2	2.5	19.0	5.1	1.9	3.8	12.7	10.8	7.0	57.6	
		158	13	4	30	8	3	6	20	17	11	91	
	70～74歳	100.0	13.4	4.3	32.0	7.1	4.0	2.4	13.0	9.1	11.5	45.8	
		253	34	11	81	18	10	6	33	23	29	116	
	75～79歳	100.0	13.8	3.3	44.3	14.2	6.1	5.3	14.2	11.8	11.0	35.0	
		246	34	8	109	35	15	13	35	29	27	86	
	80～84歳	100.0	10.9	2.6	54.9	18.4	7.9	7.2	10.5	5.9	19.4	26.3	
		304	33	8	167	56	24	22	32	18	59	80	
85～89歳	100.0	10.6	4.0	63.4	17.2	11.6	7.9	9.9	5.6	21.5	21.8		
	303	32	12	192	52	35	24	30	17	65	66		
90歳以上	100.0	6.4	2.3	62.2	15.7	20.9	11.0	11.6	4.1	19.8	19.8		
	172	11	4	107	27	36	19	20	7	34	34		
無回答	100.0	13.6	0.0	36.4	18.2	13.6	18.2	9.1	0.0	22.7	18.2		
		22	3	0	8	4	3	4	2	0	5	4	
うつ	ゆう 分 持 ち な い 気 分 が 沈 む、	はい	100.0	14.8	3.6	53.7	16.2	10.8	7.9	15.1	10.7	26.7	
			749	111	27	402	121	81	59	113	80	153	200
		いいえ	100.0	7.0	2.5	40.5	10.8	6.3	4.9	8.5	4.6	10.4	40.8
		647	45	16	262	70	41	32	55	30	67	264	
	無回答	100.0	6.5	6.5	48.4	14.5	6.5	4.8	6.5	1.6	16.1	21.0	
		62	4	4	30	9	4	3	4	1	10	13	
心 な ら な い 楽 し め な い 興 味 が わ か な い	はい	100.0	15.1	3.7	57.2	17.1	12.2	10.0	16.8	11.7	22.2	21.3	
		591	89	22	338	101	72	59	99	69	131	126	
	いいえ	100.0	8.5	2.3	41.2	11.4	5.9	4.2	8.7	4.8	11.1	41.4	
	809	69	19	333	92	48	34	70	39	90	335		
無回答	100.0	3.4	10.3	39.7	12.1	10.3	1.7	5.2	5.2	15.5	27.6		
	58	2	6	23	7	6	1	3	3	9	16		
生 き が い の 有 無	生きがいあり	100.0	9.7	2.1	42.4	10.3	6.3	6.0	8.7	4.9	12.9	42.1	
		668	65	14	283	69	42	40	58	33	86	281	
	思いつかない	100.0	12.1	4.3	52.7	16.1	11.2	7.2	16.0	9.6	18.8	24.9	
	670	81	29	353	108	75	48	107	64	126	167		
無回答	100.0	11.7	3.3	48.3	19.2	7.5	5.0	5.8	11.7	15.0	24.2		
	120	14	4	58	23	9	6	7	14	18	29		

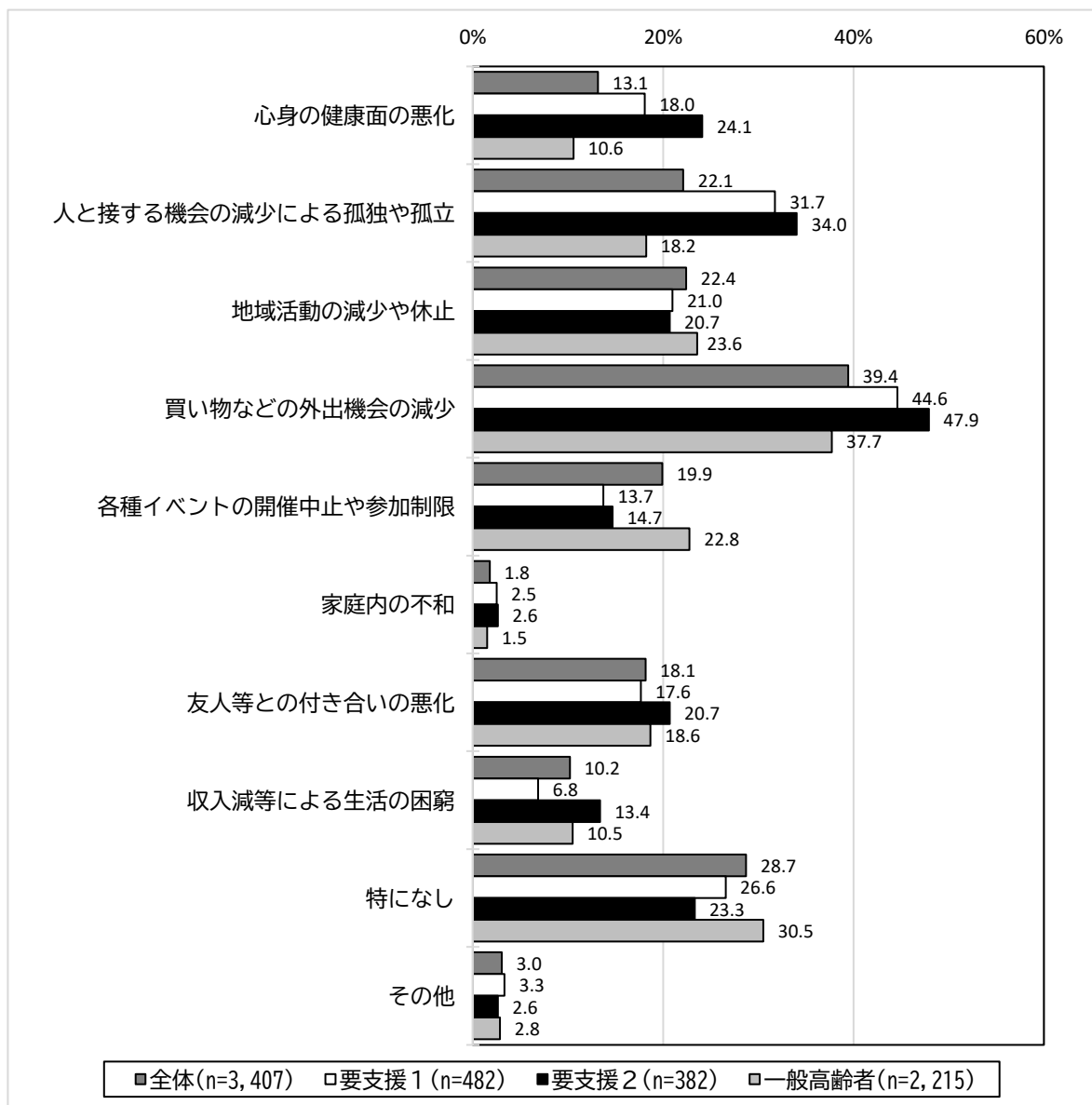
(7) 新型コロナウイルス感染症による影響

全体としては、「買い物などの外出機会の減少」の割合が一番高く(39.4%)、次いで「特になし」(28.7%)、「地域活動の減少や休止」(22.4%)、「人と接する機会の減少による孤独や孤立」(22.1%)、「各種イベントの開催中止や参加制限」(19.9%)「友人等とのつきあいの悪化」(18.1%)と続き、「収入減等の生活困窮」(10.2%)となっています。

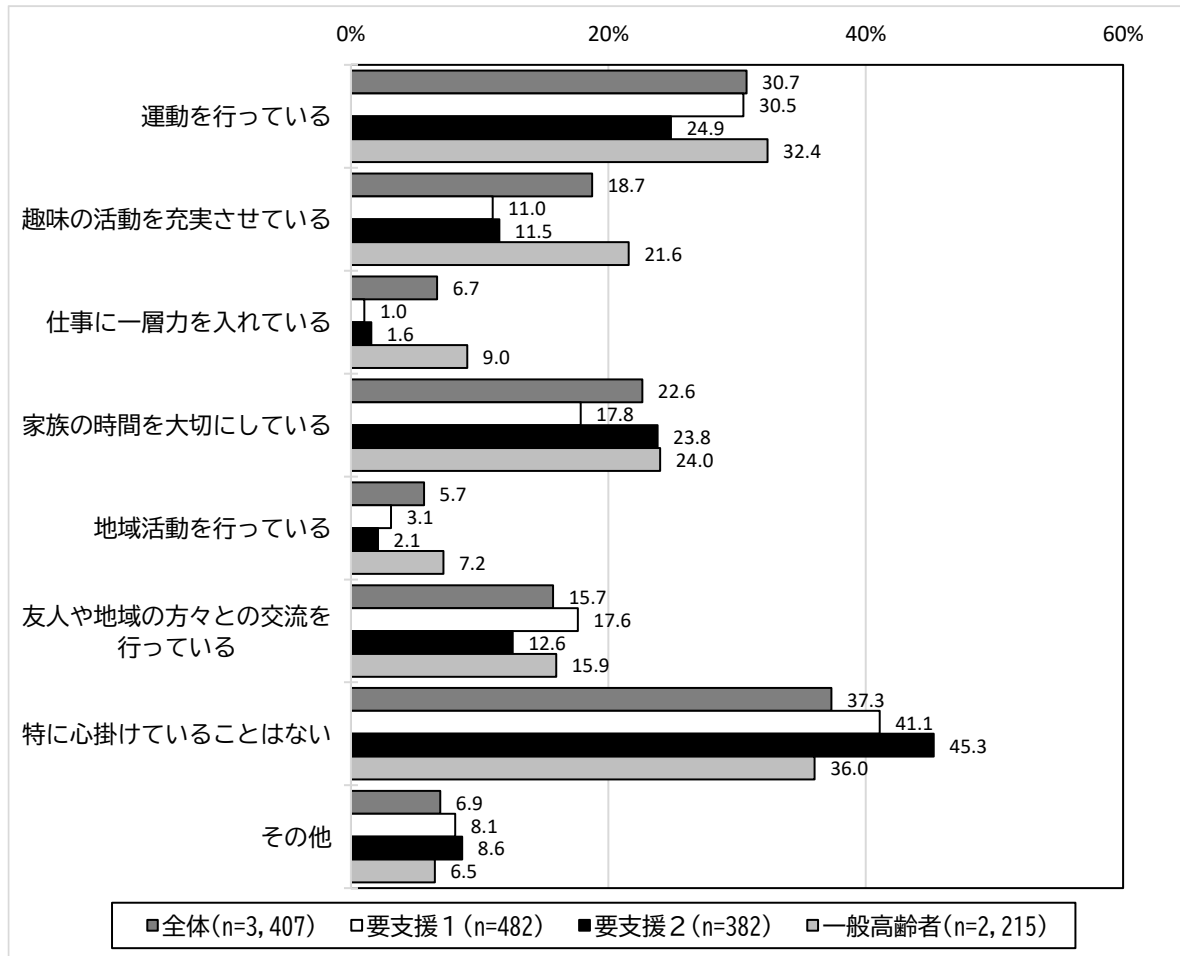
要支援1、2の方は「買い物などの外出機会の減少」「人と接する機会の減少による孤独や孤立」、「心身の健康面の悪化」の割合が、一般の高齢者と比べて高く出ています。

また、コロナ禍の生活で心がけていることについては、全体としては、「心がけていることはない」が4割弱と一番高くなっているが、運動や家族と過ごす時間、友人や地域の方との交流、趣味活動の充実などに努めている方の割合が高くなっております。

【新型コロナウイルス感染症による影響】



【コロナ禍の生活で心がけていること】



○ 調査結果の考察（社会参加）

◆現状

- 健康状態がよい人ほど、趣味、生きがいをもっている人の割合が高い。
- 地域活動への参加状況では、一般高齢者の場合、月・年に数回程度は「町内会・自治会」、週1回以上では「収入のある仕事」の割合が高くなっている。一方要支援者では「介護予防のための通いの場」の割合が高くなっている。
- 地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向では、参加者としての意向は5割弱、お世話役としての参加でも25%程度を占める。
- 1人暮らしの世帯では、他の世帯構成に比べ周囲との関わりを持たない人の割合が高く、地域社会から孤立する可能性が高くなっている。孤立すると社会的役割の低下や、閉じこもり、うつなどのリスクが高まり、健康状態の悪化などが懸念される。
- 地域の健康づくり活動等への参加意向は、参加者として5割弱、お世話役としても4人に1人の意向があるものの、現状での地域活動への参加状況は、これより低い割合となっている。
- 地域活動への参加状況別に健康状態をみると、介護予防のための通いの場を除き、年に数回でも参加している人の方が、参加していない人に比べ、健康状態が『よい』（「とてもよい」＋「まあよい」）割合が高くなっている。
- 外出を控えているかについては「はい」（42.8%）「いいえ」（53.0%）となっている。
- コロナ禍により高齢者にも外出機会や地域活動の減少、友人等人と接する機会の減少による孤独や孤立。収入減等の生活困窮などの影響が表れてきている。

◆前回調査結果との比較

- 趣味をもっている人の割合が（72.2%→64.5%）、生きがいをもっている人の割合が（56.3%→52.0%）と大きく減少している。
- 地域での活動への参加状況では、要支援の方の介護予防のための通いの場や収入のある仕事等についてはやや増加したが、それ以外は概ね減少している。
また、地域での活動への参加意欲は「ぜひ参加したい」（7.4%→5.6%）、「参加しても良い」（41.2%→39.6%）と減少している。
- 周りの人との助け合いでは、心配事を聞いてくれる人、あげる人では、配偶者の割合がそれぞれ（47.1%→34.4%）、（44.1%→32.9%）、と大きく減少している。近隣や友人の割合も減少し、子や親戚などが若干増加している。
病気の時の看病や世話をしてくれる人、あげる人でも、配偶者の割合が（52.2%→36.6%）、（52.5%→38.2%）と、いずれも大幅に減少している。子や近隣、友人の割合が若干増加している。
- 友人や知人と会う頻度について、「毎日ある」（9.6%→7.0%）、「週に何度かある」が（28.7%→25.5%）に減少している。逆に「ほとんどない」の割合は（14.6%→18.9%）に増加している。
- 外出を控えている方は、大きく増加（30.2%→42.8%）している。

◆課題

趣味、生きがいをもっている人の割合、地域での活動の参加状況の割合、友人知人と会う頻度、外出の機会については前回調査時から減少傾向となっている。また、周りの人との助け合いの状況についても、心配事を聞いてくれる人やあげる人の割合として、近隣や友人の割合が減少するなど、コロナ禍による影響が表れているものと考えられる。

個別の課題としては、地域活動への参加状況をみると、現状の参加状況は低い傾向にあるが、

“参加者として”の参加意向をみると、全体の半数近くが『参加意向あり』（「是非参加したい」＋「参加してもよい」）と回答している。また、“企画・運営側として”の参加意向をみると25.8%が『参加意向あり』で、高齢者の4人に1人は参加したい、または参加してもよいと考えていることになる。こうした人たちに対し、参加しやすい環境整備についての取り組みを進めていくことが、今後の課題となる。

また、地域活動への参加意向と健康状態との関連をみると、活動への参加意向がある人は、ない人に比べ健康状態がよい傾向にある。一方、前項でみたように、健康状態が悪い人の中には、特にうつリスク該当者が多いため、これらと地域活動への参加意欲の向上には関連があることが推察される。

これらのことから、健康状態の維持や改善を図ることは、地域活動への参加意欲の向上につながるるとともに、実際に活動に参加している人の方が健康状態が良いことを認識した上で、保健、介護予防、地域の活動がそれぞれに連携した取り組みを進めることが有効であると考えられる。

地域活動や介護予防の参加状況と健康状態には相互に関連性が見られるため、健康づくり、生きがいつくりの観点からも、積極的な地域活動や介護予防等への参加促進を図っていく必要がある。

【今後の取り組み】

高齢者自身に対して

- 高齢者に対し、社会参加の意義、有用性に関する周知を進める必要があり、地域住民、公的機関、医療機関などを通じ、情報提供を進めていく必要がある。特に、家族等を通じた働きかけが少ないと考えられる独居高齢者に対しては、重点的な取組が必要である。
- 特に社会参加の機会が少ない高齢者、社会的役割の低下者については、地域活動等への参加を促し、認知症、うつ、閉じこもりなどの予防につなげていく必要がある。
- 要支援1、2の方はコロナ禍の影響として「人と接する機会の減少による孤独や孤立」、「心身の健康面の悪化」の数値が高く出ており、アフターコロナで回復に取り組む必要がある。

高齢者の家族に対して

- 高齢者の家族についても健康づくりや社会参加に関する有用性の周知を進め、家族ぐるみで、健康づくりや地域活動への参加を促進するための取組を行う必要がある。

地域住民に対して

- 地域活動等の際に声かけを行い、高齢者の積極的な参加を促進するとともに要支援者等でも気軽に参加できる仕組みを作っていくことが必要である。
- 子育て支援等、様々な地域のニーズの「担い手」として、高齢者のマンパワーを活用し、社会参加を促進するような取組を促す必要がある。

4 その他

(1) 身近に高齢者虐待を見聞きしたことがあるか

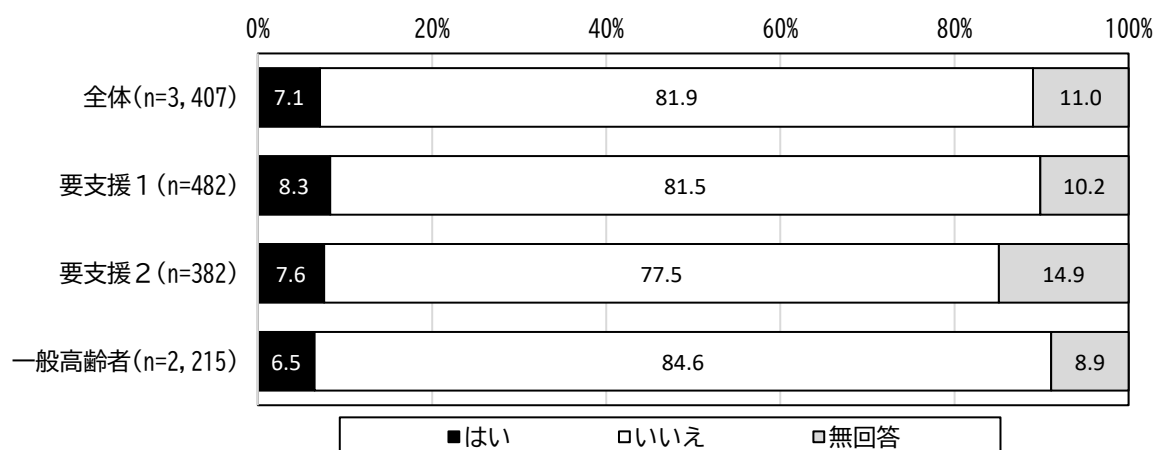
高齢者虐待を身近で見聞きしたことがあるか尋ねたところ、7.1%の人が「はい」と回答しています。また虐待にあたると思われる項目についてお尋ねしたところ「身体に、つねる・たたく・殴る、などの暴力を加える」の割合が最も高く、次いで「高齢者が話しかけても無視したり、本人に対して怒鳴ったり人格などを否定するようなことを言ったりする」となっています。

「年金や預貯金などを本人の同意なく勝手に使ったり、理由もなく使わせなかつたりする」という経済的な虐待にあたる項目については、他の項目と比べ虐待にあたるに答えた方の割合が低くなっています。

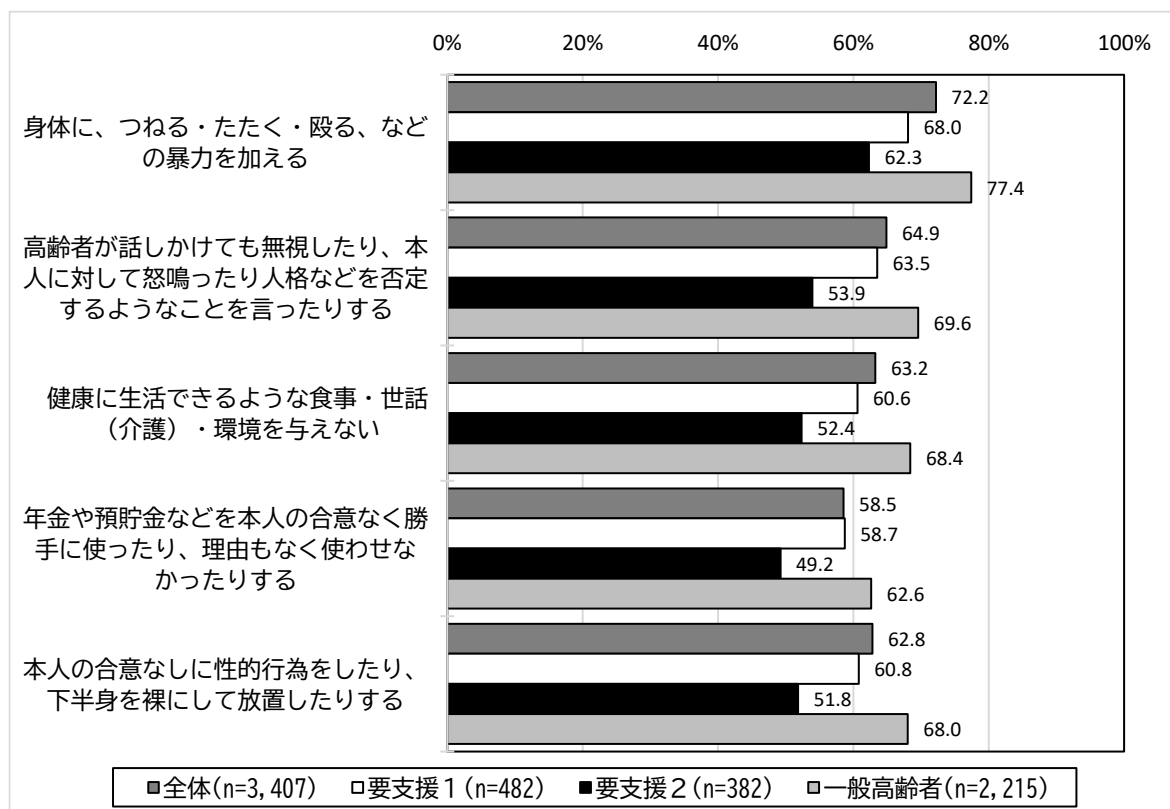
<前回調査結果との比較>

前回調査との比較では、高齢者虐待を身近で見聞きしたことがあるかについて、「はい」と答えた方の割合は7.2%→7.1%とほとんど増減はありません。

【あなたの身近で、高齢者虐待があるという話や実態を見聞きしたことがありますか】



【あなたは、次のようなことが虐待にあたると思いますか】

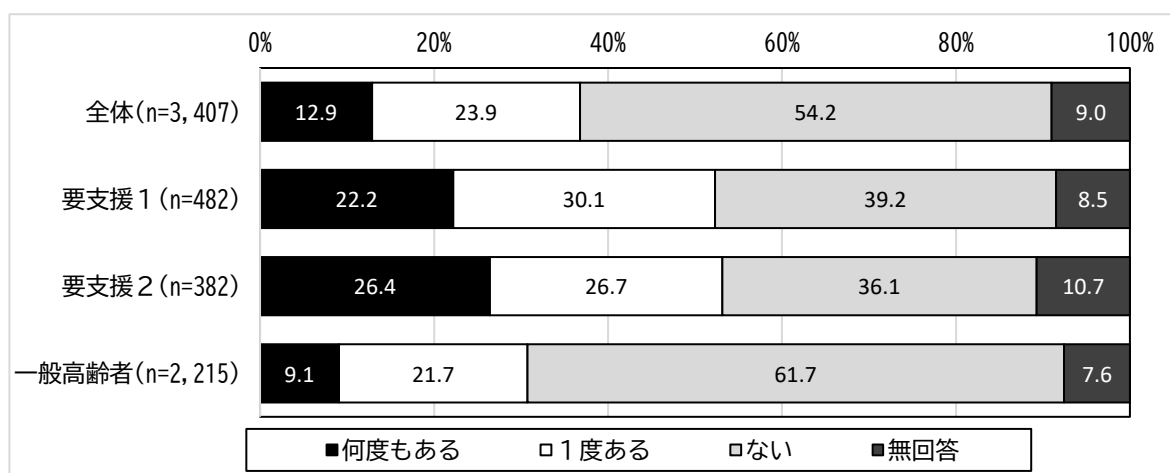


(2) 転倒予防について

過去一年間に転んだことがあるか尋ねたところ、「何度もある」と「1度ある」を合わせた『過去1年間に転んだ経験がある人』の割合は、全体で36.8%、要支援1は52.3%、要支援2は53.1%、一般高齢者では30.8%となっており、身体状態が悪化するにつれ転倒の割合が高くなっています。

<前回調査結果との比較>

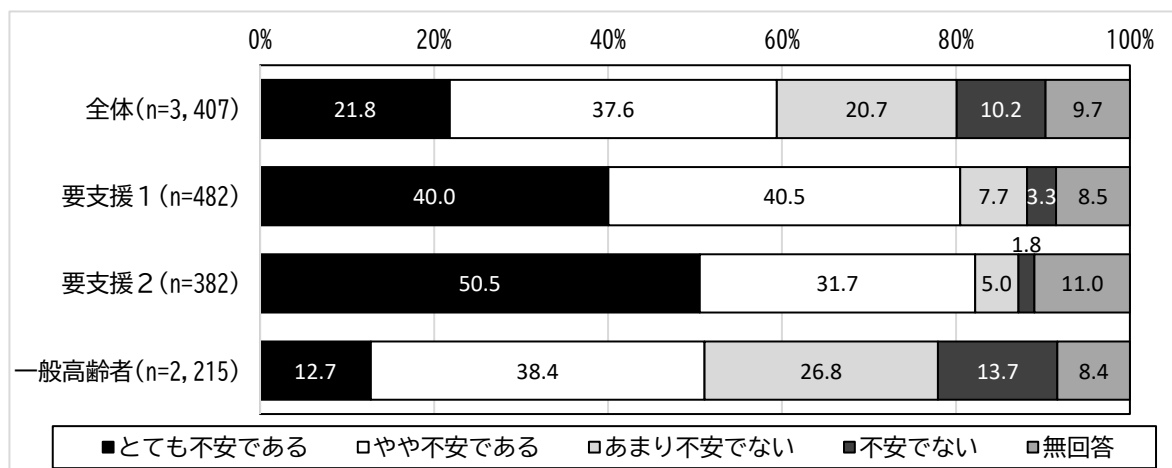
前回調査との比較では、「何度もある」「1度ある」を合わせた「過去一年間で転んだ経験がある人」の合計は、38.4%→36.8%とやや減少しています。



転倒に対する不安について尋ねたところ、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『転倒に対して不安な人』の割合は、一般高齢者で 51.1%、要支援1で 80.5%、要支援2で 82.2% となっており、身体状態が悪化するにつれ割合が高くなっています。

< 前回調査結果との比較 >

前回調査との比較では、「とても不安である」「やや不安である」を合わせた「転倒に対して不安な人」の合計は、55.3%→59.4%とやや増加しており不安感が高まっています。



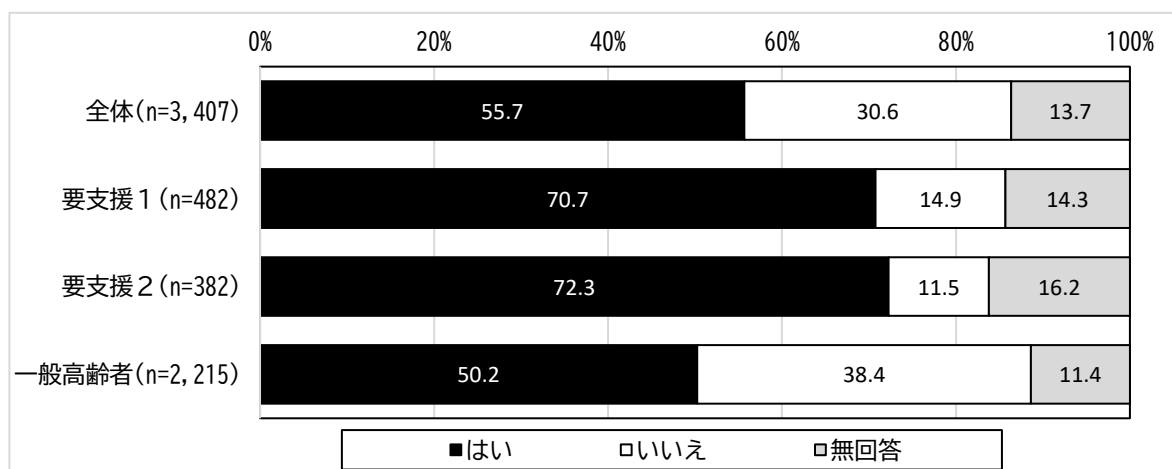
転倒防止のために心がけていることはありますかという問いに対して、一般高齢者は「はい」の割合が 50.2%、「いいえ」の割合が 38.4%となっています。

要支援1、2では、「はい」の割合が7割程度「いいえ」の割合が10%強となっており、身体状態が悪化するにつれ、転倒防止のために気をつけている方の割合が高くなっています。

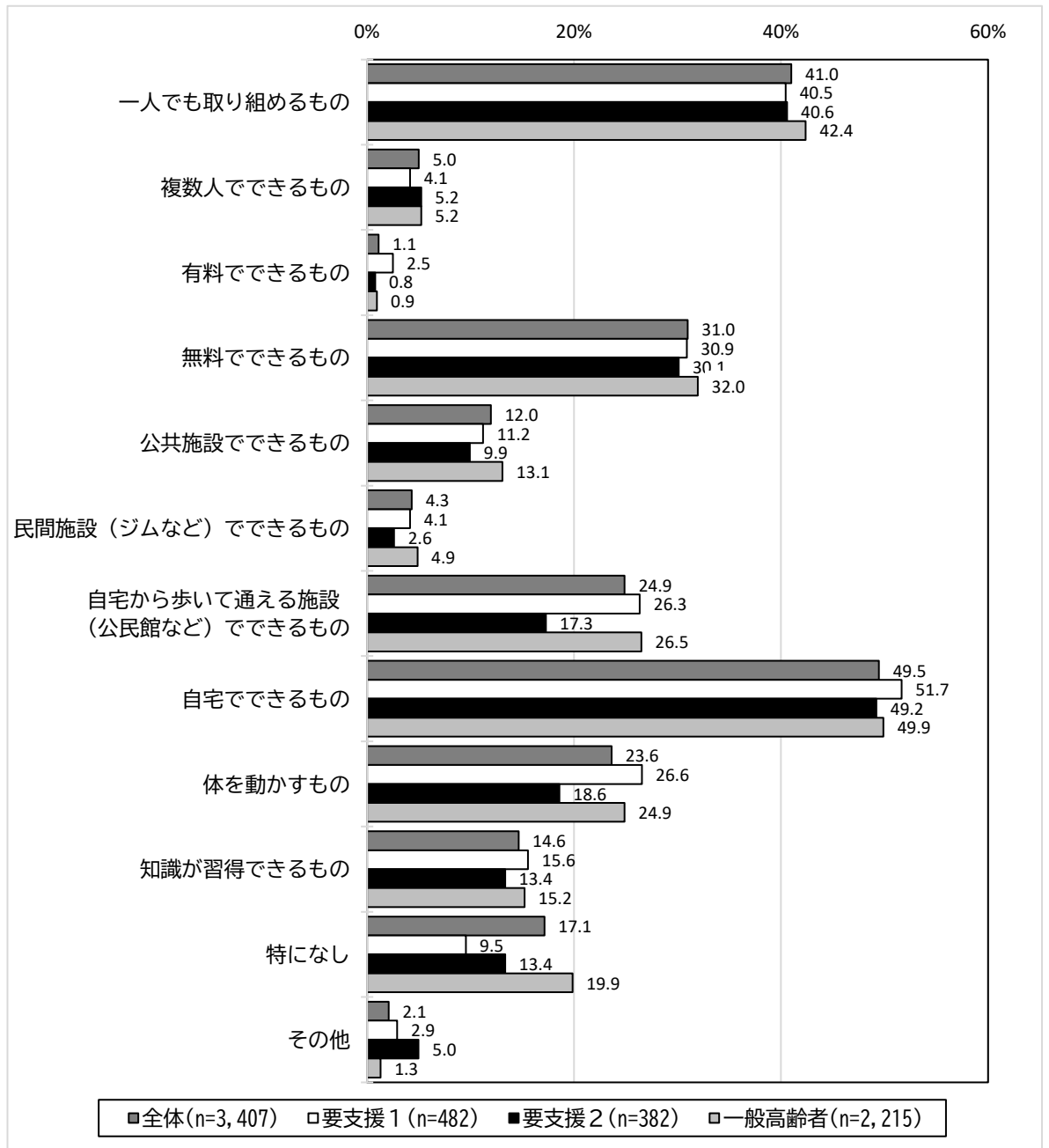
< 前回調査結果との比較 >

前回調査との比較では、心掛けていることはあるかという問いに、「はい」と答えた人の合計は、60.0%→55.7%と減少しています。※無回答者は増加しています。

【転倒防止のために心がけていることはありますか】

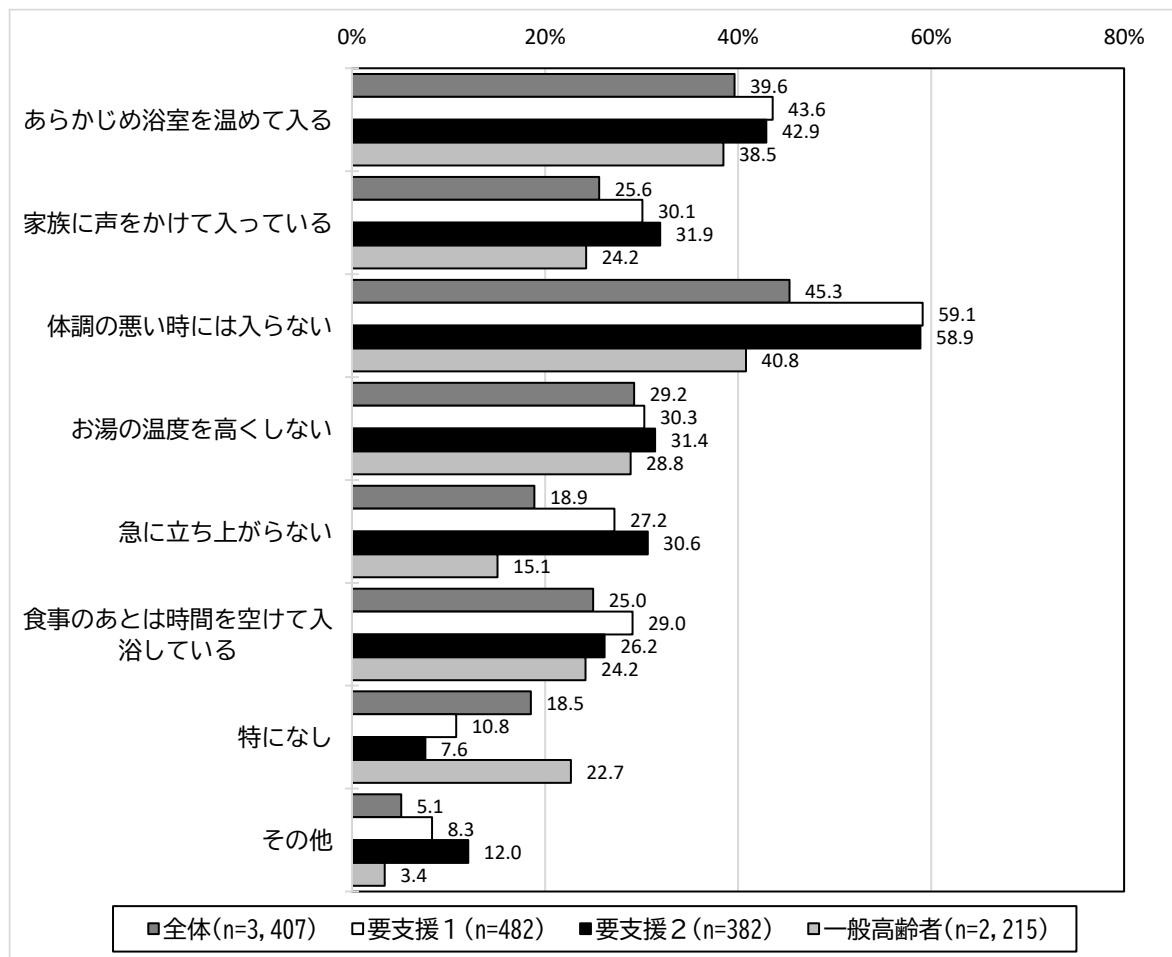


介護予防への取り組みについては、一般高齢者、要支援高齢者による差はほぼでておらず、全体として割合の高いものは、「自宅でできるもの」が5割程度、次いで「一人でできるもの」、「無料でできるもの」「自宅から歩いて通える施設でできるもの」となっています。



(3) 入浴の際の注意について【新規】

・入浴の際に注意していることについて、「体調の悪い時は入らない」、「あらかじめ浴室を温めて入る」等の対策を取っている高齢者は4割に上ります。要支援者は一般高齢者に比べ、各項目とも注意をしている割合が高くなっています。



(4) 災害時の避難について

災害が起きた時に、自力又は家族の協力による避難ができるかをお尋ねしたところ、「できる」と答えた方の割合が、一般高齢者では87.0%、要支援1では、69.7%、要支援2では54.2%となっており、身体状態が悪化するとともに、割合が低くなっています。

「避難行動要支援者名簿」を「知っている」と回答した人は全体の17.8%であり、要支援者の認知度は、一般高齢者よりも低くなっています。

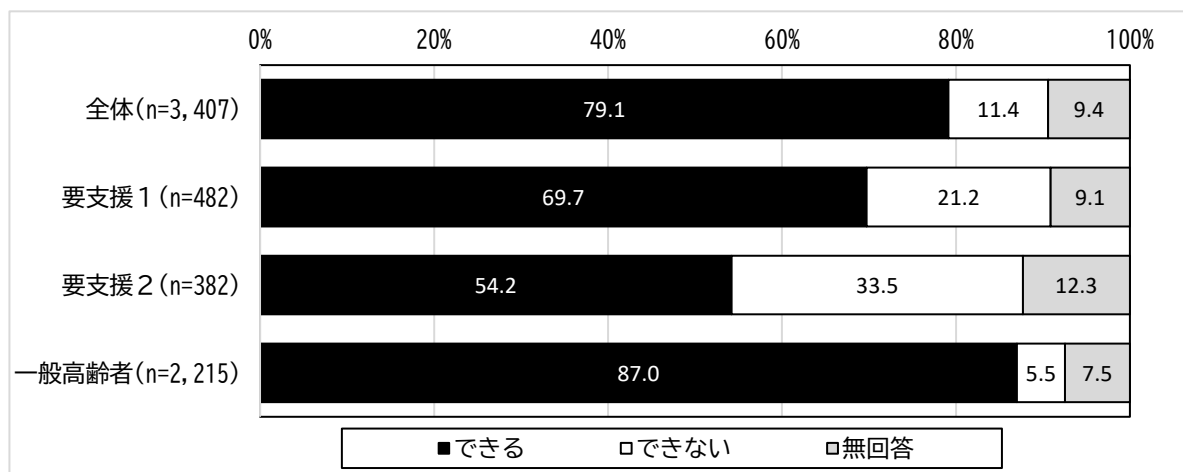
今後、自力または家族の協力による避難が困難になった場合の「避難行動要支援者名簿」への登録の意向については、登録したいと思うかについて、全体では61.4%が「はい」と回答しています。

<前回調査結果との比較>

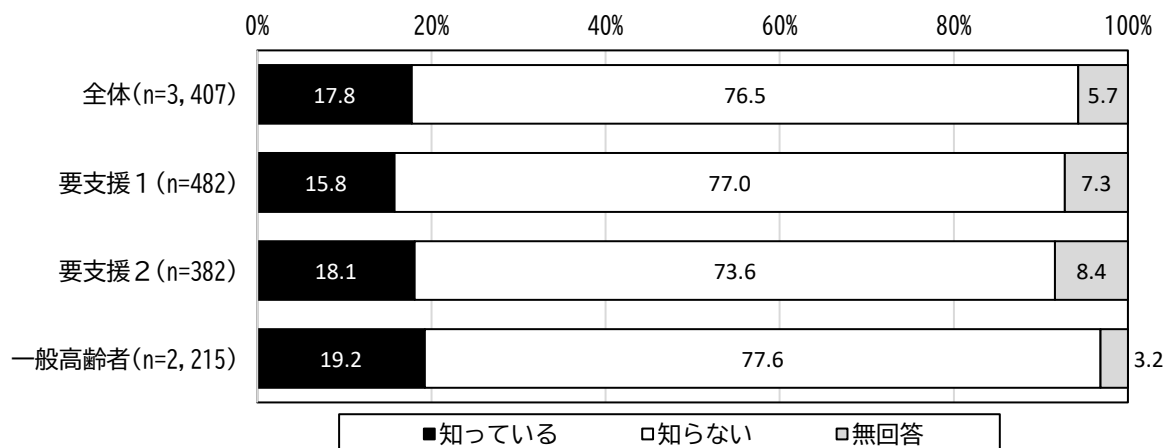
前回調査との比較では、名簿について「知っている」と答えた方の割合は20.0%→17.8%とやや減少しています。

また、名簿への登録の意向については、「はい」と答えた方の割合は63.2%→61.4%とやや減少しています。

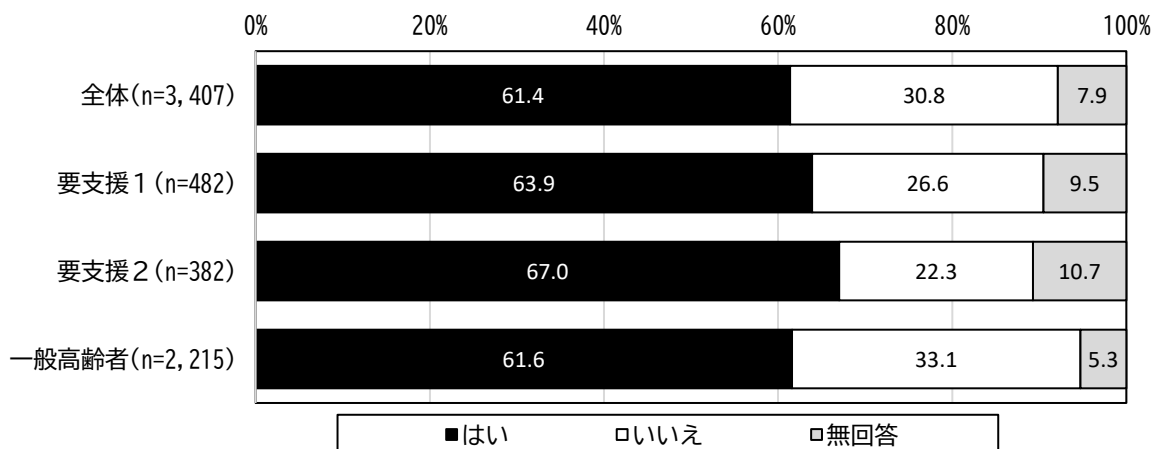
【あなたは、災害が起きた時に自力又は家族の協力による避難ができますか】



【あなたは、「避難行動要支援者名簿」をご存知ですか】



【今後、自力または家族の協力による避難が困難になった場合「避難行動要支援者名簿」に登録したいと思いませんか】



(5) 地域包括支援センターの認知度

住まいの地区を担当する地域包括支援センターの場所や連絡先を「知っている」と答えた方の割合が、一般高齢者で41.9%、要支援2では70.4%となっています。

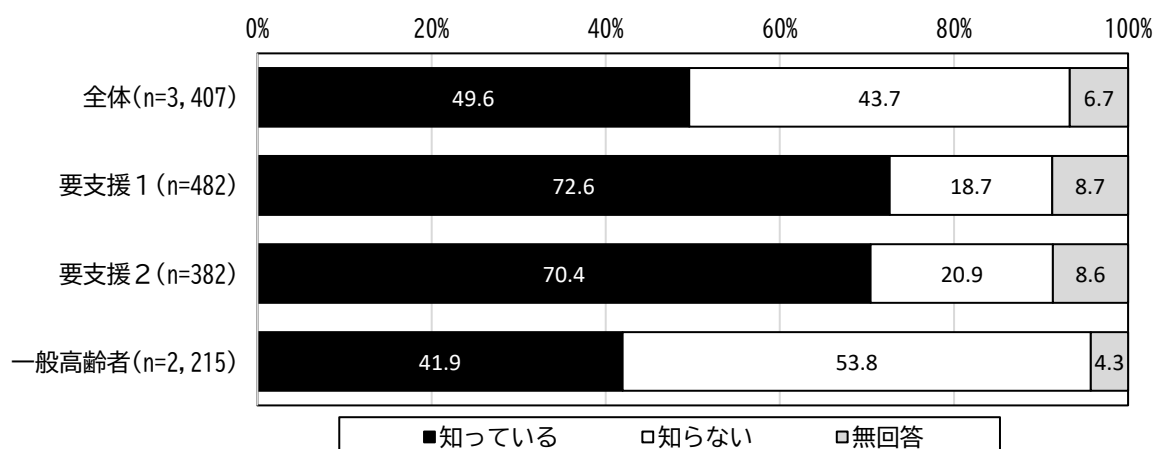
また、地域包括支援センターが、高齢者の総合相談窓口であることについての認知度をみると、全体では47.5%が「知っている」と回答しており、認定状況別では、要支援者の認知度が高くなっています。

<前回調査結果との比較>

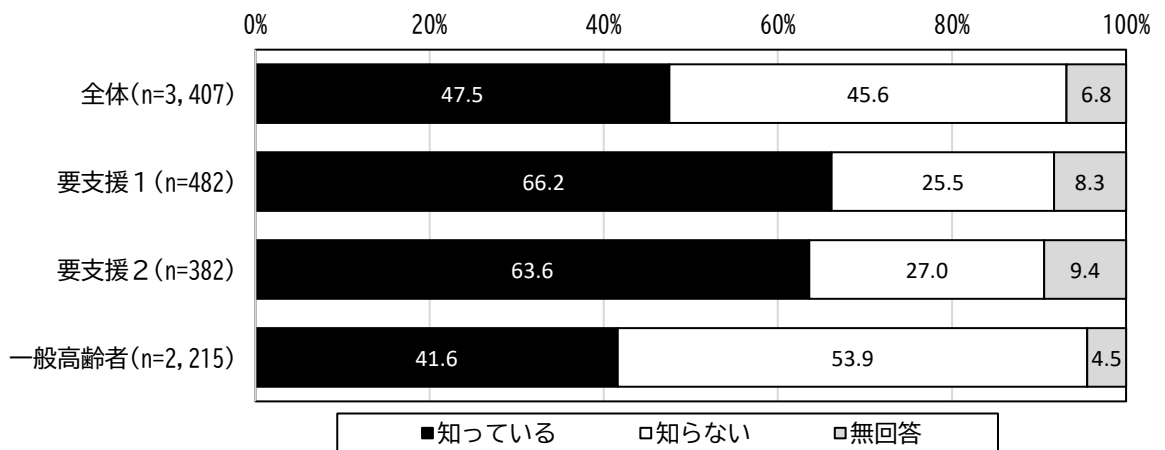
前回調査との比較では、地域包括支援センターの場所や連絡先を「知っている」と答えた方の割合は48.8%→49.6%とやや増加しています。

地域包括センターが、高齢者の総合相談窓口であることについて「知っている」と答えた方の割合は46.6%→47.5%とやや増加しています。

【地域包括支援センターの認知度】



【地域包括支援センターが高齢者の相談窓口であることの認知度】

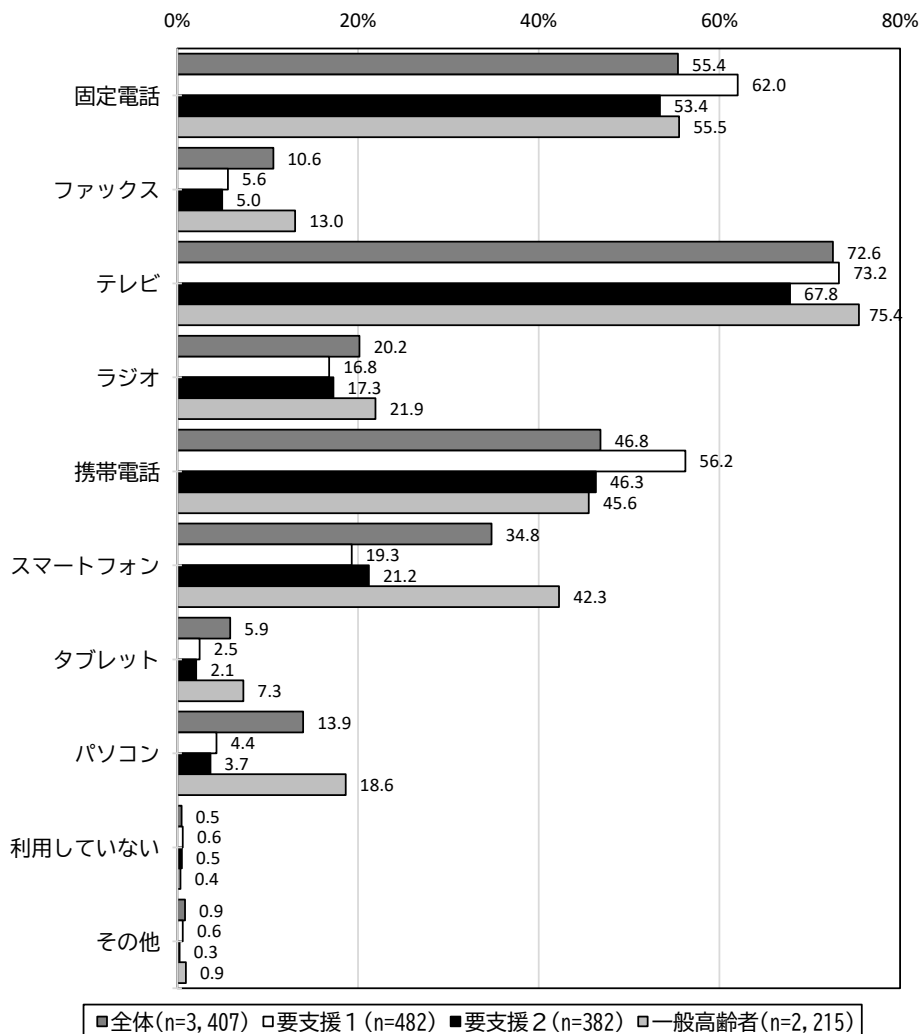


(6) 普段利用している情報通信機器と情報の入手方法

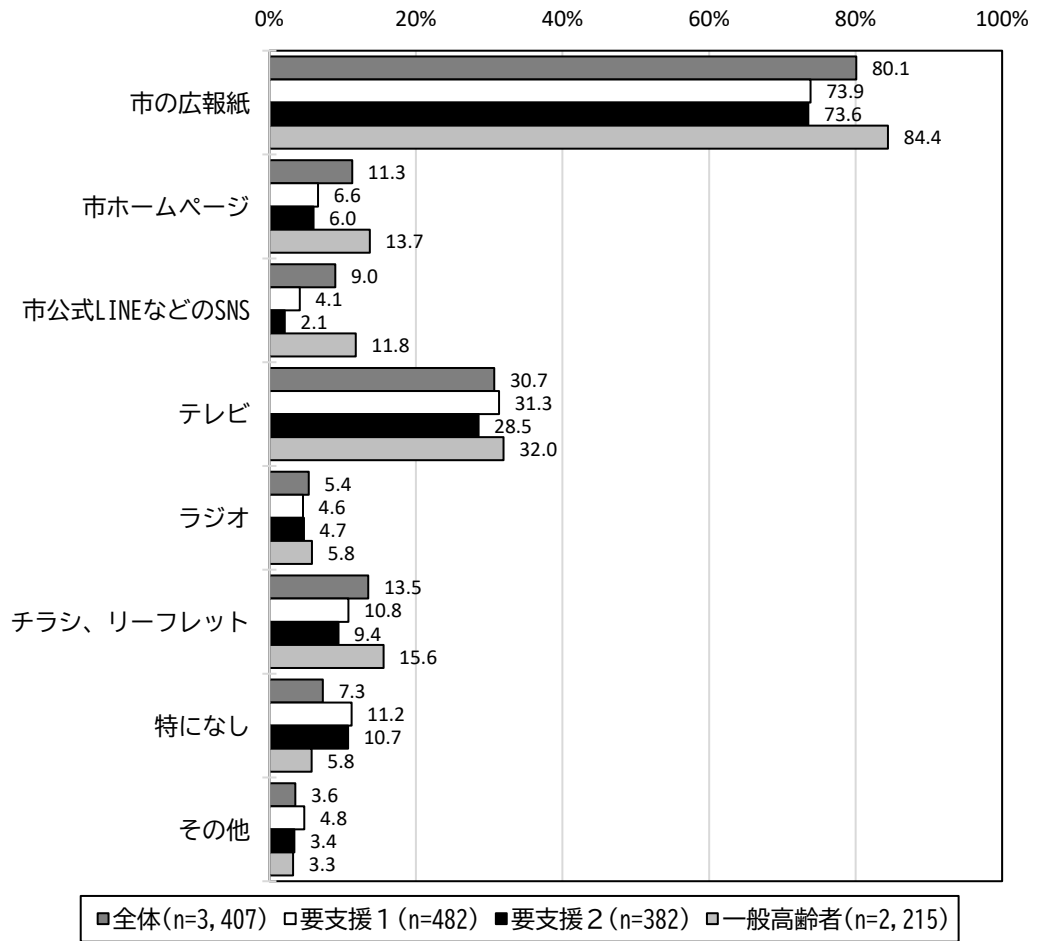
普段利用している情報通信機器としては全体で、「テレビ」の割合が72.6%と最も高く、次いで「固定電話」が55.4%、「携帯電話」が46.8%となっています。スマートフォンは34.8%、パソコン13.9%、タブレット5.9%となっています。

また、行政からのお知らせ等の入手方法では、市の広報誌が、全体で8割以上と非常に高くなっています。一方、「市のホームページ」や「市公式LINEなどのSNS」も1割以上と、一定数みられます。

【普段利用している情報通信機器】



【行政からの情報の入手方法】



○ 調査結果の考察（その他）

◆現状

- 高齢者虐待を身近で見聞きしたことがある人は、1割（7.1％）に満たない。
- 避難行動要支援者名簿の認知度は全体で2割程度であるが、今後の登録に対する意向は6割と高くなっている。
- 地域包括支援センターの認知度については、一般高齢者の半数以上が知らない現状である。
- 情報の入手方法としては、市の広報紙が圧倒的に多くなっているものの、チラシなどの紙媒体に加え、市のホームページや市公式 LINE などの WEB を活用した情報収集も1割以上と、一定数みられる。
- 利用している情報通信機器として、テレビ、固定電話、携帯電話などの割合が高いが、スマートフォン（34.8％）やパソコン（13.9％）などの利用者数もある程度みられる。

◆前回調査結果との比較

- 高齢者虐待を身近で見聞きしたことがあるかについては、大きな差はなかった（7.2％→7.1％）
- 「何度もある」「一度ある」を合わせた「過去一年間で転んだ経験がある人」の合計は、やや減少（38.4％→36.8％）している。
- 避難行動要支援者名簿について、「知っている」と答えた方の割合はやや減少（20.0％→17.8％）しており、名簿への登録の意向については、「はい」と答えた方の割合もやや減少（63.2％→61.4％）している。
- 地域包括支援センターの場所や連絡先を「知っている」と答えた方の割合は、やや増加（48.8％→49.6％）しており、地域包括センターが、高齢者の総合相談窓口であることについて「知っている」と答えた方の割合もやや増加（46.6％→47.5％）している

◆課題

前回調査と比較し、高齢者虐待を身近で感じている人は増加していないが、今後も高齢者虐待に関する正しい知識の普及・啓発を図り、早期に発見し、対応することが重要である。

近年、豪雨災害をはじめとして、様々な自然災害が発生していることに鑑み、避難行動要支援者の支援体制の整備として、要支援者の名簿登録を進めている。高齢者全体として登録への意向は高い一方、認知度はあまり高くないことから、高齢者及びその家族に対する周知が不十分であることが懸念され、今後、さらに認知度を高め、名簿登録を促す取り組みを進めていく必要がある。

高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターについて、要支援者の認知度は6割以上を占めるものの、一般高齢者では「知らない」人が過半数を占めている。前回調査結果と比較して若干増加はしているものの、この間、センターに関する認知状況は、大きく変化していないものと考えられる。今後は高齢者に対し、総合相談の窓口であること等、要支援・要介護認定者以外でも利用できることの周知を進めていくこととともに、周知方法の工夫を図っていく必要がある。

高齢者の情報の入手方法としては市の広報紙やチラシ等の紙媒体の割合が高いが、スマートフォンやパソコンの利用者は一定数みられ、今後も増加するものと考えられる。

今後は、高齢者向けにもスマートフォンやパソコンに関して情報を入手するためのツールとすることはもちろんのこと、WEB を活用した買い物などにも活用することで買い物難民の対策にも有効だと考えられる。高齢者がスマートフォンやパソコンを有効活用できるように、利用に関する教室や講習などを進める必要があると考えられる。

【今後の取り組み】

高齢者自身に対して

- どのような行為が高齢者虐待にあたるのかといった正しい知識の啓発および、自らが被害者となった時の、関係機関への通報、避難方法等について周知を行う必要がある。
- 災害時等に備え、避難行動の確認や、公的機関、地域による支援、避難所等に関する情報の収集や、「避難行動要支援者名簿」の周知、登録を促進する必要がある。
- 地域包括支援センターが、介護に関する窓口だけでなく、高齢者の総合的な相談窓口であることについて、継続的な周知に取り組む必要がある。

高齢者の家族に対して

- 経済的な虐待も含め、どのような行為が高齢者虐待にあたるのかといった正しい知識の啓発を行う必要がある。
- 避難に支援を必要とする方のご家族に対しては「避難行動要支援者名簿」の周知、登録を促進し、災害時に備えた自助、共助の取り組みについて啓発を進め、日ごろから地域での関係性の構築の促進が必要である。
- 地域包括支援センターが、介護に関する窓口だけでなく、高齢者の総合的な相談窓口であることの周知を進める必要がある。

地域住民に対して

- 校区コミュニティ組織や自治会、民生委員・児童委員等と連携し、日ごろからの見守り、支え合い活動への参画を促し、避難行動要支援者の支援体制を構築する必要がある。

その他

- 地域包括支援センターの更なる周知や利用促進に取り組む必要がある。
- 地域包括支援センターや介護サービス提供事業所、医療機関、民生委員・児童委員等と連携し、日ごろからの高齢者の見守りや、支援が必要な高齢者の発見、災害時の支援等のネットワークづくりを進める必要がある。
- 高齢者に対する情報提供については、これまでの広報等の紙媒体については継続して有効活用するとともに、今後、情報弱者、買い物弱者となり不利益とならないように、スマートフォンやパソコンの利用に関する教室や講習などを促進する必要がある。

久留米市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査 調査報告書（分析編）

令和5年3月

発行：久留米市健康福祉部長寿支援課

〒830-8520

福岡県久留米市城南町15番地3

T E L 0942-30-9184

F A X 0942-36-6845